

学生支援本部プロフィール
Student Support Profile

2021



学生支援本部

CONTENTS

挨拶	02	キャリアサポートセンターの活動	30
組織・沿革	03	1. 今年度の特徴「コロナと就職支援」	
		2. 個別相談概要	
		3. イベント一覧	
		4. 進路状況	
		5. 国際学生の進路状況	
センター紹介	04	アビリティ支援センターの活動	39
学生相談センター／Student Counseling Center	05	1. 個別相談概要と特徴	
キャリアサポートセンター／Career Support Center	07	2. その他	
アビリティ支援センター／Ability Support Center	09		
ピアサポート／Peer Support	10		
2020年度 学生支援活動報告	12	ホームカミングデイ企画(同窓会支援事業)報告	42
はじめに 2020年度コロナ禍における学生支援活動		1. ホームカミングデイ企画主旨	
		2. 講演「withコロナ, 大学生とのコミュニケーションを考える」	
		3. 保護者の経験談	
		4. 分科会報告	
		5. アンケートとまとめ	
大学の活動方針年表	13	その他	45
		・講義担当	
		・主な講演	
		・その他の主な学外イベント	
		・東海国立大学機構における岐阜大学との学生支援連携	
センター全体の個別相談実績	15		
全学学生を対象とした活動	16		
・卒業生を中心とした寄付による学生への食料支援			
・秋学期に向けての3企画による支援			
・秋学期における2企画による支援			
・「総長カード」について			
・SNSによる支援			
・FD活動			
2020年度に掲載されたメディア関係	23	巻末付録 2020年度コロナ関連論文	47
学生相談センターの活動	24	学生支援本部スタッフ一覧	裏表紙
カウンセリング・教育連携室	24		
メンタルヘルス支援	28		
共修推進	29		

ご挨拶

学生支援本部長 佐久間淳一



名古屋大学学生支援本部は、2021年4月1日付で学生支援センターが改組されて発足した新組織です。もともと、学生支援センター自体、2019年4月に発足したばかりの組織ではありますが、新型コロナウイルス感染症の拡大が学生の心身の健康に深刻な影響を及ぼす中で、学生支援の重要性、とりわけ一次支援を強化する必要性があらためて認識されるに至ったことから、学生支援体制の一層の強化を企図して、更なる改組を行うこととなりました。この間、2020年4月には東海国立大学機構が発足しましたが、この改組によって、学生支援における岐阜大学との連携にも、一層強力な体制で臨めることとなります。

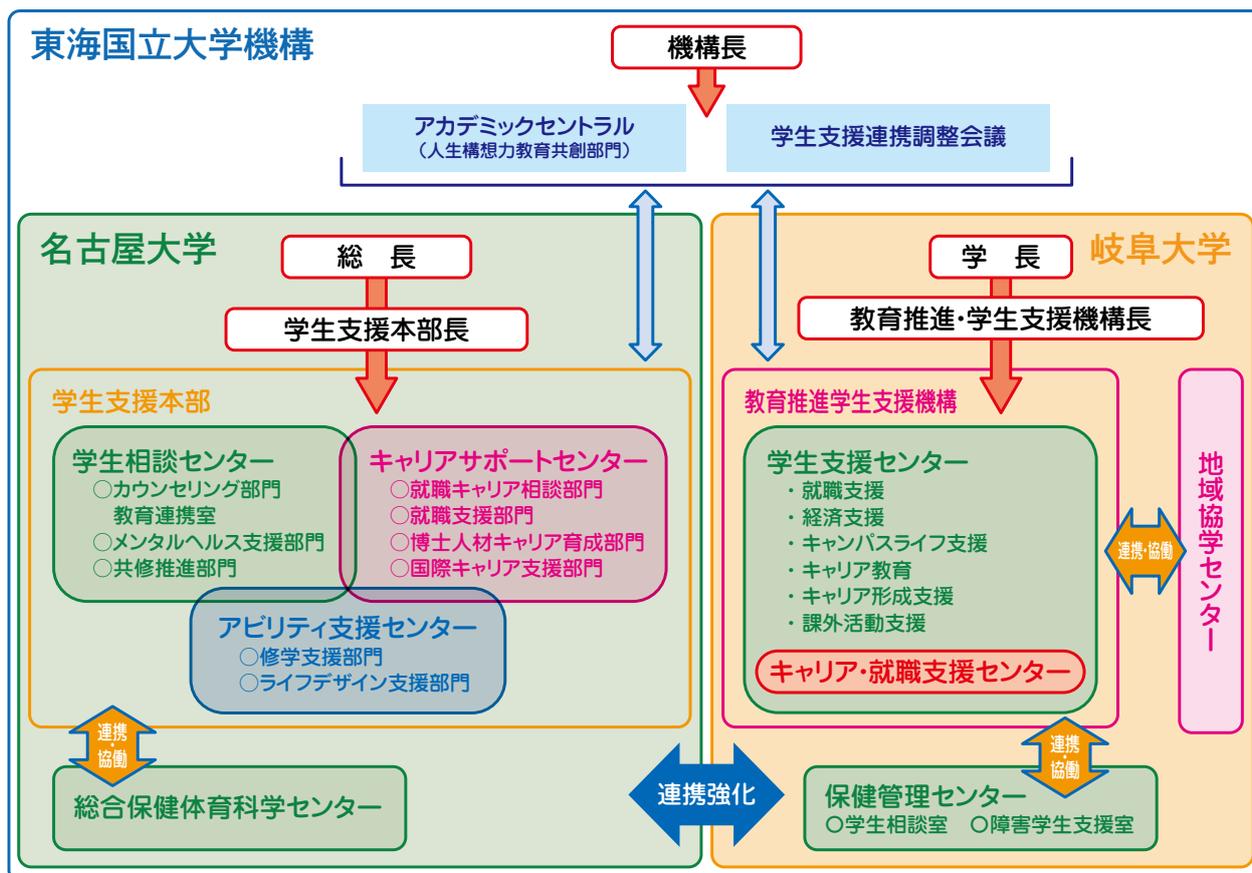
国立大学法人法第22条には、国立大学法人の業務として「学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと」が二番目にあげられています。本学でも、以前より学生に対する相談や援助への取組は積極的に行っており、学生支援センターの前身に当たる、2001年設立の学生相談総合センターでは、学生相談部門、メンタルヘルス部門、就職相談部門、障害学生支援室が連携しながら学生対応ならびに支援に当たってまいりました。しかし、新型コロナウイルスの出現以前から、来談学生が増加するとともに、相談内容も多様化する傾向があったこと、また、留学生の増加に伴い、日本人、留学生を問わず、適切な支援を提供する必要性が高まったことなどから、部門間及び留学生受入部門との連携を強化する必要が認識されるようになり、それを受けて設置されたのが、学生相談・共修推進室、キャリアサポート室、障害学生支援室の3つの室から構成される学生支援センターです。今回、学生支援センターをさらに学生支援本部に改組するに当たっては、学生相談・共修推進室は学生相談センターに、キャリアサポート室はキャリアサポートセンターに、そして、障害学生支援室はアビリティ支援センターに変わるようになりますが、「室」から「センター」への名称変更は、単なる看板の架け替えではありません。学生支援本部では、各センターがセンター長の指揮の下、より自律的、機動的に現実のニーズに対応することができるようになる一方で、名古屋大学副総長が兼務する本部長が、現場を代表する副本部長と共に3つのセンターを統括することによって、入学から卒業まで一貫した学生支援体制の実質化が可能となり、これによって、20年来の歩みの一つの到達点とも言える学生支援体制が実現することになります。なお、障害学生支援室については、単に障害に配慮するだけでなく、多様な学生が個性を發揮し、生涯にわたるウェルビーイングの向上につながる支援を実現するという意味合いから、「アビリティ支援」センターと改称することにしました。

学生支援センターが学生支援本部に改組されて、学生支援の強固な足場ができたとはいっても、学生支援本部だけで、学生が必要とする支援のすべてを行えるわけではありません。学生が所属しているのはそれぞれの部局であり、学生の状況を直接知り得るのは部局の教員です。悩みや不安を抱えた学生が、直接学生支援本部に相談に来る場合もあるでしょうし、また、学生支援本部では、相談に来ない学生の中から実際には悩みや不安を抱えている学生を見つけるための取組も行っていますが、部局及び部局の教員の協力なしで、学生の実情を十分に把握し、一次支援を強化することは困難です。他方、学生が悩みや不安なく勉学や研究に取り組めることは、学習や研究の成果につながるわけですから、学生の学びの場としての大学にとって、学生支援の充実、教育の高度化や研究の振興と並ぶ重要課題であることを、大学としてあらためて認識することも肝要です。

このように、学生支援は、それをもっぱら担当する組織だけが担うのではなく、全学的な方針の下、学生支援組織と部局が手を携えつつ大学全体で取り組んでいくものでなければなりません。大学には様々な組織がありますが、その中でも重要課題を担う組織は、「本部」なり「機構」なり、それに相応しい名称を持っています。ですから、このたび、学生支援を担う組織の名称に「本部」が入ったことは、本学における学生支援の充実、強化に向けた大きな一歩であることは間違いありません。もちろん、時代の流れとともに、必要な学生支援の中身も変わっていきますし、新型コロナウイルス感染症の拡大が、大学における学生支援のあり方に大きな課題を突きつけたことも確かです。そのため、今後も、必要な体制面の見直しは行っていかなければなりません。それは走りながら考えていくほかありません。

本プロフィールで紹介されているのは令和2年度の学生支援センターの活動状況ですが、学生支援本部では、新型コロナウイルス感染症への対応の経験も踏まえて、学生支援の一層の充実を図ってまいりますので、関係者の皆様方におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

組織図



沿革

- 1956年 学生部により、週2時間の学生相談が開始される。
- 1964年 学生相談室が設置される(兼任相談員1名)。
- 1970年 学生相談室に助手1名が着任。
- 1971年 保健管理センターが設置され、講師1名(精神科医)が着任。
- 1985年 学生相談室の相談員が2名体制になる。
- 1993年 留学生センター内に指導相談部門が設置される。
- 1997年 学務部厚生課内にて週2回の就職相談が開始される。
- [2000年 文科省「大学における学生生活の充実方策について -学生の立場に立った大学づくりを目指して-」報告。]
- 2001年 学生相談、メンタルヘルス支援、就職相談を統合し、学生相談総合センターが設置される。
- 2004年 就職支援室が設置される。
- 2006年 工学部7号館に本部2号館プレハブ棟より移転。
- [2007年 JASSO(学生支援機構)「大学における学生相談体制の充実方策について」報告。]
- 2010年 障害学生支援室が設置される(職員1名)。
- [2013年 障害者差別解消法成立。]
- 2013年 障害学生支援室に特任講師1名が着任。
- 2013年 10月、国際教育交流センターアドバイジング部門が設置される。
- 2018年 就職支援室からキャリア支援室に名称変更。
- 2019年 学生相談総合センター(教育研究組織)から学生支援センター(運営支援組織)に改組。
- 2020年 工学部7号館から学生支援棟(旧職員クラブ)へ移転。
- 2021年 4月、学生支援センターから学生支援本部(運営支援組織)に改組。

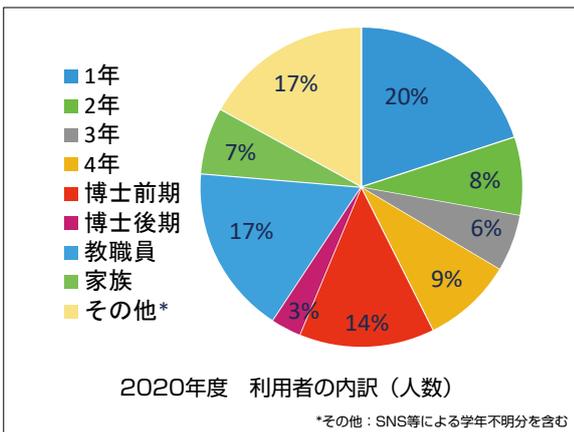
センター紹介

カウンセリング部門
Counseling Division

- ・ カウンセリング部門は、臨床心理士等による学業・進路・対人関係といった学生生活上の悩みや課題について援助・助言を行います。
- ・ 全学学生のこころの健康や心理的成長について縦断調査を実施し、学生支援に活用しています。
- ・ こころの緊急支援を各部門や部局と連携して行います。
- ・ 個別相談以外にも、各種グループ活動（ゲームの会、読書の会、留年生の会）を実施し、話すことが苦手な学生に対する支援を提供します。
- ・ 学生相談サポーターの活動を指導しています。
- ・ 大学院生や新入生を対象とした心理教育を行っています。
- ・ 教職員を対象としたFDを実施しています。

【相談例】

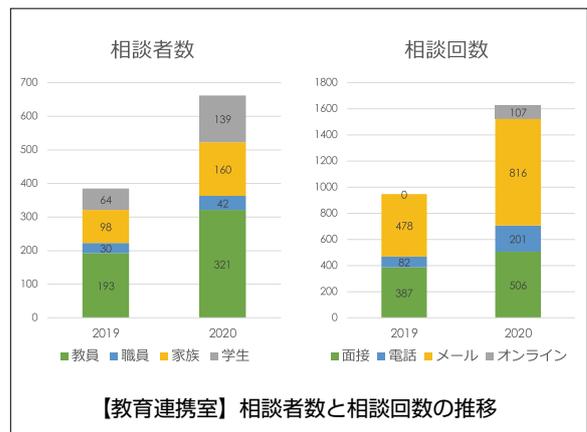
研究室における対人関係の悩み、友達関係や家族関係の悩み、講義や研究に対する無気力感、不登校や休退学、留年、進路変更、将来の不安、性的こと、しつこい勧誘、など。



教育連携室

Faculty Consultation Office

- ・ 教育連携室は、2名の臨床心理士が教職員・保護者（家族）専用の窓口として、学生にまつわる問題解決や学生の成長・発達の援助・助言を行っています。
- ・ 援助に際しては関係者（教職員・家族・各部局・内外の支援者・学生支援本部の各センター）との連携・協働を重視し、そのための支援も行っています。
- ・ 心理教育・グループ活動
「いこまいセミナー」「ウェルネスセミナー」「新入生特別講義」など学生・教職員を対象とした各種心理教育プログラムと、「いこまいプロジェクト」など学生の健康と成長へのチャレンジを支える活動を実施しています。
- ・ FD研修・コンサルテーション
部局や研究室を対象とした各種FD研修・コンサルテーションを実施しています。
- ・ 全学学生のこころの健康や心理的成長について縦断調査を実施し、学生支援に活用しています。
- ・ こころの緊急支援を各部門や部局と連携して行います。
- ・ 相談例
学生のメンタルヘルス、不登校、適応、障害、無気力、休退学、留年、進路、指導、大学・研究室における人間関係、チーム・組織活性化、スキルアップに関してなど、学生にまつわることは何でも相談を受け付けています。



【教育連携室】相談者数と相談回数の推移

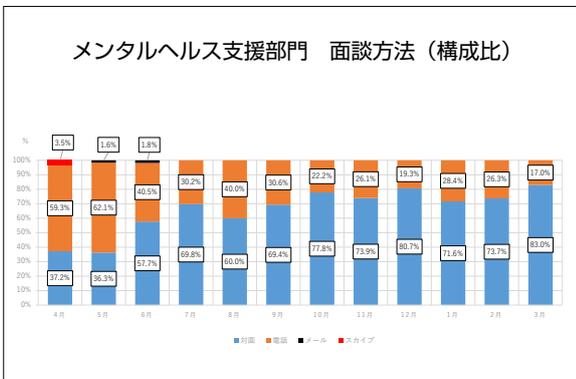
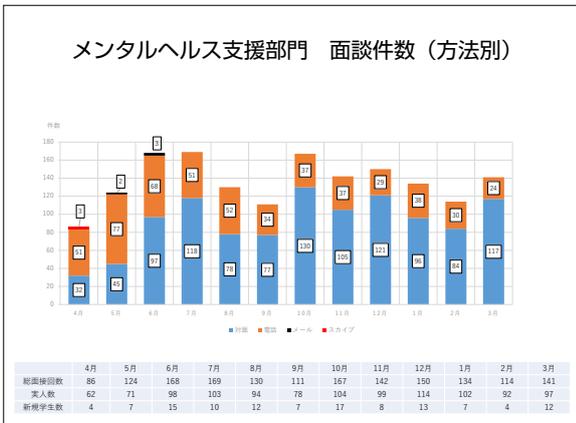
学生相談センター Student Counseling Center

メンタルヘルス支援部門
Mental Health Division

- ・メンタルヘルス支援部門は、3名の精神科医が学生の診察、精神療法などを担当し、薬剤の種類は限られませんが簡単な処方（保健管理室）も行っています。
- ・保健管理室が行う健康診断を用いたスクリーニングによる早期介入、他の相談部門や外部医療機関との連携によるメンタル相談も行っています。
- ・コレクション自慢の会
それぞれの趣味やコレクションについて自由に語り合うことを通じ、参加者のみなさんの交流を深めていくことを目的とした会を月に一度の割合で開いています。

【相談例】

抑うつ・不安といった症状から、大学へいけない、対人関係の悩みなど幅広いです。学生の他にも、学生の指導にあたる教員および保護者の対応方法についての相談も行っています。



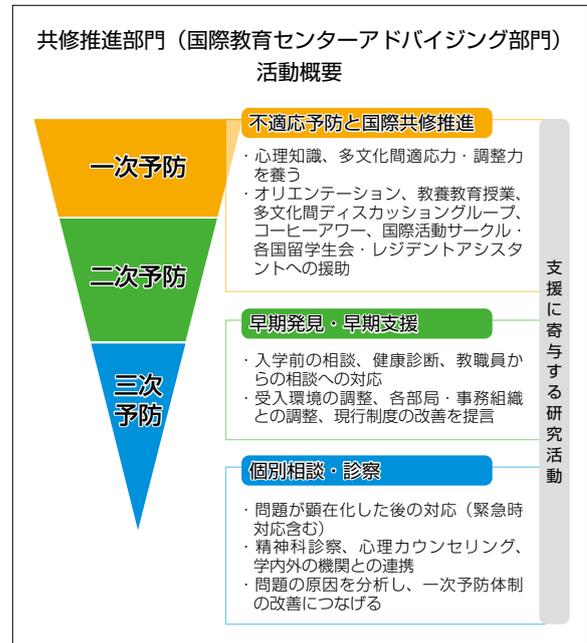
共修推進部門
Inclusive Learning Division

- ・共修推進部門は、国際教育交流センターアドバイジング部門の教員4名が兼務しており、留学生などの国際学生や日本人学生等、多様な文化背景を持つ学生たちと協力しながら、多文化共修・協働環境の整備にあたっています。
- ・精神科医による診察や治療、心理士によるカウンセリング、国際教育アドバイザーによる相談、学生組織との連携により、国際学生の新しい環境への適応を支援しています。

【相談例】

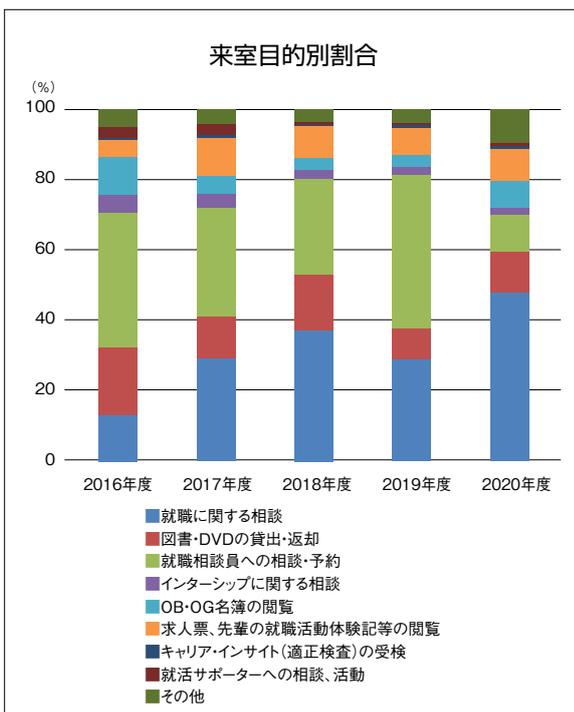
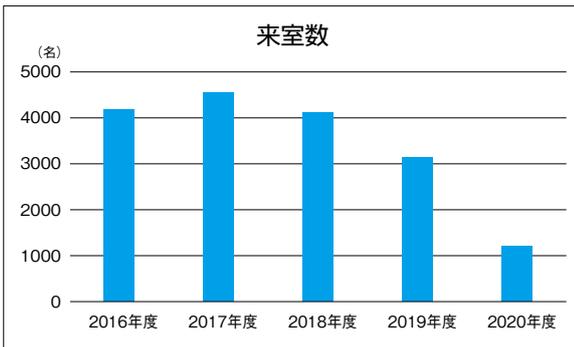
精神健康に心配がある、新しい環境に慣れるのが難しい、人間関係に悩んでいる、日本の福祉制度を利用したい、学内外で様々な人々と知り合い交流したいなど。日本語と英語で相談に対応しています。

【活動概要図】



就職支援部門 Career Support Division

- ・就職活動やインターンシップ、進学に関する相談および情報提供を行います。将来を考えるきっかけを提供すべく低学年から参加できる全学年対象のキャリア支援企画、具体的な就職活動期を支援する就職活動支援企画など時期に適した多彩なイベントを開催しています。
- ・情報提供では、就職資料コーナーを設け、各種ガイドブック、先輩たちの就職活動を記載した就職活動体験記、OB・OG名簿の閲覧、職業適性診断システム（キャリアインサイト）等、就活する学生が自由に活用できるようにしています。また、求人票の閲覧・検索、イベント予約、個別相談予約、進路決定報告の入力、キャリアサポートセンターの来訪企業の確認等ができるシステムを構築し、学生の利便性を図る支援を行っています。



就職キャリア相談部門 Career Counseling Division

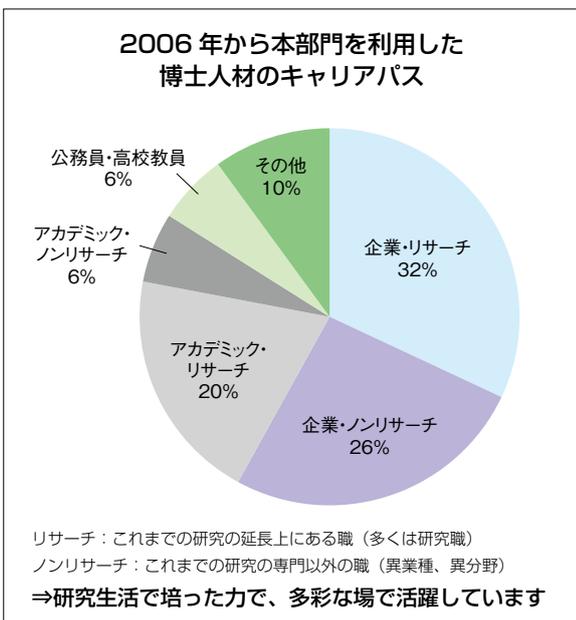
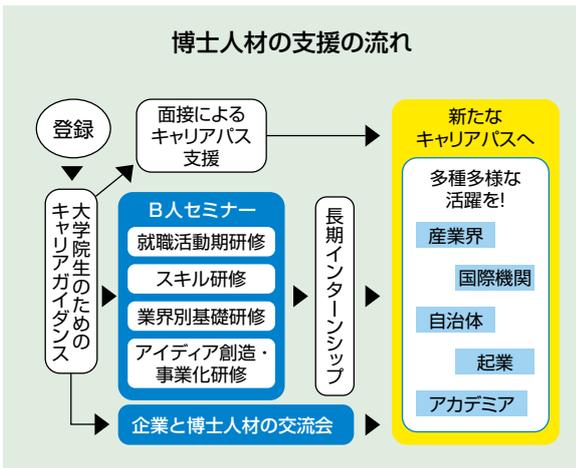
- ・3名のキャリアカウンセラーがインターンシップや就職活動上での面接対策やエントリーシートの書き方、企業選択、就職活動の方策から進路に関することまで年間を通じて丁寧に対応しています。また、進学や就職、大学を卒業あるいは修了後の人生に関する悩みや不安、課題などについて、継続的なカウンセリングを行っています。カウンセリングを通じて学生本人が今自分が何をすべきかなど見つめ直す、または新たな発見など社会へ育つ支援を行っています。
- ・学内インターンシップ（ワークエクスパリエンス）の実施や学外就労支援専門機関と連携し、障害圏域の学生に就業経験を通じて自己理解の醸成や就業への橋渡しも積極的に実施しています。
- ・個別相談以外に、就活サロンやステップバイステップなど、集団相談会やグループワークを開催し、時期や学生の特性に合わせた進路獲得支援を展開しています。
- ・同時に様々な学部・研究科等とガイダンス講義や就職支援講座開催で協同しており、このネットワークを通じて教職員から支援が必要な学生の紹介の輪がひろがっています。
- ・進路決定した学生による就活生支援グループ「就活サポーター」の活動支援・指導を行っています。



キャリアサポートセンター Career Support Center

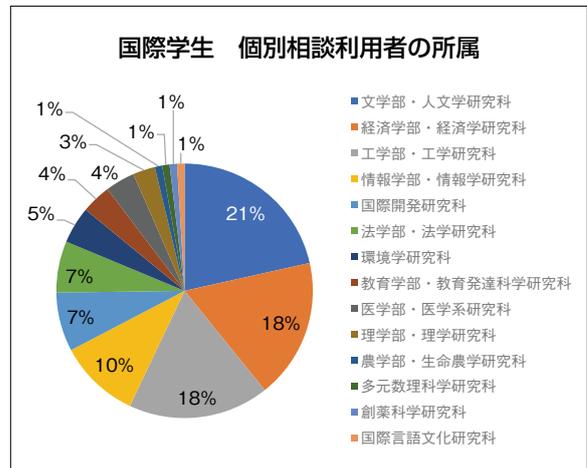
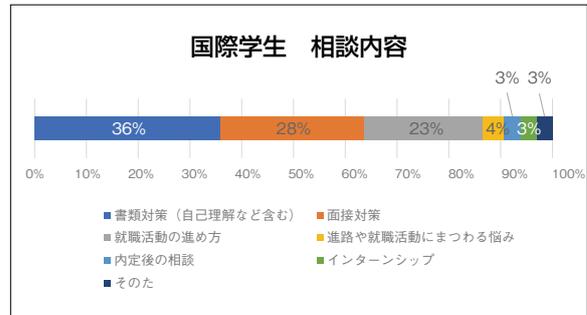
博士人材キャリア育成部門
Doctoral Student Division

- ・博士課程教育推進機構 キャリア教育室と連動しています。
- ・博士後期課程学生やポスドク（博士人材）や博士後期課程に進学希望の学生を中心としたキャリアパス支援をしています。
- ・キャリアガイダンス、個人面談を中心に、キャリア形成の講義、セミナー、博士のインターンシップ、企業との出会いの場である「企業と博士人材の交流会」を開催しています。
- ・専門性はもちろん、多様な能力を培ってきたのが博士人材です。アカデミックポジション以外にも、多彩な業界や職で活躍するのを支援しています。
- ・相談希望者は（HP=<https://dec.nagoya-u.ac.jp/career/>）よりオンライン登録をしてください。



国際キャリア支援部門
International Student Division

- ・外国人留学生や海外留学経験のある国内学生に向けて、就職支援・キャリア形成支援を行っています。
- ・個別キャリア相談、キャリアランチ交流会（グループカウンセリング）をはじめ、企業と連携した課題解決学習（グローバルビジネスワークショップ）、日本企業や日本のワークルールを知るための教育、合同企業説明会、インターンシップなど、年間を通じて様々な教育機会を提供しています。
- ・卒業後の進路相談、とくに日本企業への就職を目指す皆さんが直面する不安や疑問に、丁寧にお答えします。
- ・留学生のための就職ガイダンスをご希望の方は、キャリアサポートセンターへお問い合わせください。



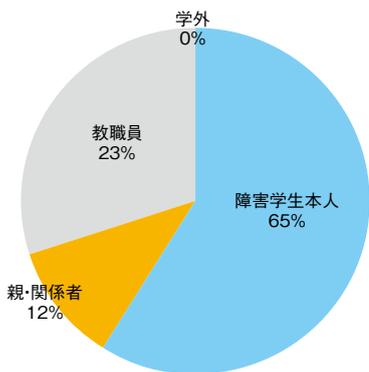
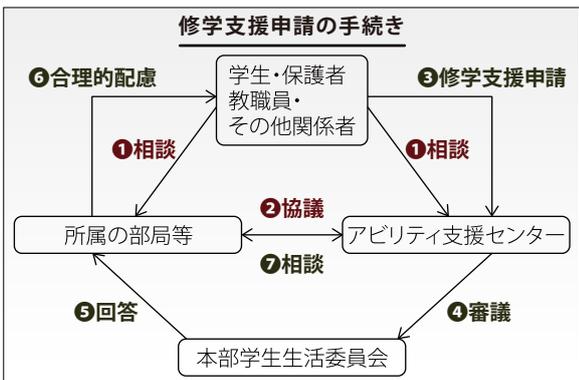
修学支援部門

Academic Learning Division

- ・アビリティ支援センター修学支援部門では相談員（准教授、障害者支援専門職、障害学生支援コーディネーター）3名が、障害のある学生と所属部局等を対象に、障害の有無に関わらず、その能力を適切に発揮できるような修学支援にあたっています。
- ・活動の1つは、どの学生にとっても使いやすいキャンパス作りのためのユニバーサルデザイン化を推進することです。もう1つは、それぞれの学生の個別の困難に応じた修学上の調整である、合理的配慮の提供に関する支援を行うことです。
- ・修学支援を行う学生サポーターを育成するために、障害学生支援レクチャーシリーズ、修学支援スキル講習会、障害理解を深める映画鑑賞会などを行っています。
- ・また、各部局における障害学生への対応や関わり方についての相談、助言なども行っています。
- ・学生に対する啓蒙として、学生対象セミナーも毎年開催しています。

【相談例】

座席指定、試験時間延長、補助器具使用、資料作成・配布、時間管理や課題の管理、研究上の指導・助言などに関する配慮（調整）、施設改修に伴う助言、など



相談者の内訳

ライフデザイン支援部門

Life Design Division

- ・アビリティ支援センターライフデザイン支援部門は、相談員（准教授、障害者支援専門職、障害学生支援コーディネーター）3名が、障害のある学生の生活に関する問題の支援を行なう部門です。障害のある学生が自分の特性や困難をどのように理解し、どのようにその改善を図るか、あるいはどのような環境を好ましく思うか、それらを踏まえてどのようにして社会の中で生きていくか、といったライフデザインの支援を行います。障害に由来する課題と青年期としての課題との重なり合う状態を、学生個人個人が自分なりに納得できる形でこなしていくことを支えます。
- ・現在行っている活動の1つは、大学生としての学習の仕方を参加メンバーが持ち寄り、共有する、「大人の勉強benkyo会」です。週1回、4、5人の学生が同じ空間で自習し、勉強の仕方について、各自の抱えるテーマについて情報交換をしています。今後、日常生活における困難や生活能力を高めるための工夫を共有する場、自分と周囲の環境、両者の関係性について学ぶ場などを作っていきたいと思っています。加えて、従来どおりの個別の相談による支援も提供されます。
- ・ライフデザインについての情報発信も行う予定です。たとえばしばしば問題となるスケジュール管理や整理整頓の方法やノウハウ、小技、あるいは周囲の人との意図や前提の食い違いの緩和の仕方といった情報を、誰にとっても役立つ形で発信する予定です。

【相談例】

親子関係、障害特性や性格についての理解や対応、自分に障害があるかどうか、どんな仕事に向いているか、などについて（それぞれ関係他部門との連携をしています）



ピアサポート Peer Support

1. 学生相談サポーター



学生相談サポーターの活動は、2014年にスタートし、今年で7年目を迎えました。サポーター数はシニアサポーター1名、アドバイザー2名、サポーター11名で、教育発達科学研究科の大学院生を中心に活動しました。例年は、4月の新生サポートや水曜日午後の中央図書館学生相談ブースでの相談活動、紙媒体による相談である「ピアサポスト」と「つぶやきノート」への回答作成を柱として活動してきましたが、2020年度はコロナウイルスの流行によって大学への登校や中央図書館の利用が制限されるなど、従来の活動ができない状況に陥りました。苦境の中ではありましたが、サポーターの柔軟な対応力で、9月にはZoomによる履修相談会の開催、Zoomによる新サポーター説明会の実施など、新しい活動の形を切り開きました。2月には、全国のサポーターが集う「びあのわ in オンライン」を名古屋大学・岐阜大学サポーター共催で成功させ、コロナ禍に負けず、学生相談サポーターらしい活動を展開しました。

2. 就職活動サポーター



「就活サポーター」は2002年度から活動を続け、進路が決まった卒業期の学生たちがこれから就活に入る学生（プレーヤー）を支援しています。主な活動は、就活生に自分たちの体験を伝えながら相談に対応すること。そのために相談対応やサポーターとしての倫理について研修を通じて学び、サポーターとプレーヤーの双方が安心して対面できる体制を整えています。その他にも座談会や面接対策会など自分たちの経験を生かしたグループワーク活動も提供している。就活サポーターはプレーヤーの支援にあたるとともに、進路を決定してきたこれまでの活動を振り返り、社会に出て行く自覚を醸成する活動でもあります。設立以来の多くの卒業生との交流や、卒業生自身が互いを刺激しながらキャリアについて考えるネットワークが育っています。今年度はコロナの影響でメイン活動であるキャリアサポートセンターでの対面での相談業務が困難となりましたが、oviceによるバーチャルサポールームを作り、オンラインでの活動をサポーター9名で運営しました。

3. アビリティ学生支援サポーター



学生サポーターの集まり「air(あいる)」は2010年度から活動をしており、2020年度は女子8名、男子4名の構成となっています。アビリティ支援センターを中心に活動していますが、実際の活動場所はキャンパス内に広がっています。

主な活動の1つは、障害のある学生の修学支援の補助ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う授業の遠隔化によって、あまり活動の機会がありませんでした。しかし、学生対象セミナーではUDトークを用いたzoom講演でのリアルタイム文字化に初めて取り組みました。また、講演の映像に字幕をつける作業を行い、これから増えるニーズにそなえました。

airのメンバーはサークルのように、自主的に活動の方向性や内容をミーティングで決め、アビリティ支援センターと協力しながら活動に当たってくれています。最近では、SNSでの意見交換、ミーティング、ニュースレターの発行、手話の勉強会などを熱心に行っています。

2020年度 学生支援活動報告

はじめに

2020年度コロナ禍における学生支援活動

2020年初頭からわが国においても感染の拡大が認められた新型コロナウイルス感染症(COVID-19、以下コロナ禍)の流行は、これまで当たり前にあった日常や社会構造を瞬く間に激変させ、大学においても想定外の出来事に試行錯誤的な対策を求められる1年間であった。学生支援においても、想定外かつ緊急に対応を求められるという、これまでに経験のない事態であり、その意味では、大規模災害時と同様の対応を求められてきたといえよう。

その中でも特に第一に支援が必要であると考えたのは、2020年度入学生であった。合格の喜びもつかの間に、入学式の中止が決まり、オンライン授業になり新歓中止や登校の禁止など、彼らの心理的なダメージは計り知れないものと危惧された。また、これまで継続支援してきた学生の対面相談の変更を余儀なくされ、深刻な問題を抱える学生を対面せずに支援できるのだろうか、など緊急課題は山積みであった。

さらに、経済的困窮による相談も増え、食料配布支援業務を臨時的に実施するなど、想定外支援の連続であったといえる。

この原稿を書いている2021年3月、ようやくコロナ禍の1年間を終えようとしているが、先の見通せないコロナ禍、という状況での学生支援は新年度からも継続すると思われる。コロナ禍での学生支援センターの活動実績を記録として残す作業は、今後のより良い学生支援対策に繋がる貴重な記録になると考えている。本プロフィールは、その記録を学内外関係皆様とも共有したく、同冊とすることにした。

いつ終わるかもしれないコロナ禍ではあるが、新たに入学する名大生と在学中の名大生すべての学生にとって、どのような状況であっても、大学生活を通して彼らが人として成長する、その成長過程を支える学生支援本部であり、全学生一人ひとりの個性に寄り添うことのできる学生支援でありたいという願いは変わらない。

大学の活動方針年表

社会のコロナ関連記事 (<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/chronology/>)・学生支援センター活動

日付	警戒レベル	課外活動	教育	
2020年1月6日				中国 武漢で原因不明の肺炎 厚労省が注意喚起
1月14日				WHO 新型コロナウイルスを確認
1月15日				日本国内で初めて感染確認 武漢に渡航した中国籍の男性
1月30日				WHO 「国際的な緊急事態」を宣言
2月27日				安倍首相 全国すべての小中高校に臨時休校要請の考え公表
2月27日				学生支援センターホームページトップにコロナ禍における不安・動揺に対する心のケアメッセージ掲載
3月3日				学生支援センターツイッターの日々更新開始
3月4日				学生支援センタートップページに心のケア情報、追加掲載
3月7日				合格発表
3月24日				東京五輪・パラリンピック 1年程度延期に
3月31日				新入生アンケート回収終了（入学書類とは別途郵送に切替）
4月1日				学生支援センターが学生支援棟へ移転
4月1日				入国拒否 73 か国に拡大
4月2日				教職員向け「新型コロナウイルスに関連する心の健康について」「学生対応のポイント」「リラクゼーションの例」を学生支援センター HP（学生用）に掲載
4月6日				学生向け「新型コロナウイルスに関連する心の健康について」「リラクゼーションの例」を全学コロナ関連 HP に掲載
4月6日				学生相談を対面とスカイプ・電話・メールによる遠隔相談のハイブリッド型に変更
4月7日				学生支援センター主催、新入生特別講義の中止が決まる
				7 都府県に緊急事態宣言「人の接触 最低7割極力8割削減を」
4月9日				教養教育院とセンターとの1年生対応会議
4月9日	B	レベル4	レベル3	警戒カテゴリー【B】
4月17日	C	レベル4	レベル4	警戒カテゴリー【C】
5月1日～ 6月10日				食料支援開始（配布延べ人数 4,389名）計 14 日間
5月4日				政府「緊急事態宣言」5月31日まで延長
5月14日				政府 緊急事態宣言 39 県で解除 8 都道府県は継続
5月18日	B	レベル4	レベル3	
5月25日				緊急事態の解除宣言 約 1 か月半ぶりに全国で解除
6月1日	B	レベル3	レベル2	警戒カテゴリー【B】
6月1日				対面相談再開
6月3日～ 7月末				前期 FD 「アフターコロナの心のケア」
7月1日	B	レベル2	レベル2	警戒カテゴリー【B】
7月22日				「Go To トラベル」キャンペーン始まる
7月24日				学生支援センター HP に、コロナウイルス流行の長期化による影響についてのメッセージを更新
7月27日	C	レベル3	レベル3	警戒カテゴリー【C】
7月29日				東海機構ポストコロナフォーラム第 8 回「学生相談」
8月8日	C	レベル2	レベル4	警戒カテゴリー【C】
8月15日				ヨーロッパで感染再拡大を受けた措置相次ぐ
8月26日				名大生と総長との対話 ～コロナの時代を生きる Interactive Dialogue（日本語版）
9月23日～ 9月30日				秋学期特別ガイダンス（1年生全クラス別）（秋学期アンケート実施）
9月5日	B	レベル1	レベル1	警戒カテゴリー【C】
9月29日				名大生と総長との対話 ～コロナの時代を生きる Interactive Dialogue（英語版）
10月16日～ 12月25日				2 年生以上心の健康アンケート実施
10月12日				ヨーロッパで感染急拡大
10月17日				ホームカミングデーにて、センター保護者向け企画「with コロナ 大学生親子のコミュニケーションを考える」開催
11月11日～ 3月末				アビリティ支援センター「コロナ禍の修学支援」FD 開始
11月10日				政府分科会が緊急提言「急速な感染拡大の可能性も」
11月13日	C	レベル3	レベル5	警戒カテゴリー【C】
11月17日	B	レベル1	レベル1	警戒カテゴリー【B】

□：活動方針 □：学生支援センター活動

大学の活動方針年表

日付	警戒レベル	課外活動	教育
12月4日			障害学生就労支援者研修会主催
12月13日			GO TO 豊田講堂 1年生クラス長会開催
12月15日			GoToトラベル全国一時停止へ 地域限定の対応から方針転換 政府
12月17日	B	レベル2	レベル1
12月26日			警戒カテゴリー【B】 全世界からの外国人の新規入国 28日から1月末まで停止 政府
2021年1月6、7日			「気になる学生」調査に関する部局長への説明会
1月7日			菅首相 1都3県に緊急事態宣言
1月13日			7府県にも緊急事態宣言 合わせて11都府県に外国人の入国を全面停止
1月18日			国内感染者数が過去最多の2201人に。 東京も過去最多の493人で感染状況を最高レベルに引き上げへ
2月1日			緊急事態宣言 10都府県は来月7日まで延長 栃木県は解除 菅首相
2月3日			2月3日 新型コロナ 特措法など改正案 参院本会議で可決し成立
1月20日～ 2月24日			秋学期食料支援開始（延べ配布人数878名） 計7日間
2月27日			全国ピアサポーターの集い「びあわ」を岐大と共催
3月1日			愛知県の緊急事態宣言解除
3月17日			「学生支援本部」への改組が決定
3月25日			名古屋大学卒業式挙行

警戒カテゴリー

カテゴリー	定義
A (要注意)	感染の危険性が少ない場合。
B (高度警戒)	感染の危険性はあるものの、国や自治体からの休校要請がない場合。単発の感染者の発生などによる建物や部局レベルの一時閉鎖などの場合。(状況により、レベルCにすることもあり)
C (緊急事態)	①国の緊急事態宣言などにより、国や自治体による一斉休校要請のある場合、 ②感染者の急激な増加等により緊急に構成員の安全確保と感染拡大防止措置を講じる必要がある場合、 ③キャンパス内の複数部局で感染者の発生もしくはクラスター感染の発生がある場合、など。

課外活動

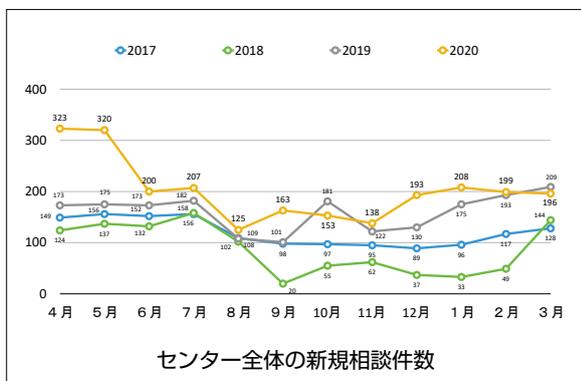
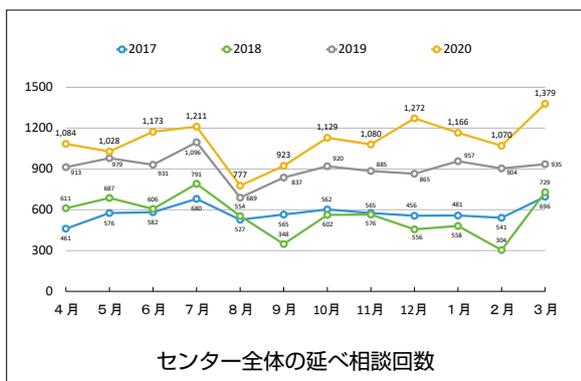
レベル	活動状態	備考
0	通常通り	
1	感染防止に留意の上、活動は可	具体的な感染防止策は、大学と協議の上、決定する。
2	感染防止、時短等に最大限留意の上、一部の活動は可	具体的な活動範囲は、大学と協議の上、決定する
3	全面活動禁止	

教育(講義・演習と実験・実習)

レベル	活動状態	備考
0	通常通り	
1	感染防止措置の上、 講義・演習の実施(対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / 実験・実習の実施(対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / ICTを使った遠隔授業の積極的併用 / アクセスポイント提供	
2	感染防止措置の上、 講義・演習の実施(原則としてICTを使った遠隔授業で実施。例外として対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / 実験・実習の実施(対面授業を行う場合は人数を限定の上で実施) / アクセスポイント提供	
3	感染防止措置の上、 講義の実施(対面授業は行わず、ICTを使った遠隔授業のみ実施) / 演習の実施(原則としてICTを使った遠隔授業で実施。例外として少人数や教育効果の観点で必要な場合は対面授業実施可) / 実験・実習の実施(対面授業を行う場合は人数をレベル2以上に限定の上で実施) / アクセスポイント提供	
4	感染防止措置の上、 講義の実施(対面授業は行わず、ICTを使った遠隔授業のみ実施) / 演習の実施(対面授業は行わず、ICTを使った遠隔授業のみ実施) / 実験・実習の実施(できるだけ対面授業は実施せず他の方法によることができない場合のみ対面実施可) / アクセスポイント提供	
5	ICTを使った遠隔授業のみ実施 / アクセスポイント閉鎖	受講できない学生には教育上の配慮を実施

センター全体の個別相談実績

1. 経年変化にみられる 2020 年度における特徴

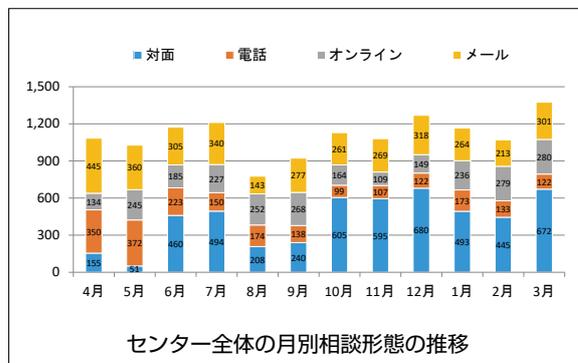
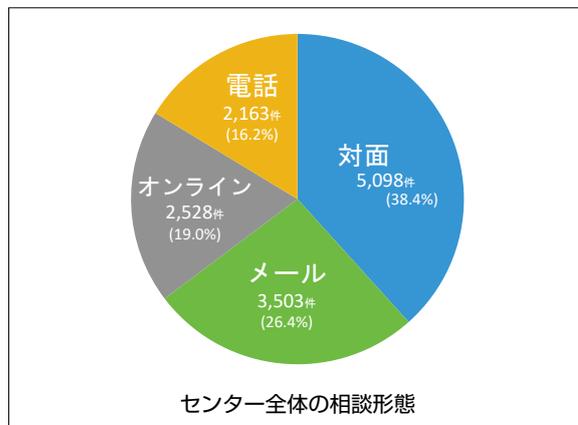
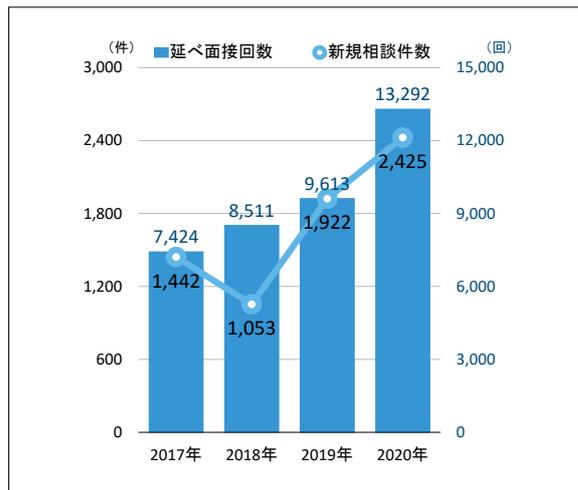


2020 年度の新規相談件数は 2,425 件、延べ相談回数は 13,292 件であった。新規相談件数は学生数 15,772 名の 15% に相当した（この新規相談件数には 2019 年度からの継続相談者が含まれていないため、利用者実数は 15% 以上となる）。延べ相談回数は、8、9 月の夏季休業期間をのぞき、毎月 1,000 回を越えていた。

2019 年度と比べると、2020 年度の新規相談件数は 26% 増、延べ相談回数は 38% 増であった。2020 年度は新型コロナウイルス流行により、従来までの対面のみの相談体制ではなく、オンラインでの相談や電話、メールでの相談も受け付けることとした。また学生支援センターが移転したことによって、それまでは不便であった部屋数と場所も改善され、カウンセリング部門と就職キャリア相談部門が同じ建物内で 14 の相談室を使用しながら相談に応じることができたのも、相談件数の増加に影響したと考えられる。

2. 2020 年度における相談形態

2020 年度はコロナ禍にあり、対面相談に加えて、電話やオンライン、メールでも相談に対応することとした。緊急事態宣言が発令されていた5月は、一部の相談は対面で行われたが（教員等からの相談）、他は非接触により対応した。秋学期からは対面相談の件数も割合も増加した。



全学学生を対象とした活動

卒業生を中心とした寄付による学生への食料支援

1. 経緯

4月10日に愛知県が緊急事態宣言を発出し、同16日に国が愛知県を「特定警戒都道府県」に指定すると、学生アルバイトの機会が激減することとなった。4月後半にキャリアサポートセンター長であり経済学部教授である土井先生の指導生たちから「コロナの影響で居酒屋のバイトが中断してしまい、まかない料理で夕食を取ることができなくなり、食事に困っています」と連絡があった。土井先生が研究室OB/OGに声をかけ、5月の連休中に全国各地から食料が一気に届けられることとなった。

2. 春の食料支援

第一回目の食料配布は5月1日に学生寮やSNSを通して780名の学生に食料を届けた。食料配布の様子が報道されると、支援の輪が広がり一般市民の方や企業、農学部の東郷フィールドからも食料が届けられた。食料配布時には、お礼の郵便ハガキや寄せ書きを準備しておき、学生からの感謝のメッセージを寄付者の方々に届けることとした。食料配布への感謝はもちろん、「将来、自分も名大生のために応援できるように頑張ります!」と卒業生たちの心を受け継ぐような言葉も見られ、教育効果も感じられた。6月10日までの間に14回、延4,389名の学生に約4万食の食事を提供した。

3. 冬の食料支援

第三波が訪れ、再び緊急事態宣言が発出されると、春に支援いただいた一般市民の方が食料を届けてくれるようになった。また農学部の東郷フィールドからも支援の申し出をいただいた。ウィズコロナへ対応できているアルバイトもあることから、卒業生への声かけは控え、春よりも小さい規模で食料支援を展開することとした。1月20日に野菜やお米を再び配布すると、企業からも鍋つゆや賞味期限間近の食料、学内からも災害保存食などが届けられるようになり、2月24日までの間に7回、延878名の学生に食料を届けることができた。春を合わせると21回実施し、食料を支援した学生は延5,267名に達した。

東郷フィールドの野菜を学生に配布
 ■学生支援センター

1月20日から2月24日までの間、学生に、学内にある東郷フィールドで収穫された新鮮野菜を無償配布しました。

この取り組みは、緊急事態宣言によって、アルバイトの時間短縮を余儀なくされた学生を支援することを目的に実施したもので、大学院生命農学専攻の協力をより、各学部問わず、延べ数百名の学生に、大根、白菜、芽キャベツ、ほうれん草を提供しました。また、昨春春に食料を寄らせていただいた方や株式会社Minkan Holdings、レッドカーネーション、ワンワン株式会社をはじめとする企業からも、お米、大根、カップ麺、鍋つゆやお菓子などの寄贈をいただきました。

食料を受け取った学生からは、感謝の言葉と共に笑顔が溢れていました。

MORRIS UNIVERSITY TOPICS - No.353 7

Food Donations

コロナ禍における卒業生を中心とした寄附による学生の食料支援

切実な学生からの声
 4月の後半、学生から「新型コロナウィルス感染症拡大の影響でアルバイトの機会が激減してしまい、まかない料理で夕食を取ることができなくなり、食事に困っています」と連絡が頻りに届いてきました。この状況に悩んでいた卒業生たちから「コロナの影響で居酒屋のバイトが中断してしまい、まかない料理で夕食を取ることができなくなり、食事に困っています」と連絡があった。土井先生が研究室OB/OGに声をかけ、5月の連休中に全国各地から食料が一気に届けられることとなった。

卒業生たちの感謝の意
 5月1日(日)に実施した食料配布では、約800名の学生に、延4,000食程度の食料を配布することができました。5月13日(日)、14日(月)は、山手通(旧)の国際センターで配布会を行いました。当日は約2,000食の食料を届けることができました。卒業生の感謝の意が伝わり、多くの方から「食料を届けてくれてありがとうございます」と感謝の言葉を届けてくれました。また、卒業生からのメッセージも届きました。中には「将来、自分も名大生のために応援できるように頑張ります!」と、卒業生たちの心を受け継ぐような言葉も見られました。

学生からの感謝も届く
 配布会後、多くの学生から「食料を届けてくれてありがとうございます」と感謝の言葉を届けてくれました。中には「将来、自分も名大生のために応援できるように頑張ります!」と、卒業生たちの心を受け継ぐような言葉も見られました。

URL: <http://gakusyo.proceed.nagoya-u.ac.jp/>

MORRIS UNIVERSITY TOPICS - No.353 3

春の食料支援

2020/5/6 **コロナ禍・学生支援** **食料支援の機会**

14回、延4,389名に配布、物資件数860件、寄付者446名

MORRIS UNIVERSITY TOPICS - No.353 4

冬の食料支援

2021/1/2 **コロナ禍・学生支援** **食料支援の機会**

7回(延878名に配布)

MORRIS UNIVERSITY TOPICS - No.353 5

全学学生を対象とした活動

秋学期に向けての3企画による支援

本センターでは、春学期における学生相談の急増、心の健康アンケートにおいてフィードバック希望学生の顕著な昨年比増加、突然のオンライン授業や登校禁止方針などによる、友人関係、教員との関係の希薄化や新入生に

おいては大学生になったという意識すら乏しい状況から、何よりも大学との信頼関係構築と帰属意識の向上が必要であると判断し、大学との関係構築のための3企画を実施した。

<p>コロナ禍における学生と大学との関係構築のための交流3企画 ・大学・部局・学生支援センターの協働・</p>	<p>学生の声・・・ コロナ禍対策のため半年、1年間授業が休んでしまったりはしたくないですか？ こんな簡単に大学が休校を宣言しないで、大学が休校することを放棄しないで。 現状のこのまま「勇気ある知識人」でしょうか？ もちろん、重荷の多い大学生活です。しかし、無理難題ばかりを押し付けて、自然の摂理に抗ったことを責められて、感傷が広がらなければ大学生活は救済していいのですか？ 問題なのは、大学へ行けないこと、交流がないこと、活動がないこと。 健康の悪化、新しいコロナウイルス、感染予防の不安などにより大学が死んでいて、人と人のつながりが壊れていることが問題。 心身の健康もある。親の方がよほど問題。学生の健康というならなおさらできる限り大学を再開すべきで大学閉鎖は慎重になるべき。 コロナ後も後期も行けない絶望感、虚無感、孤独感の感じが怖い。進捗対策をしている大学も不信感で怖い。 進捗対策のようになるかもしれないが、人数が多いからできないのではなく、人数が多いからこそ感染対策だけで大学の機能を停止してはいけない。</p>	<p>コロナによる大学生活を含む生活上の変化、自由を制限される日々 ↓ 学生にとって、大きな喪失体験である そして、その喪失は実際に自分が身にふりかかり、 先週までの生活が回復する見通しのない現状 加えて 誰にも見えない感染の不安、感染させられるかもしれない不安 感染した場合の他者からの排除、差別の恐怖</p> <p>○ 学生相談の変化 4月前：多くの相談、内容は履修、下宿、クラスアプリ、ネット環境、帰省、対人関係（孤独）など さまざま。中には「死にたい」「死にたい」という声も。 6月前：相談は減少しているが、内容の深刻化。フィッターでも「絶望感」「どうせー」 「イライラ感」の表出が増加。ハッシュタグの「大学生の日常も大事」 （既読されていない声の増加） 7月前：相談総数 12000を超える。毎月増加傾向。希死念慮対応も複数。 心理的ダメージの大きさ：多かれ少なかれすべての学生に共通する</p>
<p>コロナによる生活変化→健全な心理過程と異常な心理的反応の両方出現 ・喪失体験後の心理過程 否認 → 怒り → 交渉 → 抑うつ → 絶望感 ↓ 怒り・イライラ ↓ 取引 → 抑うつ・無力感 ↓ 受容 → 新たな生活を探るまでの道のりには大きな個人差</p>	<p>コロナ禍非日常の心理状況下にある学生に対する 支援者（教育者）としての対応の原則 緊急時心のケアの原則 1.安心感・安全感・信頼感の保証。大学および関係する教員等への信頼と安心 安心・安全な環境下で支えること、「情報と意思」を知らせること 「人づからつなぐこと」 2.日常性の回復 日本の生活リズムにできるだけ戻すようにすること 3.主体性の回復（自己コントロール感の回復）一大学との交流、ともに解決する 生活の中で少しずつ主体的・能動的に行動できるようにすること コロナ禍では1と3の実現をまずは目指すことが重要 1. 大学との関係づくり：大学生生活への信頼 2. 他者との関係づくり：将来に繋がるアイデンティティへの名刺</p>	<p>学生支援 with COVID-19 課題 1. ハイリスク学生支援の確保が必要 1年生、ひきこもり学生 3次支援：ハイリスク学生の個別支援 2. 季節的・状況的変化に備える 緊急時対応/個人面談/グループセッション 2次支援：グループ学生のグループ支援 3. 緊急時対応/個人面談/グループセッション 3次支援：ハイリスク学生の個別支援 4. 緊急時対応/個人面談/グループセッション 4次支援：個別学生の個別支援 5. 緊急時対応/個人面談/グループセッション 5次支援：個別学生の個別支援</p>

1. 名大生と総長との対話～コロナの時代を生きる Interactive Dialogues

（企画運営は教育推進部を中心として開催）
大学代表として総長と学生とのオンラインによる直接の対話を通して、大学への信頼関係の構築を目指すことを趣旨として8月26日（日本語版）と9月29日（英語版）に名大生と総長との対話を開催した。
参加学生は 計 293 名であり、多くの学生から、大学生活への思いや大学への質問が寄せられ、総長はそれらに対して丁寧に対応し、意義深い企画となった。

<p>名古屋大学WEBセミナー 令和2年8月26日(水) 16:00～17:30</p> <p>名大生と総長との対話 ～コロナの時代を生きるInteractive Dialogue～</p> <p>*本企画は、参加できなかった名大生のために事後配信する予定です。そのため、録画させていただくことをあらかじめご了承ください。</p>	<p>趣旨：名大生と総長との開かれた率直な対話を通してお互いの信頼関係を築くこと、そして語り合いを通して、コロナの時代の名古屋大学のあり方ともに考えることができれば・・・</p>	<p>松尾清一総長の語り</p>
<p>名大生と総長との対話</p>	<p>皆さんの語りやQ&A・チャットから見てきたこと・・・</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生活の困難について 学生同士が助けられる機会を奪われて寂しい ・就職活動について 就職活動が厳しくなる懸念、活動中、心身の健康が損なわれている ・部外関係について 1年生は課外活動の機会がない不安 ・就職活動について 就職の不安が大きい、オンライン・個別面談や情報共有をもっと欲しい ・研究活動について 実験や実習などができず困っている <p>などなど・・・</p>	<p>すぐに解決できることばかりなら・・・、ないかもしれない・・・でも、皆さんの思いや希望を、総長は真剣に聞いてくれた・・・ それは、コロナの時代を生きる名古屋大学の将来の姿に反映されるに違いない。 名古屋大学は皆さんとともに、コロナの時代を生き抜いていきたい、と思っているはず・・・ ・・・これから、名大生と名古屋大学は語り合う機会を作っていくことができる・・・</p>

全学学生を対象とした活動

2. 「1年生 クラス別秋学期特別ガイダンス」

例年は、英語等クラス共通授業を通して、クラス会が活性化し、友人関係が構築されるが、コロナ禍において、登校経験がまったくない1年生も多く、クラスの同級生との対面の体験がないままに春学期が終了した。そのため、秋学期開始前に、緊急事態における心理教育とともにクラス交流を活性化させることを目的としてクラス別の特別ガイダンスを9月23日から30日までの約1週間にわたり、対面で実施した。オンラインでの参加も可としたが、全参

加学生 2,087名（1年生全体の96%）のうち96%に当たる1,997名の学生が対面での特別ガイダンスに参加した。

ガイダンスには、部局の担任教員も参加し、学生から担任への学部授業についての質疑応答などの時間も設けて交流を深めた。また冒頭では総長から1年生へのメッセージビデオと学部長からのメッセージ（一部は対面）を視聴し、名大生としての帰属意識が高まりクラスでの友人関係構築のきっかけになったものと思われる。

秋学期1年生特別ガイダンス

ガイダンス前アンケート調査

「大学生になった実感が乏しい学生」82%
「大学生活に対してかなり心配がある学生」77%

ガイダンス出席状況

全45クラス 2,125名対象
参加者人数 2,087名 (全1年生の96%)
内訳 対面 1,997名 (出席率94%)
ZOOM 90名 (出席率24%)

※同時開催特別研修参加者 2019名
「転学希望低下学生」62%

秋からの学生導入入門2020withコロナ特別版 60分間@全学取組機

総長のメッセージ
「今の気持ち」「質問」共有ワーク
「心の健康に関する心理教育」
「コロナ禍にまつわる心の動き」
ストレスへの対処法について

各学部長のメッセージ

特別ガイダンス後の学生生活（他大関係生観察）による企画：
①クラス会（役員決めなど） ②部活サークル紹介（女子選、体育会）

今後：
1. ZOOM参加学生・欠席学生（178名）の背景分析と個別支援：
欠席学生（88名）内訳 理由未明あり（15名）、休学（11名）、退学（1名）、残り61名の追跡
ZOOM学生（90名）内訳 クェアへの親近性の高い学生（職業系はともかく）、
不適合（ひきこもり予備軍）、障害学生など。
2. 新入生アンケートの追跡調査（1,914名、回収率87.2%）、分析（知うつ不足、自覚感情、人生満足度など）。

3. 部局との交流

部局は学生にとってアカデミックな世界への帰属意識の土台であり、また大学生活の中核となる重要な居場所でもある。1年生は、登校もままならない状況であり、学部の建物を見たことがない学生も少なくない状況であった。また研究室や指導教員配属前の学部2年生は、課外活動や

友人関係での交流を除くと、大学生活では孤独な状況となっていることが懸念された。

そのため、部局に対して、1年生をはじめ、研究室や指導教員配属のない学生を中心に学生との交流の機会を設けることを依頼し、センターとの連携を図った。

秋学期 部局との交流の機会

部局による学生と教員の交流企画（特に学部生、1、2年生）
(クラス別、専攻別、研究室単位・・・1、2年生はクラス/コースなど)

- 所属学部棟（建物）は将来への見通しに繋がる場。
- 学部への帰属意識を持ち自らのアイデンティティを確認し、将来をイメージする場であり存在として重要。
- コロナ禍では、そうした居場所感が曖昧な、新入生、2年生にとっては、特に重要
- 一にもかわらず、入構制限がもっとも厳しい学部生

部局との交流の機会

↓

大学への信頼・安心感と同時に、自己信頼感に繋がる

参考資料：対話のコツ

対話の第一の狙いは対話そのものを推し進めること。
解決・改善・変化は二義的なもの。

対話の基本姿勢：傾聴すること、心からの気遣いがあること。
語り手（学生）の気持ちとニーズに気づき、尊重する。まず、（学生の）気持ちを返すこと。

べからずの対話
「気持ちよくわかるけどね・・・しかし・・・」：「でもー、しかし」は慎重に！
認める、説教する、「それは違う」と否定する。

対話の中から新たな文脈（学生と大学の未来）が生まれれば成功です！

* 実際は、内容等のご相談があれば学生支援センターまたは学生支援課までご連絡ください。

全学学生を対象とした活動

秋学期における2企画による支援

秋学期開始時には、「総長との対話」「秋学期特別ガイダンス」と「部局との交流」を実施し学生の不安に対して一定の効果は認められたが、一方で秋学期以降は問題が深刻化し、緊急対応を必要とする学生も増加傾向にあった。

また秋学期には1年生のみでなく2年生以上の全学学生を対象として心の健康調査を実施した（詳細は26ページ参照）。その結果、2年生以上の学生においてもさまざまな面での支援を必要とする学生の存在が明らかになった。そこで、以下の2企画を緊急対応として実施することにした。

1. クラス長会

秋学期特別ガイダンス時に実施したアンケートでは、1年生は大学生になった実感の乏しい学生が全体の82%、秋学期からの大学生活にかなり心配のある学生は77%、勉学意欲が低下していると回答した学生が62%など、継続してオンライン講義が中心となる秋学期に向けて何らかの全学的な支援が必要と考えられた。

また秋学期に実施した心の健康アンケートの追跡調査結果から、1年生全体に抑うつ傾向上昇、自尊および対人サポートの低下傾向、課外活動加入率の低値(421名、

19%)が認められた。何よりも大学内での自らの居場所の確認と友人関係の構築が必要と思われた。春学期以降、センターではSNSによるクラス結成やクラス交流を支援していたが、さらにクラス交流活性化を図るために、クラス長会を実施することを企画し、12月に豊田講堂において実施した。豊田講堂は、本来なら入学式において全新生が足を踏み入れ名大生としての自覚が生まれる場所であるが、大部分の学生が豊田講堂でのイベントを体験しておらず、まずはクラスを牽引するクラス長に豊田講堂でのイベントを体験してもらうことも目的とした。

2. 気になる学生に対する部局教員との連携支援

2年生以上(博士課程を含む)に対する心の健康アンケート調査の結果、回答学生のうち30%以上の学生が通常のアンケートであれば記載がほとんどないはずの自由記述欄に記載しており、多くは、修学・研究上の不安、経済面など生活の不安、心身の不調を訴えるものであり、特に、緊急支援が必要な学生には即時の支援を行ったが、予想以上に学生の困難な状況が推測された。

そこで、2021年1月には、全学の部局教員と連携して、学生支援の対象を拡げた。

秋学期クラス長会

GO TO TOYOKO

1年生における人間関係の構築支援・孤立化予防
1年生クラス長会→クラス交流の活性化

日時：2020年12月13日(日) 13時～14時
1年生クラス長会→クラス交流の活性化

場所：豊田講堂 (1階616席使用)

参加：1年生クラス代表・副代表 61名(9学部)
2年生クラス長、全学役員 4名(文・経・情報・工学 ボランティア)
学生支援センター スタッフ 10名

タイムスケジュール

- 13:00 13:10 コロナ感染予防と大学生活の再立 (保健管理室長 石原先生)
- 13:10 13:20 上級生によるクラス活動と大学生活のプレゼン (大学生生活と社(工)学 研究会発表)
- 13:20 13:30 グループ懇談 上級生を交え、夜を避けて短時間で実施
- 13:30 13:40 休憩・換気
- 13:40 13:55 全校での情報共有
- 14:00 終了

ようこそ！名大・豊田講堂へ！

初めて、豊田講堂に入った！！

GO TO TOYOKO

新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、本学では、

新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、本学では、

新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、本学では、

1年生クラス長の声…グループ討議から

勉学についていけない、過大な期待(学生への)による課題の多さ
…孤独な学習環境による課題遂行の困難さ

友だちが欲しい、孤独…切実な声

全学学生を対象とした活動

「総長カード」について

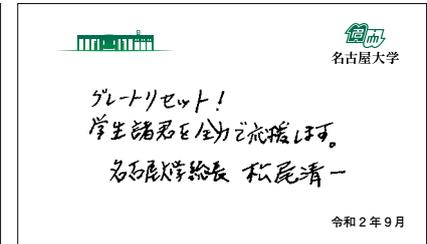
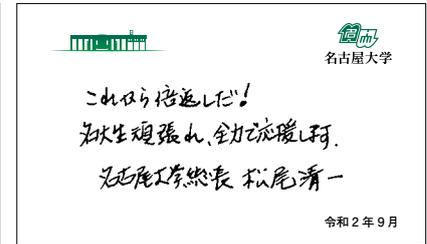
コロナ禍において、入学式の中止に始まり、多くがオンライン授業となり登校制限など大学生活はおろか、大学生になった実感もないまま秋学期を迎える1年生に対して、総長から直接のメッセージを直筆で伝える試みを行った。5種類の総長からのメッセージをカードサイズに印刷し、裏面には学生支援センターの案内を掲載した。

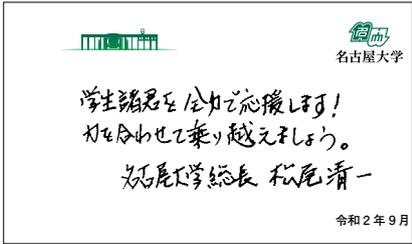
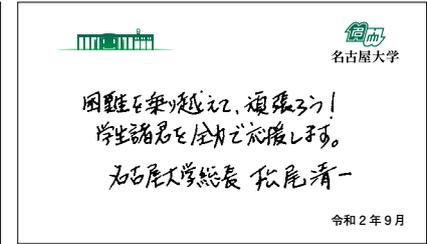
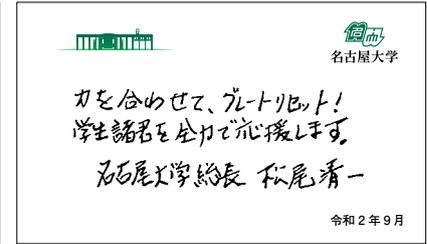
本カードの主目的は、新入生が大学への信頼感、安心感を持ち、名大生になったことを実感してもらうこと、お

よび、悩む学生に対する学生相談の周知であり、秋学期ガイダンス時に全1年生に配布した。

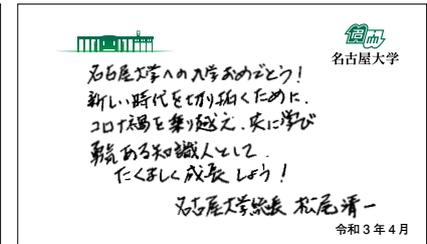
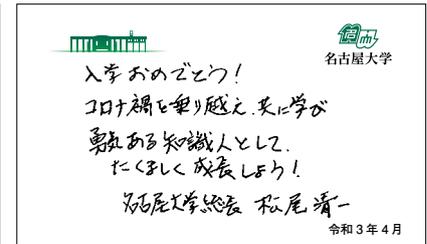
カードには 所属意識を高めてもらうために自分の所属クラス名(例:文学部1クラス)を記載した。

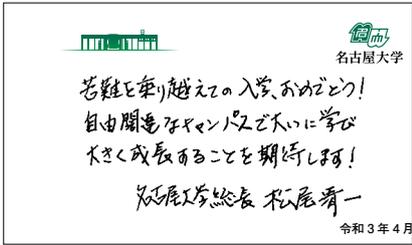
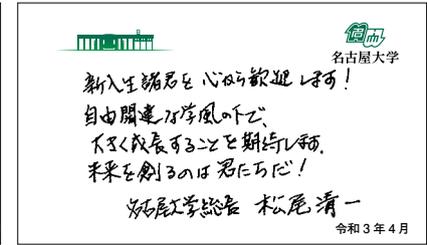
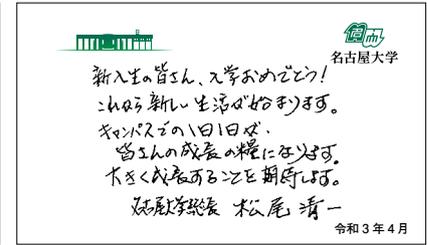
本試みは、学生に好評であったために、2021年度入学生にも新たな総長からの直筆メッセージをカードにして配布し、この試みはNHKのニュース等でも取り上げられた。

 <p>名古屋大学 学生支援センター</p> <p>学生支援係 ・学生相談センター、教育連携室 ・キャリアサポートセンター</p> <p>全学教育棟本館3階 ・国際学生支援センター (国際学生支援課) 東山キャンパス保健管理室 ・メンタルヘルス支援部門</p> <p>分室 稲葉キャンパス分室 基礎棟別館5F 大森キャンパス分室 南館1号館149号室</p> <p>電話 052-793-5805 開室時間 月～金曜日 10:00～17:00 (土日除く) E-mail student@gakuso.provoost.nagoya-u.ac.jp ホームページ http://gakuso.provoost.nagoya-u.ac.jp Twitter @NU_SCC</p> <p>あなたのクラスは 文学部 1クラス</p>	 <p>名古屋大学</p> <p>ゼネトリセット! 学生諸君を全力で応援します。 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和2年9月</p>	 <p>名古屋大学</p> <p>これから倍返しだ! 秋学期頑張れ、全力で応援します。 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和2年9月</p>
---	---	---

 <p>名古屋大学</p> <p>学生諸君を全力で応援します! 力を合わせて乗り越えましょう。 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和2年9月</p>	 <p>名古屋大学</p> <p>困難を乗り越え、頑張ろう! 学生諸君を全力で応援します。 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和2年9月</p>	 <p>名古屋大学</p> <p>力を合わせて、ゼネトリセット! 学生諸君を全力で応援します。 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和2年9月</p>
--	---	--

2020年度入学生用総長カード (秋学期配布)

 <p>名古屋大学 学生支援本部</p> <p>学生支援係 ・学生相談センター、教育連携室 ・キャリアサポートセンター</p> <p>全学教育棟本館3階 ・アビリティ支援センター (国際学生支援課) 東山キャンパス保健管理室 ・メンタルヘルス支援部門</p> <p>分室 稲葉キャンパス分室 基礎棟別館5F 大森キャンパス分室 南館1号館149号室</p> <p>電話 052-793-5805 開室時間 月～金曜日 10:00～17:00 (土日除く) E-mail student@gakuso.provoost.nagoya-u.ac.jp ホームページ http://gakuso.provoost.nagoya-u.ac.jp Twitter @NU_SCC</p> <p>みんな悩んで大きくなった</p> <p>あなたのクラスは 文学部 1クラス</p>	 <p>名古屋大学</p> <p>名古屋大学への入学おめでとう! 新しい時代を切り拓くために、 コロナ禍を乗り越え、共に学び、 勇気ある知識人として、 たくましく成長しよう! 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和3年4月</p>	 <p>名古屋大学</p> <p>入学おめでとう! コロナ禍を乗り越え、共に学び、 勇気ある知識人として、 たくましく成長しよう! 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和3年4月</p>
--	--	---

 <p>名古屋大学</p> <p>若難を乗り越え、入学おめでとう! 自由闊達なキャンパスで大きく成長することを期待します! 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和3年4月</p>	 <p>名古屋大学</p> <p>新入生諸君を心から歓迎します! 自由闊達な学風の中で、 大きく成長することを期待し、 未来を創るのは君に任せ! 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和3年4月</p>	 <p>名古屋大学</p> <p>新入生の皆さん、入学おめでとう! これから新しい生活が始まります。 キャンパスの1日1日を、 皆さんの成長の糧にぜひ活用し、 大きく成長することを期待します。 名古屋大学総長 松尾清一</p> <p>令和3年4月</p>
---	---	--

2021年度入学生用総長カード

SNS による支援

新型コロナウイルス感染症の流行は学生の生活を一変させた。大学への入構が制限されたことにより、多くの学生は人と会う機会が著しく少なくなったことに加え、必要な情報へのアクセスも難しい状況となった。また、長期化する自粛生活の中で大学への帰属意識が薄れ、強い孤独感を抱える学生も増加した。そこで、本センターでは直接会うことが困難な状況の中で可能な支援として、以下の3つのSNSによる支援を実施した。

1. 「BAND」を利用したクラス交流サポート

例年であれば入学直後にクラス結成会が開催され、クラス長決めやクラスメイトとの交流が行われる。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で参集型でのイベントが中止となり、友だちを作ることができず孤立した状態の新入生が多かった。そのため、グループコミュニケーションアプリ「BAND」を利用してクラスごとに集えるグループを作成し、NUCTにて参加の呼びかけを行った。全新生の約98%がそれぞれのクラスグループに参加し、上級生クラス長のサポートのもと、クラス長決めやビデオ通話による交流会が実施されたなど、学生同士の交流が生まれた。さらに、部活・サークルのとりまとめをする「体育会」「文化サークル連盟」にも呼びかけを行い、部活・サークル紹介や新歓に関する情報発信サポートも行った。

2. HP における心理教育の発信



新型コロナウイルス感染症に伴う自粛生活の長期化により、本センターへの相談申し込みや問い合わせが急増し、強いストレスや疲れを抱える学生が多くなっていることが懸念された。そこで、「COVID-19 対処法を知るサイト」と開設し、コロナ禍で起こりうる心の反応やストレスへの対処法、自宅学習についての提案など心理教育的な情報を発信した。

3. Twitter や Youtube を用いた情報発信

本センターの Twitter アカウントは 2017 年より開設されていたが、これまで積極的に活用されることはなかった。しかし、Web 上で情報収集をする学生や家族が増えることが予測されたため、Twitter の更新頻度を増やし、履修登録をはじめとした各種手続き、支援金や食料支援などの情報や、ステイホーム中の過ごし方に関するアイデアなどを積極的に発信していった。また、大学に登校する機会が失われたことにより、特に新入生の中には大学への帰属意識を持っていない学生も少なくないと思われた。そこで、大学の風景や建物などの写真を用いた映像コンテンツを作成し、大学生活を少しでも身近に感じてもらえるよう心掛けた。

さらに、新たに Youtube チャンネルを開設し、映像・音声に特化した情報発信を始めた。このチャンネルでは、大学内の道案内動画、本センターを紹介するアニメや歌動画、年末年始にステイ下宿にてさみしい思いをしている学生のためのラジオ番組などを配信した。

こうした活動を経て、Twitter のフォロワーは 1,600 名を超え、ダイレクトメッセージを通して相談を寄せる学生もおり、センターとしての相談の窓口を広げることができた。



全学学生を対象とした活動

FD 活動

2020 年度春学期の FD は「アフターコロナの心のケア～心の健康調査に見る今年度新入生と今後の見通し～」と題して、教育連携室の松本寿弥講師を中心に各部局の教職員を対象に実施した。本学の活動方針および各部局の事情に沿って、動画配信・オンライン・対面のいずれかを提供した。コロナ禍における学生支援センターの相談実態、新入生アンケートにみる名大生の特徴とコロナ禍の影響、そしてコロナ禍における心の反応と学生対応のポイントについて報告・解説した本 FD は、タイムリーであったと思われる、またその後の、教育連携室を含めた相談の増加と学生支援の連携強化にも寄与したものと思われる。

また 2020 年度秋学期には「障害学生の修学支援とコロナ禍の混乱」と題して、アビリティ支援センター長の工藤晋平特任准教授が全学教職員を対象に FD を実施した。コロナ禍において、大学生活や自宅での生活環境の大きな変化にスムーズな適応が困難になりやすい障害圏学生に対する教育や指導のあり方についての FD は時機を得た内容であった。計 13 部局の教職員が双方向の遠隔講義、動画配信や対面など併用型での FD を行った。

2020 年度秋学期には学生相談センター副センター長の鈴木健一教授によって「コロナ禍 2 年目における学生支援の課題」と題した、次年度を見据えた FD も実施された。

FD 配信資料 (教育連携室)

FD 配信資料 (アビリティ支援センター)

2020年度に掲載されたメディア関係

2020年度に掲載されたメディア関係

- 2020年5月8日
中日新聞
卒業生ら「頑張ろう」名大下宿生らに食料
- 2020年5月13日
NHK シブ5時
名大で生活苦の学生に食料品配る
NHK 名古屋放送局
名大で生活苦の学生に食料品配る
- 2020年6月10日
NHK 名古屋放送局
名大で留学生に機内食の食材配布
- 2020年6月27日
NHK 名古屋放送局
障害学生へのオンライン就職相談会
- 2021年9月9日
朝日新聞
コロナ禍の大学生、どう支える
- 2020年10月19日
CBC 放送局
名古屋大学学生支援センターの取り組みについて
- 2021年1月24日
朝日新聞
ひらく日本の大学 学生のやる気、オンラインで低下?
- 2021年1月28日
NHK 名古屋放送局
名古屋大学が困窮学生に野菜配布
- 2021年2月10日
中日新聞
食料配布、学生ら行列一長引く苦境 食費削り
節約生活—
- 2021年2月11日
CBC 放送局
留学生による名古屋市外国人向け情報発信プロジェクト

2020年度に掲載されたメディア関係(古橋忠晃准教授)

- 2020年6月26日
中日新聞 夕刊
太波小波(コラム)「ひきこもりの反転」
(雑誌「ふらんす」に連載していたコラムについて
取り上げられた)
<https://www.chunichi.co.jp/article/78837>
- 2020年8月15日
フランスのテレビ(France 5) 出演
古橋准教授への「ひきこもり」についてのインタ
ビュー

<https://www.youtube.com/watch?v=TSXJKmoGrc8>

- 2020年9月24日
名古屋大学 プレスリリース
「新型コロナウイルス感染症の影響により「ひきこもり」が急増する可能性を指摘」
- 2020年11月26日
読売新聞 朝刊
「コロナ禍 不登校が急増」引きこもり増懸念
<https://www.yomiuri.co.jp/life/20201125-OYT8T50113/>



2021年度に掲載されたメディア関係

- 2021年4月5日
NHK 名古屋放送局
名古屋大学における新2年生のための入学式
- 2021年4月20日
NHK オンラインニュース
大学生を、取り残さない
- 2021年4月22日
NHK 名古屋放送局
総長カードによる学生支援案内

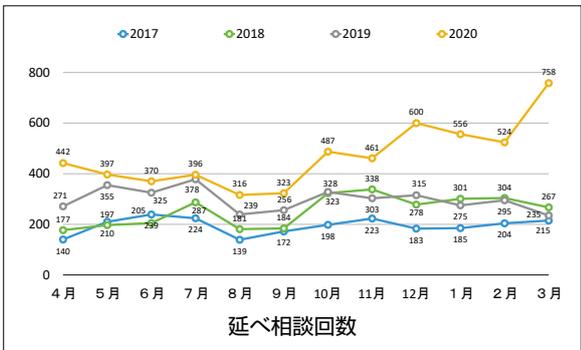
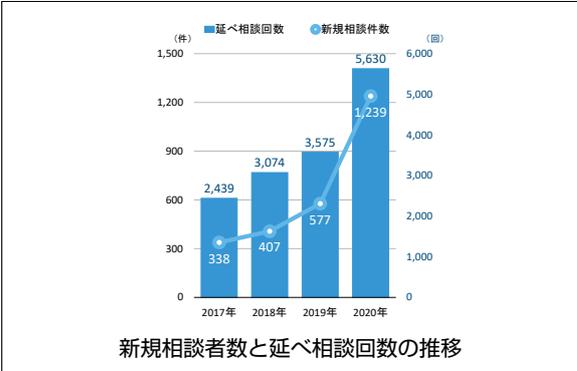


学生相談センターの活動

カウンセリング・教育連携室

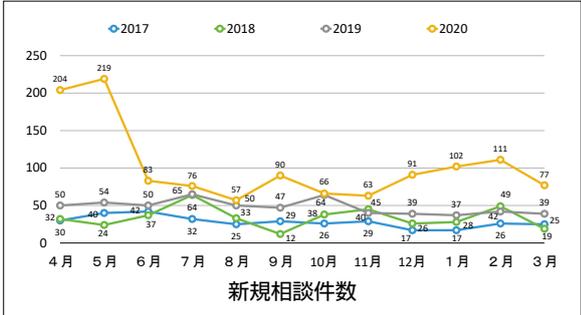
1. 経年変化にみる 2020 年度における特徴

2020 年度の新規相談件数は 1,239 件、延べ相談回数は 5,630 件であった。新規相談件数は学生支援センターにおける新規相談件数 2,425 名の約半数 (51.1%) であった。延べ相談回数は学生支援センター全体の 42.4% に相当した。2019 年度と比べると、2020 年度の新規相談件数は前年比 15% 増、延べ相談回数は 57% 増であった。月別の推移をみると、新規相談件数は 4、5 月に高く、延べ相談回数は 12 月以降に高くなる傾向にあった。



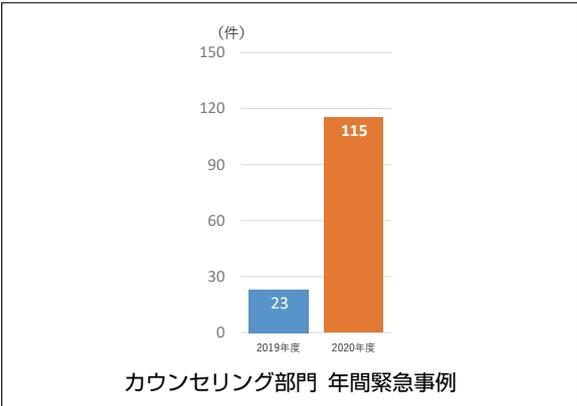
2. 2020 年度における相談形態

2020 年度はコロナ禍にあり、対面相談に加えて、電話やオンライン、メールでも相談に対応することとした。緊急事態宣言が発令されていた5月の対面相談は1件のみで(教員からの相談)、他は非接触によるメール、オンライン、電話によって対応をした。秋学期からは対面相談の件数も割合も増加した。年間を通して対面相談は約半数 (45.1%) であった。

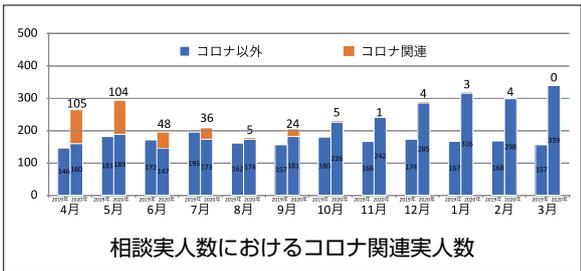


3. 緊急対応事例

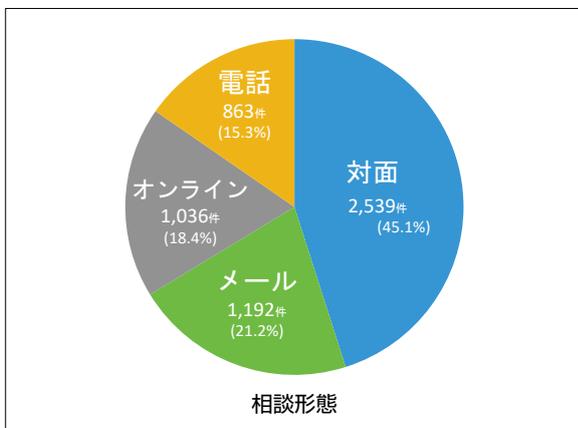
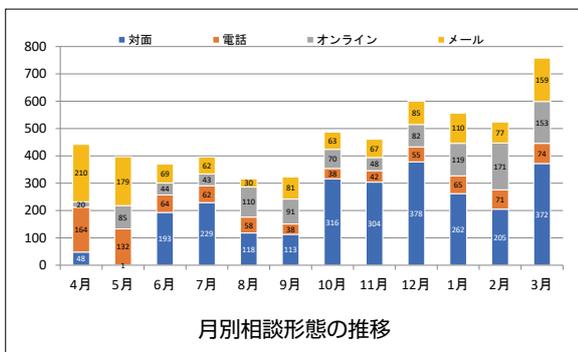
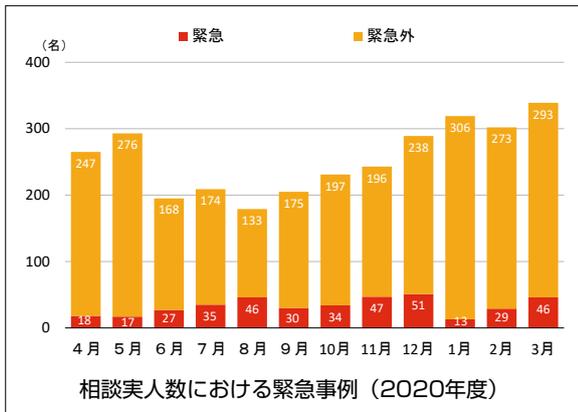
2020 年度の緊急対応事例は年間で 115 件あり、2019 年度の 5.0 倍と激増した。特に、8月と秋学期がスタートした 10～12 月、新年度を控えた3月は 50 件前後に達していた。コロナ禍にあった 2020 度は例年と異なり学生の不安や抑うつ傾向の高まりが顕著であった。



2020 年度は新型コロナウイルス流行により、従来までの対面のみでの相談体制ではなく、オンラインでの相談や電話、メールでの相談も受け付けることとした。コロナ関連の相談とコロナ以外の相談を比較してみると、春学期は 4、5 月にコロナに関する相談が増加しており、コロナ以外の相談は 2019 年度とほぼ類似した傾向にあったことがわかる。一方、秋学期はコロナに関する相談はわずかとなり、コロナ以外の相談が顕著に増加していた。



学生相談センターの活動



4. 一次支援強化の取り組み

学生相談の利用者が毎年増加傾向にあることを受けて、一次支援の強化が課題となっていた。さらに、コロナ禍において相談ニーズが急速に高まりを見せることとなった。

一次支援強化の一環として、2019年度より名古屋大学の全構成員（学生・教職員）を対象としたグループプログラム「名大いこまいセミナー」を開始した。このプログラムは岐阜大学で展開されてきたプログラムを参考としたもので、名古屋大学においては新しい世界に触れてもらうことを目的とした。新型コロナウイルス感染症の影響により参集型での開催を断念することとなったが、この状況を逆手に取り、岐阜大学と連携して両大学の構成員が両大学のプログラムに参加できる形態で実施した。



名大いこまいセミナー 2020秋学期

いこまいセミナーは、学生相談センターから学生生活で悩んでいる方へ、悩みを相談し、解決するための支援を行います。学生生活で悩んでいる方へ、悩みを相談し、解決するための支援を行います。

第6回 生涯発達 - 新たな自己との出会い
講師：平石 賢二 先生
（岐阜経済科学研究科 心理経済学専攻）

2020年10月28日(水) 15時～16時30分
開催方法：オンライン (zoom)

名大いこまいセミナー 2020秋学期

いこまいセミナーは、学生相談センターから学生生活で悩んでいる方へ、悩みを相談し、解決するための支援を行います。

第7回 進化と人生
講師：長谷部 光孝 先生
（岐阜大学 生物科学研究科）

2020年11月18日(水) 15時～16時30分
開催方法：オンライン (zoom)

名大いこまいセミナー 2020秋学期

いこまいセミナーは、学生相談センターから学生生活で悩んでいる方へ、悩みを相談し、解決するための支援を行います。

第8回 オレナイコロナはつくれる！?
講師：近藤 竜彦 先生
（生命農学研究科）

2020年12月16日(水) 15時～16時30分
開催方法：オンライン (zoom)

学生相談センターの活動

5. 心の健康アンケート

本学では、心の健康状態の早期発見早期支援の一環として、2014年度より新生を対としたアンケートを実施してきたが、この数年は来談学生が急増しており、1次支援強化策として2019年度からアンケートの充実を図ってきた。2020年度は、コロナウイルスの流行による学生のメンタルヘルス悪化の懸念と、これまでにない状況下で、特にエビデンスに基づいた支援を行うことの重要性に鑑み、入学時に加え、入学後半年経過時に再度アンケートを実施した。また、10月には2年生以上の全学生に対しても、抑うつや不安を中心とした項目から成るアンケートを実施した。心理的支援の必要な学生に対しては、個別に連絡し、早期支援を行った。

心の健康アンケートの特徴は右記の通りである。

- 1) 心理的基盤(基盤データ)、心理的リスク(リスクデータ)と発達障害傾向(特性データ)を把握できる質問項目から構成されており、学生の心理的特徴が詳細に把握でき、支援時の情報として有効活用できる(図1)。
- 2) フィードバック希望学生には、フィードバック用紙(図2)を送付、学生の自己理解を促すとともに、必要に応じて個別面接を実施でき、早期に学生支援センターと繋がることのできる。
- 3) 各部局FDなどによって、教職員が当該部局の学生の特徴を理解することが可能であり、教育や学生対応に活かすことができる。
- 4) センターにおいて、部局の学生特徴に応じた支援や介入の提案などが可能である。

1. 心理的基盤に関する尺度(項目は一部)

自尊感情 「私は、自分自身にだいたい満足している」
「自分は少なくとも他の人と同じくらい価値のある人間だと感じている」

人生満足度 「私は自分の人生に満足している」

社会的サポート 「私には困ったときにそばにいてくれる人がいる」
「私には私の気持ちについて何かと気遣ってくれる人がいる」

2. 心理的リスクに関する尺度

抑うつ 「好ましくないことを考えてしまい、コントロールできない」
「死にたいと考えることがある」

全般性不安 「心配していることがたくさんある」
「恐怖やパニックに陥ることがある」

3. 発達障害傾向に関する尺度

自閉スペクトラム症(ASD)尺度(AQ)
「私は、あることにとても強い興味を持つ傾向があり、追求することができないと困惑してしまう」
「私は、人の意図を分かるのが難しい」

困り感尺度 「衝動的に行動してしまい困る」
「グループ活動では居ごちが悪くて困る」
「忘れ物が多くて困る」

図1 主な使用尺度(困り感尺度以外は国際尺度)

フィードバック希望学生数(2020年度実績)

4月 学部新生 644名(32.0%) / 院新生 427名(38.1%)
9月 学部新生 240名(11.0%)
10月 2年生以上の学生 585名(24.0%)

- ・各学生の結果をレーダーチャートに示し、メールにて送付(要支援学生には個別連絡)
- ・メール本文には、センターの利用方法を促す説明文を記載

スコア	
自尊感情指数	4.0
生活イメージ指数	3.3
人生満足度指数	1.5
快適/困難指数	3.8
やる気指数	3.8
安心指数	3.4
コミュニケーション力指数	3.4
ソーシャルサポート指数	4.2
集中力指数	3.6

図2 アンケート結果の活用: 学生へのフィードバック(例)

学生相談センターの活動

主な結果 (一部)

〈1年生〉

- 1) 心理的基盤、心理的リスクについては、概ね他大学平均値と同様の傾向であったが、抑うつ・不安の高い要支援学生や、発達障害傾向学生は一定数に籍していることが示唆された。
- 2) 入学時と半年後の比較では、抑うつと不安の高まりが示された。長引くコロナウイルス流行とそれに伴う大学の活動制限が、学生のメンタルヘルスに打撃を与えていることがうかがわれた。
- 3) フィードバック希望学生が、2019年度の25%から32%に増加し、大学とつながりたい学生の心理が反映されたものと思われる。

〈2年生以上〉

- 4) 自尊感情や人生満足度といった心理的基盤の部分は、1年生および院生に比して2～6年生が低く、一方で、抑うつ、不安は1年生が高いことが示された。2～6年生には、心理的基盤を強化するようなサポータティブなかかわりや心理教育、1年生には、抑うつや不安を軽減するための対人関係ネッ

トワーク構築の手助け、登校の機会の提供などが必要と考えられた。この結果は、実際の支援提供の指針として利用された。

〈全体〉

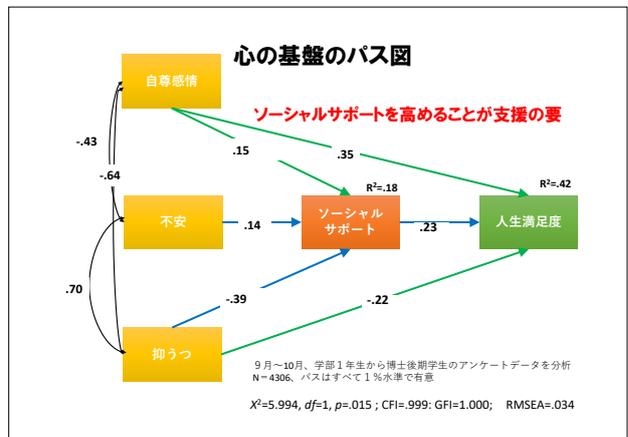
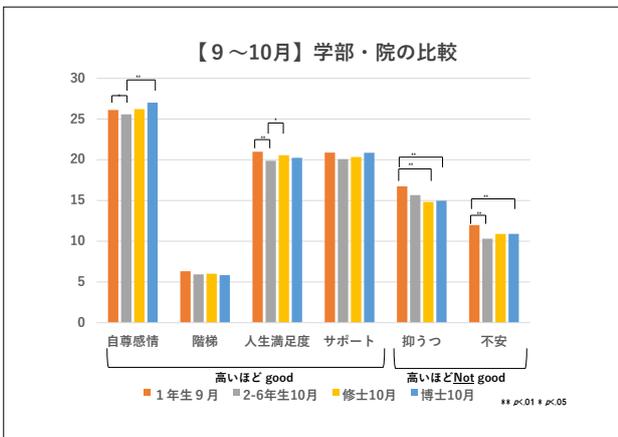
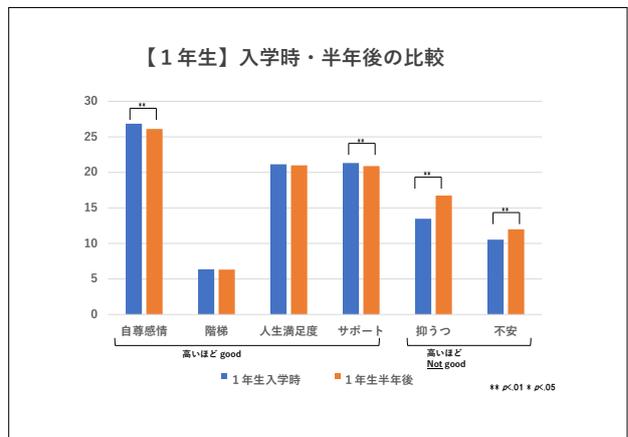
- 5) 自尊感情と抑うつ、不安が、ソーシャルサポートを介して人生満足度に影響することが示された。自尊感情やサポートされている自覚を促進するような教育の重要性が示唆された。

今後の計画

コロナウイルス流行による大学生活や対人関係上の大きな変化は、学生のメンタルヘルスに影響を及ぼしている。今後は、全学生を対象を広げた縦断的アンケート実施によって、コロナウイルス流行による心の健康への影響と、学生の心理的成長の両面を追跡し、結果を広く教育や支援に活用したい。このようなエビデンスに基づいた支援によって、学生支援本部は、学生の心理的成長やウェルビーイングの向上に最大限貢献してゆく計画である。

2020 アンケート概要と回収率

		アンケート概要	回収状況
1年生	入学時	心理的基盤に関する尺度 心理的リスクに関する尺度 発達障害傾向に関する尺度	有効回答2040名 (回収率93.8%)
	入学後半年	心理的基盤に関する尺度 心理的リスクに関する尺度 コロナ禍でのストレス 勉学モチベーション	有効回答1999名 (回収率91.9%) ※ 春・秋両方学生番号を含む回答しておりデータの連結が可能であった人数=1609名 (B1生のうち74.0%)
2年生以上	10月	心理的基盤に関する尺度 心理的リスクに関する尺度 コロナ禍でのストレス 勉学モチベーション	有効回答2434名 (回収率17.4%)



学生相談センターの活動

メンタルヘルス支援

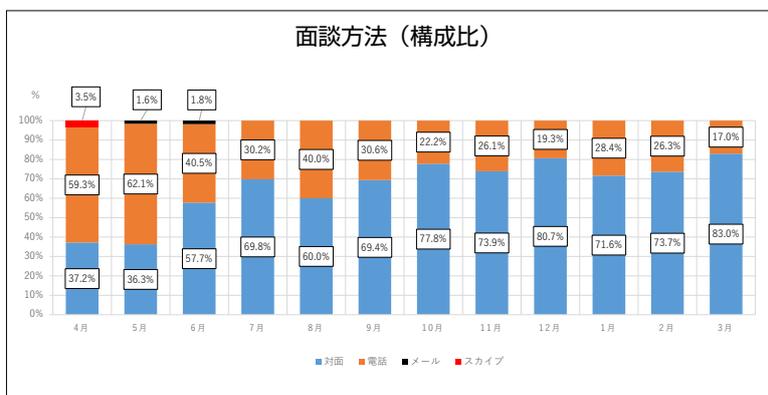
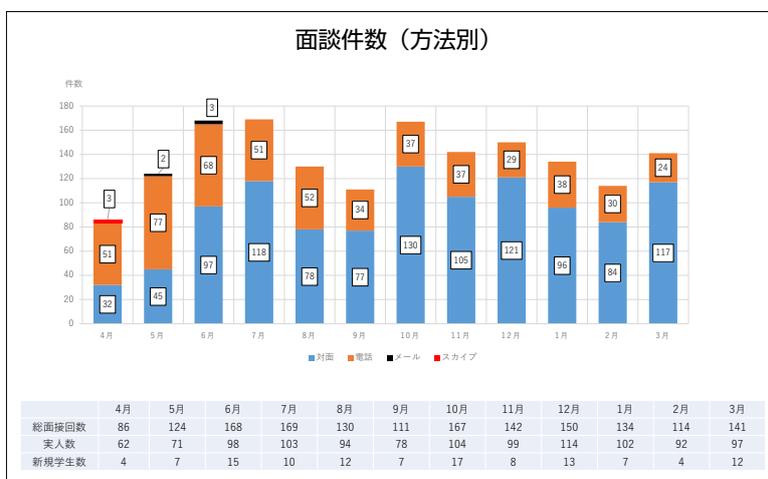
2020年度前半はコロナ禍にもかかわらずそれほど普段とは変わらない診療の印象であった（一部学生からの要望があった場合に電話診療に切り替えていた）が、2020年度後半はひきこもり傾向の学生が（少なくとも相談員の古橋による診療では）受診の多くを占めるようになったように思われる。これは名古屋大学の学生にとどまる傾向ではなく、全国的にさらにはヨーロッパ全体でも同様の傾向があり古橋のもとにはマスコミの取材も多く社会の関心を集めた（詳細は p23 参照の通り）。相談員の長島は、緊急事態宣言の早くから鶴舞キャンパスでのコロナ対応で心に不調をきたした病院のスタッフの相談対応も数多く行っていた。相談員の横井は、東山キャンパス全学教育棟本館で入学当初からコロナ禍の影響を心身に大きく受けた学部1年生の対応も数多く行っていた。

面談件数（方法別件数）と面談方法・構成比（%）を以下の図に示した。

この図をみると、2020年6月から7月と10月から11月に受診者数の山が二つあることが分かる。

新型コロナウイルス関連の各相談員の診療上での主な印象は以下の通りであった。

- ・内定先の契約内容にコロナのために変更が生じ心身の不調が生じた。
- ・不調というわけではないが、これまでもひきこもっており、これからも一生ひきこもっていてもいいのだと納得していた。
- ・突然授業・試験の見通しがつかなくなった。
- ・研究室の方針をどうするのか分からない。
- ・バイト、サークルがなくなってしまった。
- ・就職活動がwebになり慣れずに困った。
- ・自宅で感染対策について揉めたり、落ち着いて過ごせなくなった。
- ・家族の問題（母親との関係など）が増えた。
- ・オンライン授業について悩む学生と楽になったという学生がいた。



共修推進

1. 相談

(1) 個別相談実績報告

- ・個別相談概要（相談件数、面接総回数、相談内容項目等）

『国際機構国際教育交流センター紀要』の「アドバイジング部門報告」を参照（2020年度報告については2021年秋頃掲載予定）

URL：<http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/about/pub.html>

*ただし、留学生からの勉学・生活相談には、各部署の留学生相談室等において国際化推進教員が対応しており、その相談件数は上記に含まれていない。

(2) コロナ禍の留学生相談の特徴

アドバイジング部門および各部署の留学生相談室等で対応した相談には、下記のような特徴がみられた。

【国際移動の困難】

2020年度（令和2年度）は国境をまたぐ移動が不可能な時期が多く、可能な時期にもフライトが少なく難しかったことから、留学生にとっては特に、困難な状況があった。

・日本から出国できない

出身国の家族に会いたくても、または家族の不幸があっても出身国に帰ることができない事例が複数あった。心身の不調により慣れた環境に戻ることが必要でも、戻ることができない、研究に必須のフィールドワーク等で海外に出かけることができない。大学を卒業・修了しても、日本を出国できない、また海外で予定していた進学や就職ができない等の事例も見られた。

・日本に帰れない・来れない

出身国等に一時滞在していた留学生や、入学が決まっていた留学生は、日本への再入国や渡航ができず、海外からオンラインで授業を受けたり研究を続けたりする必要があった。海外での受講は時差によって心身への負担が大きい場合があった。また、日本での支援金や奨学金、家賃、教科書購入の手続き等は、国際郵便も停止されていた期間には特に困難であった。

・家族が日本に来れない

留学生の病気や事故など、必要性があっても家族が渡日することができない事例が複数あった。

・渡日後の健康観察期間

渡日が叶っても、ホテルや自宅、学生寮で2週間の待機期間を過ごす必要があり、外出できない期間は友人や関係機関の支援を受ける必要があった。名古屋大学の学生寮の場合は、レジデント・アシスタント（RA）たちが買い物をしたり、大学生協が食事や日用品を配達したりした。

【日本における情報入手の難しさ】

国内組織から発信される感染情報や支援金情報は

まず日本語でなされるため、日本語に堪能でない留学生の場合、情報入手が遅れて申請等が締め切りに間に合わないなどの問題があった。

上記のような状況の中で、個別のケースや、大学の対応、日本政府の対応等について、問い合わせや相談が多数あった。しかし、コロナ禍は日本だけの問題ではなく、出身国を含む世界の問題であったため、多くの留学生たちは、情報収集に努め、状況を注視しながら粛々と生活していた様子である。

心身の不調を訴える留学生たちの状況は、コロナ禍によって複雑化することはあったが、コロナ禍が直接の原因となって不調が起きるといった事例は少なかった。

2. アウトリーチ

(1) 留学生対象の Covid-19 にかかわる実態調査

- ・2020年4月に、国際教育交流センターと学生交流課共同で全学の留学生を対象に Covid-19 にかかわる実態調査（ウェブアンケート調査）を行い、一般日本人学生の結果との比較を行った。結果は当センターのウェブページに掲載し公開した。

URL：<http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/index.shtml>

(2) コロナ禍特有のアウトリーチ

上記アンケートによって明らかとなった留学生の状況に対応すべく、自宅学習のコツや、心理的反応についてまとめ、当センターアドバイジング部門のウェブページに掲載した。

URL：<https://acs.iee.nagoya-u.ac.jp/>

(3) コロナ禍の授業・共修プログラム等

国際機構国際教育交流センターの授業や共修プログラムについては、通常のイベントをオンラインで継続的に行い留学生と一般学生、または留学生と地域住民等の共修を促進するとともに、コロナ禍での学生たちの孤立感を和らげ、人間関係を築けることを意識した予防プログラムを行った。入学者へのオリエンテーションや相談会もオンラインで開催した。詳細は『国際機構国際教育交流センター紀要』の「アドバイジング部門報告」を参照（2020年度報告については2021年秋頃掲載予定）

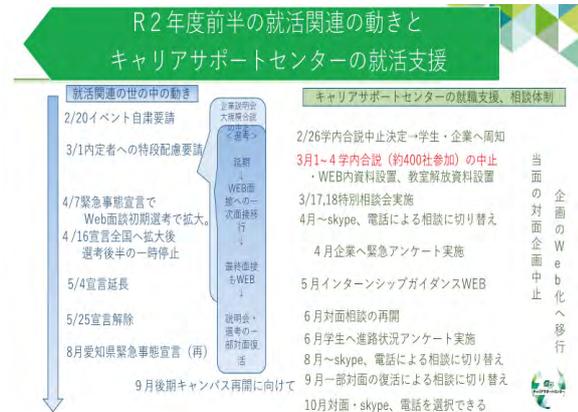
URL：<http://ieec.iee.nagoya-u.ac.jp/ja/about/pub.html>

3. 学生支援センター心の健康に関するアンケートへの対応

- ・2020年10月に学生支援センター主体で全学的に実施されたアンケートの自由記述欄に、留学生からの相談希望が複数書かれていた。未対応だった相談については、12月に共修推進室から個別メールを出し、対応した。

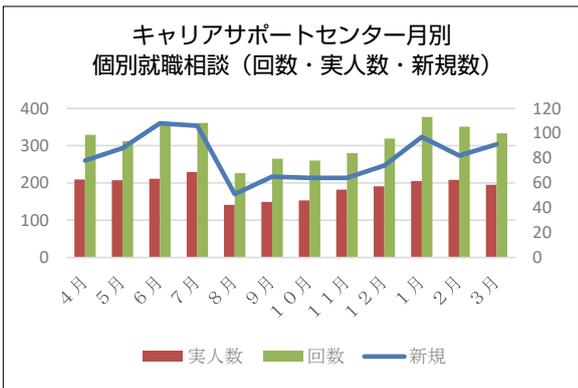
キャリアサポートセンターの活動

1. 今年度の特徴「コロナと就職支援」



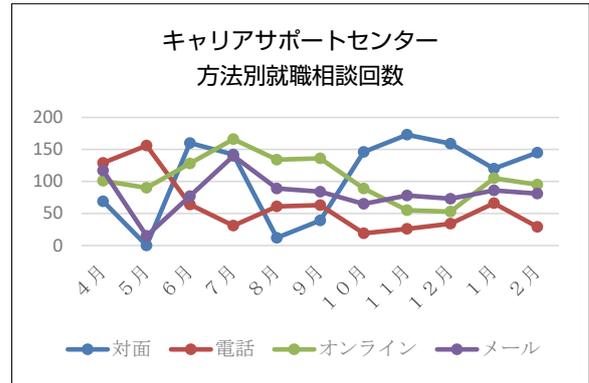
未曾有の状況下、令和2年2月20日、国からのイベント自粛要請を受け、3月1日～4日に400社以上が学内で例年延べ1万人以上の就活生と接触する学内合同企業説明会「企業研究セミナー」の中止を決定。その後多くの就活生が「オンライン就活」に突入した。就活生としてインターンシップに参加する次年度生に対し、キャリアサポートセンターでは各種支援企画のオンライン開催やオンデマンド、これまでのメルマガ配信に加え最新情報の動画配信、登校できない学生に対しバーチャルキャリアサポートセンターの開設などを通じ支援の継続を行った。

2. 個別相談概要



コロナ禍での就活の様子と相談状況

1年間に就職相談を利用した人数は1,099名、延べ回数は3,771回であった。内訳はB4(含以上)が1,006回で26.7%、M2(含以上)が933回24.7%、M1が692回で18.4%、学部3年が337回8.9%と続き、教職員・保護者他の相談回数も全体の5%にのぼる。平均相談回数は3回前後だが、過年度生(留年・休学等)はB4以上で10.3回、M2以上で9.3回と継続支援のケースが多く、特に既卒生は8人に対し246回で平均19.7回と年間を通じ支援の対象となった。



これまでの対面での対応から緊急事態宣言下、今年度初めて電話やオンライン等あらたな相談方法を取り入れた。対面が不可能になった4月後半から5月、8月から9月はスカイプなどの遠隔相談を活用する学生が多かったが、相談方法を選べるようになる(6月～、10月～)と対面での面談を希望する学生割合が高くなった。5月以降は企業の面接もオンラインとなり、面接練習などにオンライン面談を活用する就活生の姿も多かった。一方10月以降はこれから就活に入るB3、M1生が増え、従来のように対面での相談が圧倒的に増えた。

コロナに関する相談は4月41件、5月35件、6月25件、7月12件と次第に減少していった。4、5月はWEB説明会が続き企業研究の実感がわからない、オンライン面接に慣れていない、周囲の動きがわからないなどの戸惑いの相談が多く、6、7月選考が続くにつれ、公務員の選考日程の度重なる変更により研究生活への影響を心配する声や、採用中止や内定取り消しにならないかという不安の声もあがった。しかし多くの学生はとにかく目の前の就職活動を乗り切ることに集中しており、変化する就職環境に適応している様子がうかがわれた。

キャリアサポートセンターの活動

3. イベント一覧

令和2年4月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
20日(月)～	第1回インターンシップガイダンス ①インターンシップの意義	動画配信	278回	全学年
	第1回インターンシップガイダンス ②インターンシップの現状とスケジュール	動画配信	157回	全学年
	第1回インターンシップガイダンス ③応募方法	動画配信	146回	全学年
	第1回インターンシップガイダンス ④インターンシップのマナー	動画配信	160回	全学年
	第1回インターンシップガイダンス ⑤学内手続きについて	動画配信	141回	全学年
28日(火)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場	オンライン	7名	B4・M2・既卒者

令和2年5月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
8日(金)	国際オンラインカフェ 「日本での就職に関心のある人集まれ！」	オンライン	10名	国際学生
13日(水)	博士の交流サロン（博士人材キャリア育成部門との協働）	オンライン	2名	博士院生
14日(木)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ①	オンライン	7名	B4・M2・既卒者
16日(土)、23日(土)	就活準備日本語講座（基礎）	オンライン	18名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
18日(月)、25日(月)	日本語能力試験N2対策講座	オンライン	15名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
20日(水)～26日(火)	日本語スピーキングカテスト（JSST）	電話受験	18名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
21日(木)	ステップバイステップ	オンライン	1名	全学年・既卒者
22日(金)、29日(金)	日本語能力試験N1対策講座	オンライン	28名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
25日(月)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ②	オンライン	5名	B4・M2・既卒者
25日(月)～	インターンシップ対策講座 ①企業研究編	動画配信	128回	全学年
	インターンシップ対策講座 ②書類編	動画配信	92回	全学年
	インターンシップ対策講座 ③面接編	動画配信	58回	全学年
	インターンシップ対策講座 ④マナー編	動画配信	62回	全学年
29日(金)	国際オンラインカフェ 「日本での就職に関心のある人集まれ！～面接の受け方編～」	オンライン	9名	国際学生
	外国人留学生インターンシップ ZOOM 説明会	オンライン	29Live + 15NUCT	国際学生

令和2年6月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
1日(月)、8日(月)、 15日(月)、22日(月)、 29日(月)	日本語能力試験N2対策講座	オンライン	15名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
3日(水)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ①	オンライン	2名	B4・M2・既卒者
5日(金)、12日(金)、 19日(金)、26日(金)	日本語能力試験N1対策講座	オンライン	28名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
6日(土)、20日(土)	就活準備日本語講座（基礎）	オンライン	18名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
12日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ②	オンライン	3名	B4・M2・既卒者
18日(木)	ステップバイステップ	対面	3名	全学年・既卒者
19日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ③	オンライン	1名	B4・M2・既卒者
26日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ④	オンライン	1名	B4・M2・既卒者
	国際オンラインカフェ 「日本での就職に関心のある人集まれ！～先輩との交流編～」	オンライン	10名	国際学生
27日(土)	就活準備日本語講座（実践）	オンライン	17名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）

令和2年7月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
6/15(月)～7/10(金)	インターンシップWEBセミナー	動画配信	訪問者数：198名 総閲覧数：897名	全学年
6/25(木)～7/31(金)配信	「企業と博士人材の交流会」事前ガイダンス	オンデマンド	52名	博士後期課程・ポスドク
	「企業と博士人材の交流会」研究の伝え方	オンデマンド	52名	博士後期課程・ポスドク
	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ①	オンライン	1名	B4・M2・既卒者
3日(金)	日本語能力試験N1対策講座	オンライン	28名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
	大学院生のためのキャリアガイダンス（7月）	オンライン	24名	大学院生・ポスドク（学内外）
3日(金)～	動画選考対策講座 ①概略編	動画配信	56回	全学年
	動画選考対策講座 ②何を伝えるか編	動画配信	28回	全学年
	動画選考対策講座 ③どう伝えるか編	動画配信	24回	全学年

キャリアサポートセンターの活動

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
4日(出)	岐阜大学×名古屋大学 インターンシップ WEB 合同セミナー（LIVE型）	オンライン	閲覧数（名大生） ：194名	岐大生・名大生（全学年）
	4日(出)、11日(出)、18日(出)	オンライン	17名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
	7日(火)	オンライン	5名	リーディング大学院
	10日(金)	オンライン	3名	B4・M2・既卒者
13日(月)～31日(金)	留学生積極採用企業WEB説明会	オンライン	46名（名大30、 岐阜6、名工3、 名城4、南山3）	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
14日(火)	第3回B人セミナー「考えたこともなかった伝える技術」	オンライン	33名	博士前後期課程・ポスドク
16日(木)	ステップバイステップ	対面	5名	全学年・既卒者
	博士後期の就活前セミナー	オンライン	41名	博士後期課程2年生以上
17日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ③	オンライン	4名	B4・M2・既卒者
	卓越大学院向け就活相談セミナー	オンライン	9名	卓越大学院の博士後期
21日(火)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ④	オンライン	0名	B4・M2・既卒者
27日(月)	第4回B人セミナー「魅力的なPR動画を作ろう前編」	オンライン	43名	博士前後期課程・ポスドク
28日(火)	第4回博士人材の交流サロン	オンライン	4名	博士前後期課程・ポスドク
31日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ⑤	オンライン	1名	B4・M2・既卒者
	連携大学向け「企業と博士人材の交流会」事前ガイダンス	オンライン	10名	博士前後期課程・ポスドク

令和2年8月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
3日(月)	教員志望性向け 教員対策講座 ①個人面接	オンライン	11名	2020年度採用試験受験予定者
	第5回B人セミナー「魅力的なPR動画を作ろう後編」	オンライン	31名	博士前後期課程・ポスドク
4日(火)	教員志望性向け 教員対策講座 ②場面指導・模擬授業	オンライン	17名	2020年度採用試験受験予定者
	トヨタ自動車と障害学生との意見交換会	オンライン	16名	トヨタ自動車人事部・ 本学障害学生
5日(水)～	～ここから始めよう～「就職活動の進め方」セミナー	動画配信	53回	2021年3月卒・修了予定者
6日(木)	大学院生のためのキャリアガイダンス（8月）	オンライン	24名	大学院生・ポスドク(学内外)
7日(金)	国際学生対象 キャリアZOOM交流会 ①	オンライン	4名	全学年
	企業と大学との障害学生就職についての意見交換会	オンライン	29名	企業・就労移行支援事業所
	第5回博士人材の交流サロン	オンライン	6名	博士前後期課程・ポスドク
11日(火)	他大学向け「企業と博士人材の交流会」参加者用 博士の交流サロン	オンライン	4名	博士後期課程・ポスドク
17日(月)	名古屋大学 WEB 企業説明会 ①	ウェビナー形式	延べ273名	2021年3月卒・修了予定者
18日(火)	名古屋大学 WEB 企業説明会 ②	ウェビナー形式	延べ225名	2021年3月卒・修了予定者
19日(水)	名古屋大学 WEB 企業説明会 ③	ウェビナー形式	延べ181名	2021年3月卒・修了予定者
	ステップバイステップ	オンライン	3名	全学年・既卒者
20日(木)	障害学生就労支援者研修会	オンライン	50名	大学・企業・就労移行支援事業所
	第1回博士のキャリアパスウェビナー ～キャリアパス色々～	オンライン	53名	大学院生、ポスドク、学部生、 名古屋大学の教職員
21日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ①	オンライン	2名	B4・M2・既卒者
25日(火)	第6回博士の交流サロン	オンライン	8名	博士前後期課程・ポスドク
26日(水)	国際学生対象 キャリアZOOM交流会 ②	オンライン	5名	全学年
28日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ②	オンライン	2名	B4・M2・既卒者
8月中旬～	「企業と博士人材の交流会」学生PRと企業PR動画	オンデマンド		

令和2年9月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
1日(火)～11日(金)	企業と博士人材の交流会	オンライン	企業32社、博士 人材75名、オブ ザーバー修士20 名、企業延べ参 加人数834名、 学生延べ参加人 数951名	博士後期課程・ポスドク (学内外)
4日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ①	オンライン	2名	B4・M2・既卒者
8日(火)	キャリアサポートセンター×マイナビ社員就活相談会！	オンライン	104名	全学年
11日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ②	オンライン	3名	B4・M2・既卒者
11日(金)	キャリアランチ交流会（先輩と話そう：理系）	オンライン	6名	名大外国人留学生（全学年）
14日(月)、16日(水)、 18日(金)、23日(水)、 25日(金)、28日(月)、 30日(水)	日本語能力試験N4 対策講座（2020年9月）	オンライン	24名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
15日(火)	2020年度第3回総合イノベ人材育成システム専門委員会	オンライン	—	コンソーシアム参画の大学教職員
16日(水)	大学院生のキャリアガイダンス（9月）	オンライン	5名	大学院生・ポスドク(学内外)
16日(水)、18日(金)、 23日(水)、25日(金)、 28日(月)、30日(水)	日本語能力試験N1 対策講座（2020年9月）	オンライン	26名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）

キャリアサポートセンターの活動

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
17日(木)	ステップバイステップ	対面	5名	全学年・既卒者
18日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ③	オンライン	2名	B4・M2・既卒者
18日(金)	B人セミナー「メディカル・サイエンスコミュニケーション業界で求められる人材とは」	オンライン	30名	大学院生・ポスドク（学内外）
23日(木)	キャリアランチ交流会（先輩と話そう：文系）	オンライン	8名	名大外国人留学生（全学年）
24日(木)	愛岐留学生就職支援コンソーシアム実務委員会	オンライン	34名	コンソーシアム参画大学・団体
24日(木)	愛岐留学生就職支援コンソーシアム学生報告会	オンライン	参加：34名＋ ビデオ参加留 学生4名	コンソーシアム参画大学・ 団体・留学生4名
25日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ④	オンライン	2名	B4・M2・既卒者
29日(火)	第2回博士のキャリアパスウェビナー	オンライン	25名	学部・大学院・ポスドク・ 東海機構の教職員（学内外）
30日(木)～	新入留学生オリエンテーション（キャリア支援について）	オンデマンド	約100名	名大新入留学生 （B1, M1, D1, 研究生）

令和2年10月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
1日(木)	就活ガイダンス総括 文系向け L I V E	オンライン	35名	2022.3 卒予定者
2日(金)	就活ガイダンス総括 理系向け L I V E	オンライン	71名	2022.3 卒予定者
2日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ①	オンライン	0名	B4・M2・既卒者
5日(月)	景気と就活～22卒学生の就職活動～ L I V E	オンライン	36名	2022.3 卒予定者
6日(火)～	業界研究対策 オンデマンド配信	オンデマンド	—	2022.3 卒予定者
7日(水)	情報収集対策 L I V E	オンライン	49名	2022.3 卒予定者
8日(木)～	S P I 研究対策 オンデマンド配信	オンデマンド	—	2022.3 卒予定者
9日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ②	オンライン	0名	B4・M2・既卒者
9日(金)	各種試験対策講座 書類対策 L I V E	オンライン	29名	2022.3 卒予定者
12日(月)	WEB面接対策 L I V E	オンライン	26名	2022.3 卒予定者
12日(月)、19日(月)、 26日(月)	日本語能力試験N2 対策講座	オンライン	26名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
13日(火)	各種試験対策講座 面接対策 L I V E	オンライン	18名	2022.3 卒予定者
14日(水)	各種試験対策講座 WEB面接対策 L I V E	オンライン	16名	2022.3 卒予定者
15日(木)	書類・筆記対策 L I V E	オンライン	28名	2022.3 卒予定者
15日(木)	ステップバイステップ	対面・オンライン	5名	全学年・既卒者
15日(木)～30日(金)	新入留学生歓迎キャリアカウンセリングウイーク	オンライン	3名	名大新入留学生（研究生含む）
16日(金)	各種試験対策講座 面接対策 L I V E	オンライン	19名	2022.3 卒予定者
16日(金)	キャリアランチ交流会（自己理解）	オンライン	4名	名大外国人留学生（全学年）
17日(土)、24日(土)	就活準備日本語講座（基礎）	オンライン	30名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
19日(月)	就活マナー対策 身だしなみ対策 L I V E	オンライン	15名	2022.3 卒予定者
20日(火)	就活マナー対策 就活メイク対策 L I V E	オンライン	13名	2022.3 卒予定者
22日(木)	外国人留学生のための2021年春季インターンシップオンライン説明会	オンライン	16名	名大外国人留学生（全学年）
23日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ③	オンライン	0名	B4・M2・既卒者
23日(金)、30日(金)	日本語能力試験N1 対策講座	オンライン	37名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
23日(金)、30日(金)	日本語能力試験N3 対策講座	オンライン	15名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
24日(土)、31日(土)	JETRO ONLINE JOB FAIR（協力イベント）	オンライン	—	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生 （2021.3.9卒、2022.3卒、既卒生）
28日(木)	キャリアランチ交流会（自己理解）	オンライン	4名	名大外国人留学生（全学年）
30日(金)	就活サロン 名大版 就活おしゃべり場 ④	オンライン	2名	B4・M2・既卒者

令和2年11月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
2日(月)	O B O G ・若手社員交流会①	オンライン	28名	2022.3 卒予定者
2日(月)、9日(月)、 16日(月)、30日(月)	日本語能力試験N2 対策講座	オンライン	26名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
4日(水)	O B O G ・若手社員交流会②	オンライン	26名	2022.3 卒予定者
	大学院生のためのキャリアガイダンス（11月）	オンライン	6名	大学院生・ポスドク（学内外）
5日(木)	キャリア教育講座「日本企業を知る」①	オンライン	13名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
6日(金)	O B O G ・若手社員交流会③	オンライン	11名	2022.3 卒予定者
6日(金)	第8回企業と大学との障害学生就職についての意見交換会	オンライン	23名	—
6日(金)、13日(金)、 20日(金)、27日(金)	日本語能力試験N1 対策講座	オンライン	37名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
6日(金)、13日(金)、 20日(金)、27日(金)	日本語能力試験N3 対策講座	オンライン	15名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
7日(土)、14日(土)	就活準備日本語講座（基礎）	オンライン	33名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）

キャリアサポートセンターの活動

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
9日(月)	OBOG・若手社員交流会④	オンライン	13名	2022.3卒予定者
10日(火)	就活ミニ講座①（グループディスカッション）	対面	11名	2022.3卒予定者
11日(水)	OBOG・若手社員交流会⑤	オンデマンド	18名	2022.3卒予定者
11日(水)	JETRO グローバルビジネスワークショップ①	オンライン	8名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
11日(水)～17日(火)	J S S T（Japanese Standard Speaking Test）	電話受験	44名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
12日(木)	就活ミニ講座②（エントリーシート）	対面	9名	2022.3卒予定者
12日(木)	キャリア教育講座「日本企業を知る」②	オンライン	10名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
13日(金)	OBOG・若手社員交流会⑥	オンライン	48名	2022.3卒予定者
13日(金)	キャリアランチ交流会（仕事理解）	オンライン	6名	名大外国人留学生（全学年）
16日(月)	OBOG・若手社員交流会⑦	オンデマンド	8名	2022.3卒予定者
17日(火)	就活ミニ講座③（研究概要）	対面	1名	2022.3卒予定者
18日(水)	OBOG・若手社員交流会⑧	オンライン	13名	2022.3卒予定者
18日(水)	JETRO グローバルビジネスワークショップ②	オンライン	15名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
19日(木)	ステップバイステップ	対面	8名	全学年・既卒学生
19日(木)	キャリア教育講座「日本企業を知る」③	オンライン	12名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
19日(木)	博士の就活前セミナー	オンライン	14名	D2以上（名大生のみ）
20日(金)	OBOG・若手社員交流会⑨	オンライン	26名	2022.3卒予定者
20日(金)	就活ミニ講座④（エントリーシート）	対面	5名	2022.3卒予定者
21日(土)、28日(土)	就活準備日本語講座（実践）	オンライン	27名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
25日(水)	OBOG・若手社員交流会⑩	オンライン	55名	2022.3卒予定者
25日(水)	就活ミニ講座⑤（研究概要）	対面	8名	2022.3卒予定者
25日(水)	キャリアランチ交流会（仕事理解）	オンライン	4名	名大外国人留学生（全学年）
25日(水)	JETRO グローバルビジネスワークショップ③	オンライン	14名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
25日(水)	第8回B人セミナー「製薬業界を知ろう」	オンライン	30名 （うち岐大生1名）	大学院生・ポスドク・進学予定の 学部生・教職員（学内・外）
26日(木)	就活ミニ講座③（グループディスカッション）	対面	9名	2022.3卒予定者
26日(木)	WEB業界パネルディスカッション①（電機・電子部品メーカー）	オンライン	41名	2022.3卒予定者
26日(木)	キャリア教育講座「日本企業を知る」④	オンライン	8名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
27日(金)	WEB業界パネルディスカッション②（金融）	オンライン	22名	2022.3卒予定者
27日(金)	WEB職場見学①	オンライン	44名(2社計)	2022.3卒予定者
27日(金)	公務員志望生向けOB・OG（内定者）オンライン交流会	オンライン	39名	全学年
30日(月)	WEB業界パネルディスカッション③（インフラ・エネルギー）	オンライン	20名	2022.3卒予定者
30日(月)	WEB職場見学②	オンライン	38名(2社計)	2022.3卒予定者

令和2年12月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
1日(火)	WEB職場見学③	オンライン	34名(2社計)	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座①（はじめての自己PR～動画編～）	対面	5名	2022.3卒・修了予定者
2日(水)	OBOG・若手社員交流会①	オンライン	18名	2022.3卒・修了予定者
	大幸就職ガイダンス	対面	40名	2022.3卒・修了予定者
3日(木)	就活ミニ講座②（トップを目指すグループディスカッション）	対面	6名	2022.3卒・修了予定者
	第4回博士のキャリアパスウェビナー～ベンチャーって面白い～	オンライン	44名 （うち岐大生1名）	大学院生・ポスドク・進学予定の学部生・ 東海機構教職員・OBOG（学内外）
4日(金)	OBOG・若手社員交流会②	オンライン	31名	2022.3卒・修了予定者
	障害学生就労支援者研修会	オンライン	109名	研修会申し込み者
	日本語能力試験N1対策講座	オンライン	37名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
4日(金)	日本語能力試験N3対策講座	オンライン	15名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
	就活準備日本語講座（実践）	オンライン	27名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
5日(土)、12日(土)	就活準備日本語講座（実践）	オンライン	27名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
6日(日)	公務員研究セミナー	オンライン	52名	全学年
7日(月)	OBOG・若手社員交流会③	オンライン	33名	2022.3卒・修了予定者
8日(火)	WEB職場見学④	オンライン	37名(2社計)	2022.3卒・修了予定者
	WEB業界パネルディスカッション④（商社）	オンライン	23名	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座③（はじめてのオンライングループディスカッション）	オンライン	11名	2022.3卒・修了予定者
	令和2年度「連携型博士研究人材総合育成システムの構築」運営協議会	オンライン	—	教職員（コンソーシアム参画の大学）
9日(水)	OBOG・若手社員交流会④	オンライン	12名	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座④（はじめての個人面接）	対面	10名	2022.3卒・修了予定者

キャリアサポートセンターの活動

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
10日(木)	WE B業界パネルディスカッション⑤（素材・化学品メーカー）	オンライン	29名	2022.3卒・修了予定者
	ワークルール なんでも相談会	オンライン	8名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
11日(金)	WE B業界パネルディスカッション⑥（金融）	オンライン	14名	2022.3卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（インターンシップ）	オンライン	6名	名大外国人留学生（全学年）
	情報学部主催進路ガイダンス	オンライン	—	情報学部 3年生
	情報学研究科主催進路ガイダンス	オンライン	—	情報学研究科 M1
15日(火)	WE B職場見学⑤	オンライン	33名(2社計)	2022.3卒・修了予定者
	WE B業界パネルディスカッション⑦（建設・不動産）	オンライン	19名	2022.3卒・修了予定者
	障害学生就職ガイダンス	オンライン	25名	障害学生（岐阜大学含む）
	大学院生のためのキャリアガイダンス（12月）	オンライン	5名	大学院生・ポスドク（学内外）
16日(水)	O B O G ・若手社員交流会⑥	オンライン	9名	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座⑤（はじめてのオンライン個人面接）	オンライン	8名	2022.3卒・修了予定者
	大幸就職ガイダンス	オンライン	50名	2022.3卒・修了予定者
	産学連携協同講座ラクオリア創業株式会社 オンライン説明会	オンライン	5名	博士前後期課程・ポスドク
17日(木)	WE B業界パネルディスカッション⑧（食品メーカー）	オンライン	30名	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座⑥（もっとオンライングループディスカッション～対面編～）	オンライン	11名	2022.3卒・修了予定者
	ステップバイステップ	対面	6名	全学年・既卒者
	G S I Dキャリアガイダンス	オンライン	40名	G S I D所属の外国人留学生
18日(金)	O B O G ・若手社員交流会⑦	オンライン	12名	2022.3卒・修了予定者
	2020年度第3回総合イノベ人材育成システム専門委員会	オンライン	—	教職員（コンソーシアム参画の大学）
22日(火)	WE B業界パネルディスカッション⑨（インフラ・エネルギー）	オンライン	23名	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座⑦（もっとオンライングループディスカッション）	オンライン	8名	2022.3卒・修了予定者
23日(水)	就活ミニ講座⑧（苦手な人のための個人面接対策）	オンライン	10名	2022.3卒・修了予定者
	O B O G ・若手社員交流会⑧	オンライン	3名	2022.3卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（インターンシップ）	オンライン	3名	名大外国人留学生（全学年）
	WE B職場見学⑥	オンライン	19名(2社計)	2022.3卒予定者
24日(木)	WE B業界パネルディスカッション⑩（電機・電子部品メーカー）	オンライン	21名	2022.3卒予定者
	1月開催選考会の直前対策講座	対面	17名	2021.3月卒・修了予定の未内定者
25日(金)	特別相談会	対面	7名	2021.3月卒・修了予定の未内定者

令和3年1月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
7日(木)	就活ミニ講座①（はじめてのエントリーシート）	対面	10名	2022.3卒・修了予定者
8日(金)	就活ミニ講座②（企業研究セミナー対策）	オンライン	10名	2022.3卒・修了予定者
13日(水)	WE B職場見学⑦	オンライン	26名(2社計)	2022.3卒・修了予定者
	WE B業界パネルディスカッション⑪（電機・電子部品メーカー）	オンライン	23名	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座③（はじめてのエントリーシート）	対面	10名	2022.3卒・修了予定者
	大学院生のためのキャリアガイダンス（1月）	オンライン	8名	大学院生・ポスドク（学内外）
14日(木)	WE B職場見学⑧	オンライン	28名(2社計)	2022.3卒・修了予定者
	WE B業界パネルディスカッション⑫（情報・通信）	オンライン	25名	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座④（もっとオンライングループディスカッション対策）	オンライン	7名	2022.3卒・修了予定者
	第3回博士後期のための就活前セミナー	オンライン	14名	D2以上
15日(金)	WE B職場見学⑨	オンライン	33名(2社計)	2022.3卒・修了予定者
	WE B業界パネルディスカッション⑬（情報・通信）	オンライン	19名	2022.3卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（ビジネスマナー）	オンライン	1名	名大外国人留学生（全学年）
	令和2年度「連携型博士研究人材総合育成システムの構築」企業と大学の意見交換会	オンライン	—	3年生（コンソーシアム参画大学）
16日(土)	Panasonic ワーク（障害学生用）	オンライン	2名	障害学生
18日(月)	WE B業界パネルディスカッション⑭（電機・電子部品メーカー）	オンライン	27名	2022.3卒・修了予定者
19日(火)	ここで決めよう！ 21卒向け企業説明&選考会（1）	オンライン	実数 30名 （延べ 76名）	2021.3月卒・修了予定の未内定者
20日(水)	ここで決めよう！ 21卒向け企業説明&選考会（2）	オンライン	実数 29名 （延べ 75名）	2021.3月卒・修了予定の未内定者
	WE B業界パネルディスカッション⑮（サービス）	オンライン	25名	2022.3卒・修了予定者
	創業科学研究科キャリアパスセミナー	オンライン	約 25名	大学院生（創業科学研究科）
21日(木)	ステップバイステップ	オンライン	4名	全学年・既卒学生
27日(水)	WE B職場見学⑩	オンライン	29名(2社計)	2022.3卒・修了予定者
	WE B業界パネルディスカッション⑯（輸送用機械）	オンライン	19名	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座⑤（3月企業研究セミナー対策）	オンライン	8名	2022.3卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（ビジネスマナー）	オンライン	3名	名大外国人留学生（全学年）
28日(木)	WE B職場見学⑪	オンライン	26名(2社計)	2022.3卒・修了予定者
	WE B業界パネルディスカッション⑰（輸送用機械）	オンライン	15名	2022.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座⑥（苦手な人のための個人面接対策）	オンライン	12名	2022.3卒・修了予定者
29日(金)	情報学研究科就活ガイダンス	オンライン	—	学部3年・M1（情報学研究科）

キャリアサポートセンターの活動

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
10～1月	キャリア形成論	オンデマンド とオンライン	受講登録 49名・ 聴講者数名	学部2年生以上
	エンプロイアビリティ	オンライン	10名	大学院生

令和3年2月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
3日(木)	就活ミニ講座①（理系学部卒就活生・なんでも相談会）	オンライン	3名	2022.3卒・修了予定者
4日(木)	就活ミニ講座②（おさえておこう！就活への臨み方）	オンライン	11名	2022.3卒・修了予定者
5日(金)	就活ミニ講座③（はじめてのオンライン個人面接）	オンライン	13名	2022.3卒・修了予定者
9日(火)	企業研究セミナー直前 前哨戦ガイダンス	オンライン	60名	2022.3卒・修了予定者
10日(木)	第8回博士人材の交流サロン～博士後期留学生編～	オンライン	6名	大学院生（留学生）
	第5回博士のキャリアパスウェビナー～キャリアパスいろいろ～	オンライン	64名	全学年・教職員（学内外）
12日(金)	就活ミニ講座④（就活なんでも相談会）	オンライン	6名	2022.3卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（ES対策）	オンライン	7名	名大外国人留学生（全学年）
15日(月)	大学院生のためのキャリアガイダンス（2月）	オンライン	3名	大学院生・ポスドク（学内外）
15日(月)～19日(金)	日本語能力試験 N5 対策講座	オンライン	23名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
16日(火)	キャリアサポートセンター×マイナビ社員 就活直前相談会	オンライン	53名	2022.3卒・修了予定者
17日(水)	就活ミニ講座⑤（企業研究からできる自己理解）	オンライン	10名	2022.3卒・修了予定者
	岐阜大学×名古屋大学 若手社員とのオンライン交流会	オンライン	36名 (内名大生 15名)	全学年
17日(水)～19日(金)	Job Fair 2021	オンライン	86名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
19日(金)	就活ミニ講座⑥（実際に企業を選んでもみよう）	オンライン	9名	2022.3卒・修了予定者
22日(月)	社会人スタートアップ講座 新社会人のための好印象メイクリポートセミナー	オンライン	32名	2021.3卒・修了予定者
24日(水)	社会人スタートアップ講座 人生100年時代を生き抜くためのお金の知識	オンライン	41名	2021.3卒・修了予定者
	就活ミニ講座⑦（はじめてのオンライン集団面接）	オンライン	9名	2022.3卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（ES対策）	オンライン	9名	名大外国人留学生（全学年）
	第3回総合イノベーション人材育成システム専門委員会	オンライン	—	コンソーシアム参画の大学教職員
25日(木)	社会人スタートアップ講座 社会人の着こなし講座	オンライン	22名	2022.3卒・修了予定者
	ステップバイステップ	オンライン	3名	全学年・既卒者
25日(月) ～2月28日(日)	「2020年度第9回B人セミナー 企業をいつもと違う観点で理解しよう！」 ①基礎研究から新事業への道/イノベーションを起こす ②企業の種類と分析	オンデマンド	38名	大学院生

令和3年3月イベント一覧

開催日・配信日	タイトル	開催形態	参加人数・閲覧回数	対象者（対象学年等）
1日(月)	WEB企業研究セミナー①	オンライン	延べ3,326名 (4部計)	2022.3卒・修了予定者・既卒者
2日(火)	WEB企業研究セミナー②	オンライン	延べ2,768名 (4部計)	2022.3卒・修了予定者・既卒者
3日(水)	WEB企業研究セミナー③	オンライン	延べ2,192名 (4部計)	2022.3卒・修了予定者・既卒者
4日(木)	WEB企業研究セミナー④	オンライン	延べ1,836名 (4部計)	2022.3卒・修了予定者・既卒者
5日(金)	WEB企業研究セミナー⑤	オンライン	延べ1,285名 (4部計)	2022.3卒・修了予定者・既卒者
9日(火)	就活ミニ講座①（ケース面接を体験しよう！）	オンライン	10名	2022.3卒・修了予定者
11日(木)	就活ミニ講座②（はじめてのオンライン個人面接）	オンライン	13名	2022.3卒・修了予定者
12日(金)	キャリアランチ交流会（面接対策）	オンライン	7名	名大外国人留学生（全学年）
16日(火)	就活ミニ講座③（トップを目指すグループディスカッション）	オンライン	8名	2022.3卒・修了予定者
18日(木)	就活ミニ講座④（苦手の人のための個人面接対策）	オンライン	10名	2022.3卒・修了予定者
	ステップバイステップ	オンライン	5名	全学年・既卒者
18日(木)、19日(金)、 22日(月)、23日(火)、 24日(水)、26日(金)	日本語能力試験 N1 対策講座	オンライン	10名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
19日(金)	大学院生のためのキャリアガイダンス（3月）	オンライン	21名	大学院生・ポスドク（学内外）
23日(火)	21卒対象 進路未決定者特別相談会①	対面・オン ライン・電話	11名	2021年3月に卒業・ 修了予定の進路未決定者
24日(水)	就活ミニ講座⑤（エントリーシート対策）	オンライン	7名	2022.3卒・修了予定者
	キャリアランチ交流会（面接対策）	オンライン	12名	名大外国人留学生（全学年）
	B人セミナー「公的資金申請・獲得のためのガイダンス」	オンライン	118名	大学院生・教職員
29日(月)	21卒対象 進路未決定者特別相談会②	対面・オン ライン・電話	7名	2021年3月に卒業・ 修了予定の進路未決定者
	名古屋大学融合フロンティアフェロシップ2021年度募集説明会	オンライン	169名	大学院生・教職員（学内外）
	名古屋大学融合フロンティアフェロシップ2022年度募集説明会	オンライン	120名	大学院生・教職員（学内外）
29日(月)、30日(火)	ビジネスコミュニケーションのための日本語	オンライン	15名	愛岐留学生就職支援コンソーシアム 参画大学の留学生（全学年）
31日(水)	就活ミニ講座⑥（就職活動の進め方）	オンライン	12名	2022.3卒・修了予定者

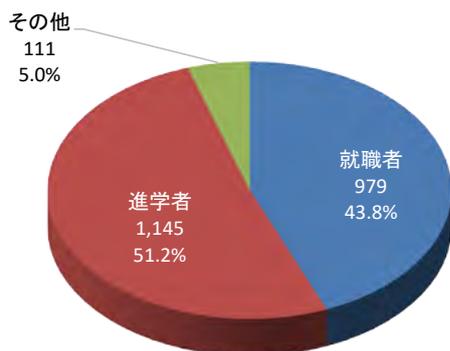
4. 進路状況 (令和2年3月卒業・修了生)

本学の学部卒業生全体のうち、約 51% の学生が大学院に進学し、約 44% の学生が就職している。

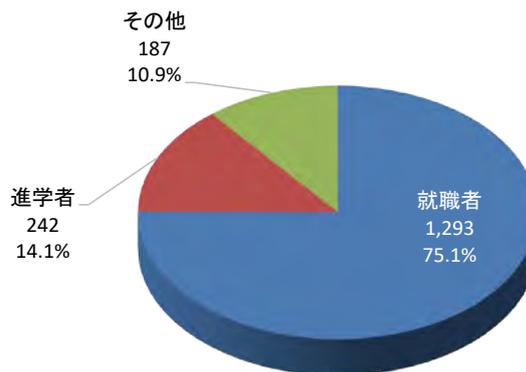
博士前期課程 (MC) を修了した大学院生全体のうち、約 14% の大学院生が博士後期課程 (DC) に進学し、約

75% の大学院生が就職している。

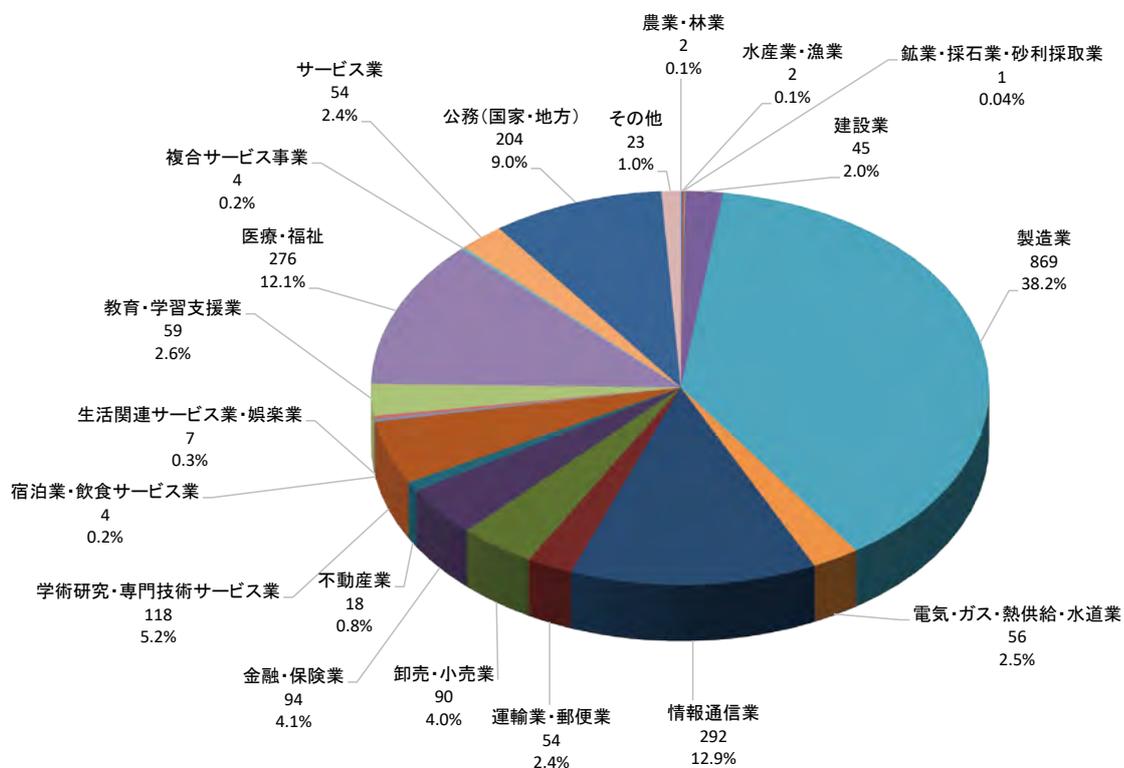
学部生、大学院生を併せた就職先の業種は、製造業が約 38%、次いで情報通信業約 13%、医療・福祉約 12%、公務約 9% となっている。



学部卒業生進路状況



大学院博士前期課程修了生進路状況



産業別集計 (学部・博士前期課程 合計)

キャリアサポートセンターの活動

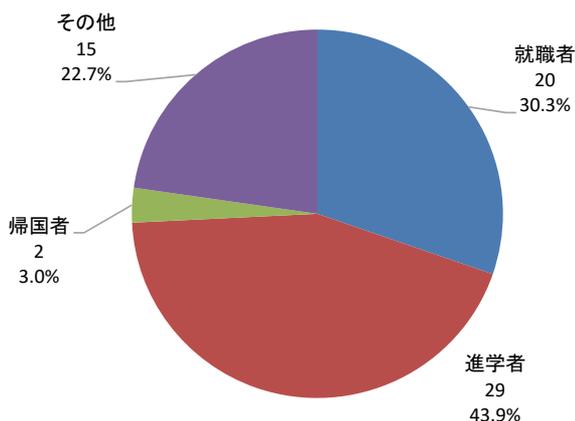
5. 国際学生の進路状況 (令和2年3月卒業・修了生)

本学の学部卒業留学生全体のうち、約44%の学生が大学院に進学し、約30%の学生が就職している。

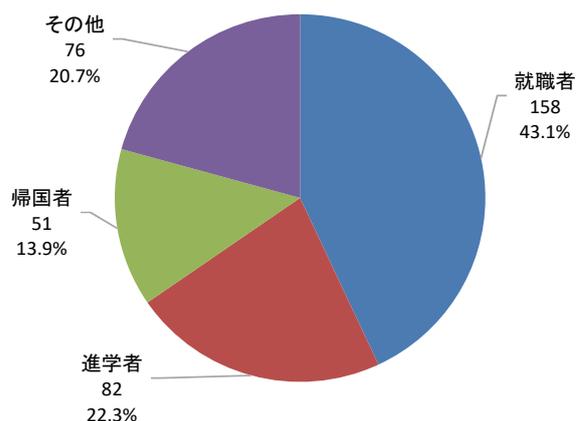
博士前期課程(MC)を修了した大学院留学生全体のうち、約22%の大学院生が博士後期課程(DC)に進学し、

約43%の大学院生が就職しています。

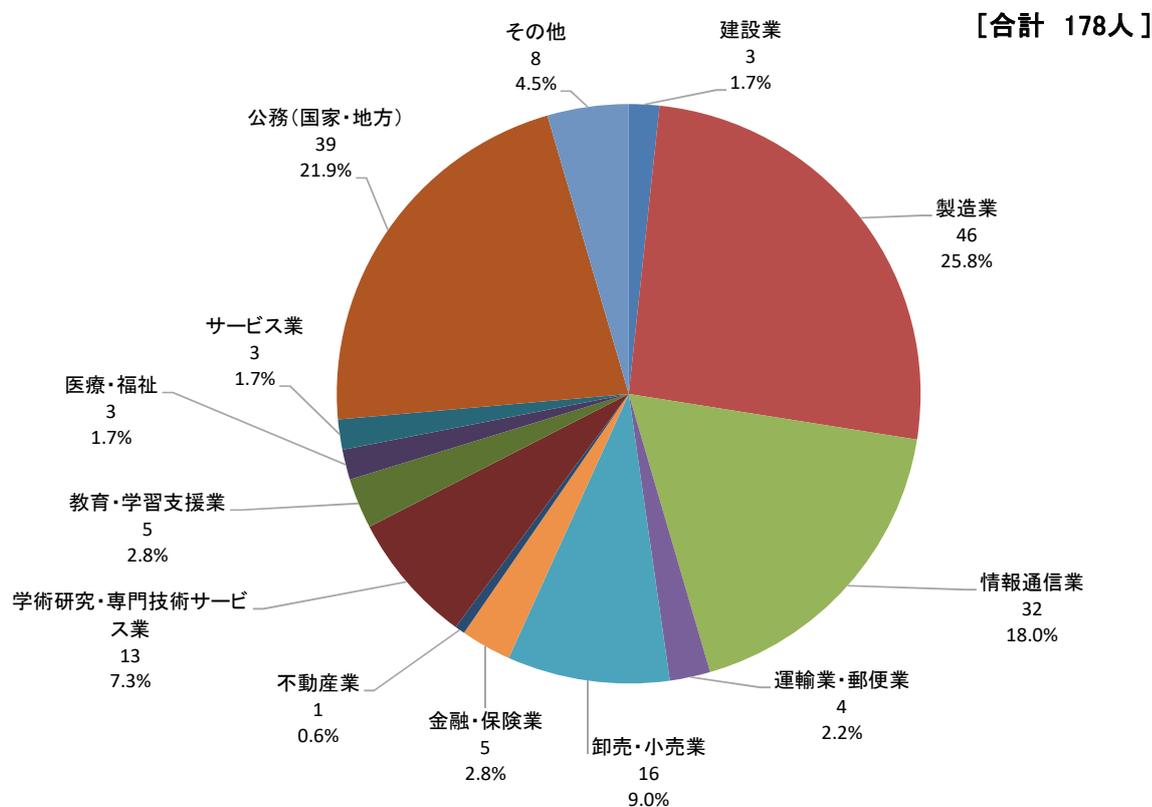
学部生、大学院生を併せた就職先の業種は、製造業が約26%、次いで公務約22%、情報通信業約18%、卸売・小売業9%、と続いています。



学部卒業留学生進路状況



大学院博士前期課程修了留学生進路状況



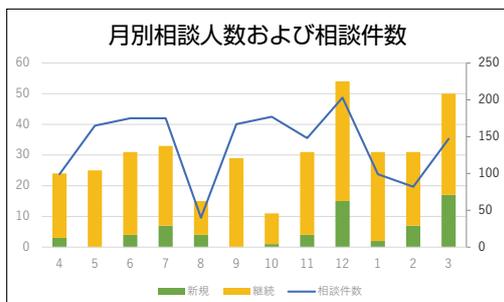
産業別集計(学部・博士前期課程 合計)

1. 個別相談概要と特徴

(1) 個別相談実績報告

・月別相談人数と相談件数

2020年度の月別の相談人数と相談件数を以下に示す。



新規相談者について、例年であれば4月に新入生からの相談があって数が増加するところ、今年度は例年に比べて新入生の相談申し込みが半分であった。相談のあった新入生がすべて高校においても支援を受けていたことを考えると、支援を受けることに慣れていれば支援にリーチできたが、そうでない場合に相談にたどり着くことがなかったものと思われる。その要因が新型コロナウイルス感染症の感染拡大による大学への入構規制、および大学から送られる情報の多さによる混乱と考えることは自然なことに思えた。

相談件数は学期のリズムに合わせるように増減があり、8月は相談が少なく、9月や3月も後半になって次の学期が近づいた際に相談が増えた。他方、大学への入構が可能となった10月は、相談者数は少ないものの、新入生を中心に対面での授業とオンラインでの授業に対応することをめぐって相談件数が増加している。また、冬休み前であり、学期末を控えた12月と翌年度の始まる前の3月に、新規の相談者が増えている。

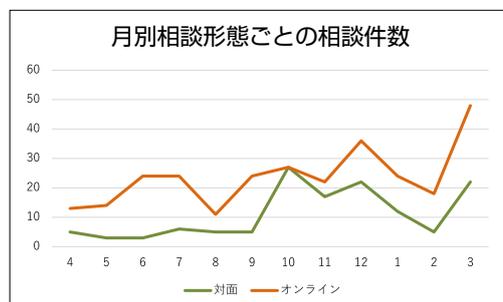
・月別相談者ごと相談件数

2020年度の月別の相談者ごとの相談件数内訳を以下に示す。



年間を通して、最も相談にやってきたのは学生本人（おおよそ50%）であったが、春学期の間は保護者からの相談も多かった（23-30%）。大学に不慣れな新入生において、保護者からの連絡が増えたことと、2年生以上の既存の在学生においても新しい事態への対応として相談が増えていたものと思われる。同様に学期のリズムに合わせるように教職員との連絡や相談も増減していることが伺える。2020年度は障害者支援機関などの外部団体との関わりが非常に薄かった。

・月別相談形態ごとの相談件数



アビリティ支援センターの支援においては、日常的なリマインドや連絡、あるいは教職員との調整などをメールで行うことも多い。そのため、すべての相談が面談の形式で行われるわけではないが、2020年度は新型コロナウイルス感染症への対策のため、初めてオンラインでの面談が取り入れられた。これについて、月別相談件数の対面での面談とオンラインでの面談の内訳を上に表示した。

学生支援センターは大学への入構制限がかかっている間も、必要であれば対面での面談が許可されていたが、それでも春学期は限られた数の相談しか行われず、多くがオンラインでの面談に移行していた。秋学期に入ってからオンラインによる面談の数はほぼ同水準を維持しているが、対面での面談は3.8倍に増加している。これは、学生が授業を受けに大学に来るようになったことに加え、対面による相談を希望したためであるが、その一方で、対面での相談が容易になった後でもオンラインでの相談を希望する学生、もしくはオンラインでの相談を希望する時も少なくなかったことが示されている。

・月別部門別相談件数

アビリティ支援センターは2020年度より、修学支援部門とライフデザイン支援部門とを設置している。これまでの相談を修学に関する支援をお

アビリティ支援センターの活動

こなうものと、大学生活ないしはその後の人生も見据えた支援をおこなうものに分けているが、秋学期より両者を区分しての統計もとり始めた。これについて、相談者ごとの相談形態別の相談件数を以下に示す（1回の相談で両者に関する相談があった場合、それぞれに0.5回とカウントしている）。なお、面談については簡略化のために、対面とオンラインとを合算しているが、部門による面談形態の違いに差はなさそうであった。

月別相談者ごとの相談形態別相談件数

		面談	電話	メール	検査
本人	修学	47.5	4	189.5	4
	ライフデザイン	57.5	0	117.5	12
家族	修学	14.5	5	55	
	ライフデザイン	7.5	4	19	
教職員	修学	18.5	3	114	
	ライフデザイン	0.5	1	2	
外部機関	修学	1	0	1	
	ライフデザイン	1	0	0	

これを見ると、メールによる相談は修学支援に関するものが多く、相談形態全体においてメールの使用頻度が高いこととは別に、修学支援部門としての支援ではより多くの調整をメールを通じておこなっていることが分かる。特にこの差は教職員との連絡・調整において顕著であった。他方、これまでアビリティ支援センターは修学支援を中心として支援を展開してきたが、このように部門を分けて、相談を分けて考えると、生活の仕方や生き方に関わる相談が同様に行われてきたことが明らかとなった。このことは、学生のニーズのあり方の差異を示していると言え、これに沿った支援を提供していく必要性を示唆している。

(2) コロナ禍の特徴

コロナ禍の特徴のいくつかは、FDについての資料（詳細はP.22 参照の通り）の中で触れているが、それは主に春学期の実態を反映したものであった。ここでは、重複も含めて2020年度を通して見られた、アビリティ支援センターでの相談に見られた特徴を概観してみたい。

初めに、目立ったことは、上でも述べたが新生の4月時点での新規の相談が例年の半分であったことである。コロナ禍での大学の新しい授業形態や入構制限への適応、およびアビリティ支援センターへの物理的接近の困難などが影響したものと思われる。しかし、相談件数自体は減少するこ

となく、年間を通して例年と比較して高い水準を維持した。実際、昨年度の相談件数は、学生本人で805件(今年度は1,004件)、家族で111件(296件)、教職員で323件(372件)であった。やはり、コロナ禍への適応、および新しい授業形態への戸惑いや不適応、とりわけ新入生の適応の難しさがあったものと考えられる。言い換えると、少ない人数の学生が、多くの相談をおこなった年度であったと言える。このことは、支援にリーチできた学生とそうではなかった学生との間に潜在的な差ができていることを意味しているとも言え、それがFDにおけるテーマの1つであった。

秋学期に入ると授業形態そのものへの適応はある程度進んだようであった。他方、依然としてオンライン中心の授業に関して、以下のような困難が報告されている。

<困難>

- ・音声途切れたり聞き取りにくかったりして授業に集中することが難しい
- ・一人で授業を受けていると気持ちを維持することが難しい
- ・課題が多く、優先順位をつけてこなすことに困難がある
- ・一人で家にいると気持ちが落ち込む、オンとオフの切り替えが難しい
- ・これまで周囲の人を見てやることを把握していたのが把握できなくなった

オンライン授業に関しては肯定的な感想もあり、以下のようなことが長所として述べられている。

<長所>

- ・録画を何度も見直せるため、理解ができるまで繰り返し視聴できる
- ・録画であるため好きな時に視聴することができた
- ・大学に行かなくて良いため疲労することがなかった、体調を崩す心配がなかった
- ・教室に行かなくて良いため他者の存在を気にすることがなかった

2. その他

(1) 移 転

コロナ禍の最中ではあったが、これまで学生支援センターが入居していた工学部7号館の建て替えに伴って、学生支援センター全体の移転があった。センターの移転先は学生支援棟として学生支援のために使用できる専用施設ではあったが、豊田講堂裏手の坂道を上ったところであったために

アビリティ支援センターの活動

障害のある学生にはアクセスしやすい場所ではなかった。そのため、全学教育棟3階にアビリティ支援センターのみ8月に移転した。この移転によって、個別相談、学生の居場所、サポーターの研修といった機能をアビリティ支援センターの中に統合することが可能となった。

(2) 大人の勉強 benkyo 会の開催

昨年度に始まったものであるが、発達障害のある学生を念頭に、それぞれの特性に合わせた学修の仕方を学び、情報交換や意見交換をおこなうグループ活動として、大人の勉強 benkyo 会を学期期間中週1回(毎週水曜日 15:00 ~ 17:00)開催した。春学期は、入構制限の緩和後も授業のオンライン移行を反映してほとんど参加者はなかったが、秋学期になると時折学生が参加することがあった。さらに1月からは後述するオンライン空間を同時に開放することで大学に来なくともグループ活動に参加できる体制を整えた。

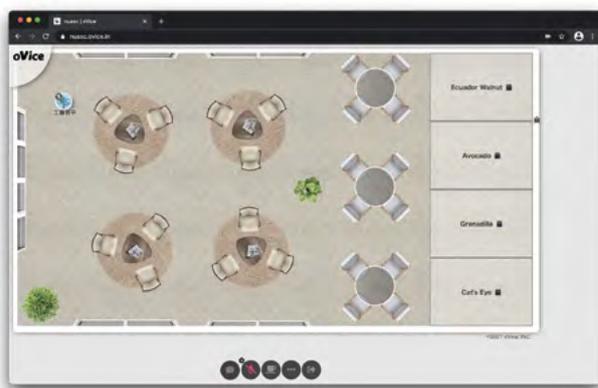
(3) オンライン空間の開設

コロナ禍が無事に終わりを迎えたとしても、大

学におけるオンラインへの移行、ないしはオンラインの活用は今後も進んで行くことが考えられる。授業はハイブリッド化され、オンラインで済むことはオンラインで済むようになって行かだろ。そのため、アビリティ支援センターの機能をオンラインからも利用できる設定を考えることが必要であるように思えた。zoomなどに代表されるビデオ会議システムはコロナ禍において発展したが、空間的な要素を持ったオンラインの交流機能はこれまで十分に発達していなかった。しかし8月ごろから急速に新しいサービスが登場したことを受けて、SpatialChat、oViceなどの試用を開始し、オンライン上の仮想空間にもアビリティ支援センターを設置した。実際に、学生サポーターあいるの研修のいくつかをアビリティ支援センターの部屋とオンラインの空間の両方でアクセス可能にする試みをおこなってみたところ、対面での参加者とオンラインでの参加者のコミュニケーションも十分可能であった。機材等の設定に工夫が必要であり、そのノウハウを蓄積する必要があるが、今後も取り組みを続けることになる。



研修の一場面



oVice の画面

ホームカミングデイ企画（同窓会支援事業）報告

1. ホームカミングデイ企画主旨



今回のホームカミングデイ学生支援センター企画は、当初、大学生とのコミュニケーションであった。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、大学のあり方や家族のあり方が見つめ直される中で、改めて青年とのコミュニケーションを考えると企画に改変された。

また、時節柄ホームカミングデイをキャンパス内でおこなうことは難しく、全面的にオンラインに移行された。これを受けて、学生支援センター企画もオンラインでの開催となった。

ここでは、本企画報告をおこなうが、この企画は、名古屋大学全学同窓会の大学支援事業の助成を受けており、本報告は同事業の報告書も兼ねている。

当日は、第1部：講演（アビリティ支援センター 工藤晋平准教授）、保護者による体験談、第2部：分科会での経験の共有や情報交換、が行われた。本報告もこれに沿って構成されている。

2. 講演「with コロナ，大学生とのコミュニケーションを考える」

青年期の親子のコミュニケーションと、特にコロナ禍において生じつつあるコミュニケーションのあり方についてなど、以降の話し合いのペースとなる事柄について工藤晋平特任准教授が講演した。

(1) 青年期について

初めに、青年期についての概説をおこなった。青年期とは自立の時期であり、この時期ある意味で青年は大人を拒絶する。これは大人の思う自立ではなく、自分なりの自立を果たすために必要なプロセスであるが、心理的に大人を遠ざけ、仲間関係を重視するだけではなく、脳神経学的な発達においても、不安を経験しやすい一方、楽しいことを追求する仕組みは急速に増大するものの、物事を総合的に考えたり他者を考慮する力はゆっく

りとしか増えないことが知られている。

このアンバランスさの中に青年期の難しさが存在している。そのため、親の元には問題が起きた時しか帰ってこないこと、親としては腹立たしいところもあるだろうが、拒否されながら大人になるとはどういうことかを示し、問題を起こして帰ってきた時は分かっていたような顔はせずに驚きを持って迎え入れ、灯台のように道を指し示し、子どもからの拒否に生き残ることが求められることを伝えた。

(2) コロナ禍での青年

続いて、コロナ禍での青年の揺れ動きについて、もちろん分からないことはたくさんあるものの、不安が生まれ、先行きが不透明になっていること、仲間が大事な時期であるにも関わらず仲間と触れ合うことができないこと、さらに自宅にいれば親子の時間が増えそれだけ葛藤が増えやすくなることが考えられることを取り上げた。同様の困難は親の側にも生じうる。不安を押さえることは不自然なことで、それは不適應のもとになるが、せめて不安があるために関係が難しくなることを自覚し、自分の時間を持ったり、家族のあり方を改めて考えることが必要であったり、時に助けになるかもしれないことを話した。

(3) 名古屋大学の取り組み

最後に名古屋大学の取り組みとして、大学への登校が可能になった7月以降、1年生については春におこなうはずであったガイダンスをクラスごとに行い、その後自治会によるクラス結成会につなげたこと、そこにクラス担当の教員の参加を求めたこと、同時にサークルの活動紹介がおこなわれたこと、コロナ禍の中で経済的に困窮した学生に向けて食料支援をおこなったこと、さらに学生と学長が直接対話できる対話企画を実施したことを報告した。また、学生支援センターとしてもコロナ禍において予想された心の問題に対処するための相談活動の活性化、そのアナウンス、また、長期的なストレスへの対処法の周知などをおこなってきたことを紹介した。



3. 保護者の経験談

(1) Aさん



息子さんは理系男子学部生で4年留年をしたが現在は順調に通学をしている。

ちゃんと大学へ行っていると思っていたので、驚いた。私が言うことややこしくなるので、夫が対応してくれた。3留の時からは、大学へ登校できる状況を作ろうと思い、隔週で一人暮らしの息子のところへ行き、身の回りのお世話をした。結局、4留してようやく2年にあがることができた。コロナ禍のオンライン授業も馴染めたようでよかったが、自分が正気を保てない状態だったので支援センターに連絡をして、いろいろ話を聞いていただいた。

私はすごく心配だけど、意外と息子は俺できるかもと思っていて、コロナによって私が子どもから離れる、我慢するということできたのは、逆によかった。

最近息子はジムに通うようになり、自動車学校にも自分から申し込みに行った。

今回久しぶりに名古屋に来て、オンライン授業を受けている姿を見て、1人で画面見る授業はきついなと思いました。どんなにうちみたいに友達を作るのが下手という場合でも、登校して授業を受けるのがいいのではないかなと思った。

(2) Bさん



本人は本学が2つ目の大学で、最初の大学は一度も進級することなく退学した。本人の希望を受け入れ、もう一度入学した。レポート課題が苦手です

2年秋学期より当センターに来談した。

・3年目の夏に乗り越えたこと

本人から、レポートが未提出で、留年してしまう恐れがあると告白され、助けを求められた。学生支援センターに連絡し相談した結果、期限を猶予され、なんとか提出ができた。これをきっかけに、苦しみながらも期限内にレポートを提出し、自分からも教員に相談するようになった。

・ずっと海外赴任だった父親の帰国

海外赴任の夫がたまたま健康診断のために帰国した折、コロナ禍で赴任先がロックダウンし、夫と本人は同じ屋根の下で4ヶ月も机を並べて過ごすことになった。毎日昼食に出かけ、夜は酒を飲みながら一緒に映画を観た。たわいのない時

間を過ごし、いつも笑っていた。運動不足になった2人はゲーム機で運動した。厳格だった夫が4ヶ月間傾聴に徹した姿を目にし、夫は変わったなと実感した。また4世帯に別れた家族がzoomで家族会議をするようになった。そこでは顔を見ながら一週間の出来事話すようにしている。

・心境の変化について

去年の夏にセンターの相談員に『大学だけがすべてじゃない』と言われ、何てことを言うのかと思った。しかし去年のホームカミングデイで他の親御さんの体験談を聞いて、卒業を求めるのは親のゴゴで、どうすべきかは子どもが決めるべきことだと思った。また他のお母様たちからも、高校まで良い子で問題なかったことを聞き、うちも経験がなかった分挫折に苦しみ、それを乗り越えてここに至っている。同じように自分の体験を話すことで、お役に立てたらと思い参加した。

4. 分科会報告

保護者の体験談に続き、参加保護者同士の交流と、コロナ禍での保護者や学生達の状況把握を目的に分科会を行った。ブレイクアウト機能を使い、分科会参加希望保護者3～4名に、学生支援本部各セクションのカウンセラー1～2名がファシリテーターとなり、小グループで自由に対話を進めた。直前の代表保護者による体験談で、家族で学生を支えた保護者スピーカーが非常に具体的勝つ赤裸々に当時の学生の様子や学修生活の困難さ、家族の困窮の様子や自分たちの気持ちを語ったことが引き金になり、グループ内での自己紹介の段階から「自分も語りたい」「聞いてほしい」気持ちが高まっていた様子で、カウンセラーのファシリテートのもと、それぞれの子どもの状況や自分たちの対応などを熱心に語り合う姿が見て取れた。

(1) 分科会グループ内対話事例

新入生と2年生の保護者が集まったグループでは、入学したのにキャンパスで学生生活が始まられなかった親子の非日常下での様子や、子どもたち同様困惑する親の姿が印象的であった。例えば、実家を離れ下宿を始めたにもかかわらず、家から出ることもできず慣れない一人生活の上に、終日オンライン講義と大量のレポート作成に追われ、SNSでのやりとりで次第に元気をなくす子どもの様子に、早々に実家へ引き上げてくることを提案し、当初は下宿での一人生活が続けられないことを残念がっていたが、実家で暮らすことで健康管理ができたことが語られた。同様に下宿生活で困った様子が日々のSNSでのやりとりでわかったが、緊急事態宣言下、移動もままならず、下宿先と実家でSNSでの顔を見ながらの電話でやりとりを続け、料理を教えるなど話し相手になって

ホームカミングデイ企画（同窓会支援事業）報告

いる間にも大学生になっていく子どもの成長が実感できたことなども紹介された。

また、子どものごころから同年代の友人も少なく、大学生活を心配していたが、自宅からのリモートになりさらにクラスメイトとの交流などがなく講義などについていけるか気になっていたが、いきなり始まった書き方もわからないレポートに苦戦している様子が、親である自分もテレワークだったので傍らで見ているとよく分かり、レポートの書き方などを少し教えてやるのがきっかけで、高校時代は気になりながらも父親の自分と話すことがなかった子どもと会話も増えたことはうれしかったし、子どもの様子がよくわかったことは幸いだった。学生がリモート講義や大学に行けない現状でどう困っているか理解できたことは自分にとって勉強になったと語った研究者の親御さんの語りも印象的だった。

ファシリテーターからは、この状況下での学生の様子や大学の様子が報告された。

(2) まとめ



いずれのグループでも、非日常下において、戸惑いながらも子どもとの対話を試み、それぞれの家庭で支援に努力する家族の姿に互いに共感し、グループ内での互いの話の中に新しいアイデアを見つけるなど多くの語らいがされた有意義な分科会となった。

5. アンケートとまとめ

(1) アンケートについて

学生支援センターでは大学がおこなったアンケートとは別に、今回の学生支援センターの企画についてフィードバックを得ることを目的にアンケートをおこなった。その結果を以下に示す。

年代	職業
40代	学部生保護者
50代	院生保護者
60歳以上	卒業生
総計	大学関係者
	その他
	総計

何名で視聴したか	どこから参加したか
1名	センター
2名	自宅
その他	大学内
総計	外出先
	総計

ご参加のきっかけを教えてください	
スタッフからの紹介	12
支援センターからのメール案内	1
知人等から聞いて	6
名古屋大学ホームページ	5
総計	24

参加された理由を教えてください	
興味関心のある内容だったから	18
現在の大学生の様子を知りたかったから	5
仕事上知りたい内容だったから	4
総計	24

第1部の満足度		第2部の満足度	
大変満足	11	大変満足	1
満足	10	満足	16
普通	2	普通	3
不満	0	不満	1
大変不満足	0	大変不満足	0
総計	23	総計	21

企画の終了後すぐにオンラインで回答を求め、25名（参加者の80%）から回答を得た。ほとんどの参加者が企画を通して高い満足度を得られたようである（第1部「大変満足」「満足」91%、第2部81%）。しかし、より長い時間、より多くの人と話しがしたいという声もあり、来年度の課題と考えられた。

(2) まとめ

昨年も保護者企画を行っているが、そこでできた保護者同士のつながりが、その後も続いており、今年度もそうした保護者同士の関わりがあった。今後も保護者同士の関係性の継続が期待される。このことは保護者によるピアサポートないしは自助の会が生まれつつあることを意味し、学生を支える保護者連携へと発展することを期待したい。

他方、OBOGの保護者の参加は少なく、ホームカミングデイとしての主旨を考えれば、この点での改善が求められるであろう。加えて、OBOG自身の参加もできるような企画があっても良いのだろう。

学生支援センターの企画は単に、学生の問題とその対応を知るという学びの機会であるだけではなく、企画開催自体が一つの支援として機能することを目指した活動である。これを推し進める形で、来年度以降も企画を考え、実行してゆきたい。

その他

講義担当

科目名称	対 象	担 当
新入生特別講義「大学生生活入門」	学部新入生必修 1 コマ	学生支援センター：スタッフ全員
青年期を考える一心の健康と将来展望ー	全学教育	学生支援センター：スタッフオムニバス
大学でどう学ぶか	全学教育	船津 静代（就職キャリア相談）
キャリア形成論	全学教育	森 典華（博士人材キャリア支援）・ 船津 静代（就職キャリア相談）
Introduction to Career Development Theory	G30 全学教育	坂井 伸彰（国際キャリア支援）
基礎セミナーB	全学教育	鈴木 健一・杉岡 正典（学生相談）
ピア・カウンセリング	全学教養	鈴木 健一（学生相談）・ 船津 静代（就職キャリア相談）・ 工藤 晋平（アビリティ支援）
健康スポーツ科学（精神医学）	全学教育	（オムニバスのうち一部） 古橋 忠晃（メンタルヘルス支援）
文化事情2（フランス）後期	全学教育	（オムニバスのうち一部） 古橋 忠晃（メンタルヘルス支援）
キャリアデザイン演習	教育学部	（オムニバスのうち一部） 船津 静代（就職キャリア相談）
学校心理学Ⅱ	教育発達科学研究科	杉岡 正典・山内 星子（学生相談）
学校心理学2ー精神分析臨床	教育発達科学研究科	鈴木 健一・山内 星子（学生相談）
プロフェッショナル・リテラシー	大学院共通	（オムニバスのうち一部） 森 典華（博士人材キャリア支援）・ 船津 静代（就職キャリア相談）・ 鈴木 健一（学生相談）・松本 寿弥（教育連携）・ 酒井 崇（共修推進）
エンプロイアビリティ	大学院共通	森 典華（博士人材キャリア支援）・ 船津 静代（就職キャリア相談）

主な講演

日 程	タイトル	対 象	講演者
6月18日	Le séminaire web de l'Association du Congrès de Psychiatrie et de Neurologie de Langue Française (CPNLF) 「ロックダウンとグローバル化したひきこもり現象について」	フランスのメンタルヘルスの専門家	古橋 忠晃
7月29日	第8回東海機構ポストコロナフォーラム・イン・ウェビナー 「発達障害学生に対する様々な支援の実際」	東海機構関係者	鈴木 健一
9月15日	中京大学学生相談センター主催教職員対象講演会 「学生支援における教職員連携 ～多様な学生を支援するために～」（オンライン）	中京大学教職員	松本 寿弥
11月4日	東北芸術工科大学 FD 「自殺防止の観点からハイリスク学生への対応と支援」（オンライン）	東北芸術工科大学教職員	鈴木 健一
11月9日	中部地区矯正管区研修「面接の進め方」	中部地区矯正管区職員	工藤 晋平
11月10日	聖心女子大学 FD「コロナ禍のもとでの大学『適応』を考える」	聖心女子大学教職員	工藤 晋平
11月16日	第58回全国学生相談研修会小講義 T8 「様々な学生相談の取り組み」（オンライン）	全国の学生支援に携わる教職員	鈴木 健一
2月18日	甲南大学学生生活支援委員会主催公開講演会 「コロナ禍と新たな学生支援様式」（オンライン）	甲南大学教職員 学生相談関係者	鈴木 健一
2月24日	2025年へ向けた「組織マネジメント」セミナー（オンライン）	企業の管理監督者	鈴木 健一・ 松本 寿弥
3月9日	名古屋市障害者相談支援従事者初任者研修会 「支援者のケアをどうしましょう」	名古屋市基幹相談支援センター初任者	工藤 晋平
3月10日	愛知県主催 第7回「留学生採用講座」	企業・法人、経済団体、行政機関など	佐藤 幸代
3月16日	名古屋ゲートキーパー講習「自殺予防と学生対応の基礎」	中日美容専門学校教職員	山内 星子

その他の主な学外イベント

日 程	タイトル	対 象	担 当
2020年 12月15日	こころの絆創膏セミナー 「危機下における学生支援のありかたについて ーさまざまな教育現場のこえー」	愛知県の大学教職員	メンタルヘルス 支援

その他

東海国立大学機構における岐阜大学との学生支援連携

アカデミック・セントラル人生構想力教育共創部門会議
 今年度計3回の会議が開催され、第4期目標および工程と2021年度予算を含む、部門計画が検討された。

領域別対話（学生支援領域）

計2回の会議が開催され、東海国立大学機構における学生支援領域（G6）の今後の連携構想を中心に議論が重ねられた。

学生支援担当者会議（現場の支援実践における情報の交換と連携）

- 6月 コロナ禍での両大学現状報告
- 7月 「ひきこもり学生の支援について」
- 8月 「就職支援について」
- 9月 「1次支援について」
- 11月 「名大における周辺支援について」
- 12月 「岐大における周辺支援について」
- 2021年 1月 「学生支援における新型コロナウイルス感染症対策」

上記の各会議を経て、2021年度からは 学生支援連携会議と人生構想力教育共創部門会議の両者によって、連携実践と企画を行っていくことになった（図1、参照）

やろまいワークショップ

キャリア教育の一環としてリーダーシップを学ぶことを目的に、名古屋大学と岐阜大学の学生を対象とした、リーダーシップ教育の専門講師とパートナー企業によるワークショップが開催された。

- 2021年 1月
参加企業：UCC コーヒープロフェッショナル株式会社
- 2021年 2月
参加企業：株式会社エイチ・アイ・エス
- 2021年 3月
参加企業：小林製薬株式会社

自分の可能性を広げるチャンスを探め！
やろまいワークショップ
 名古屋大学と岐阜大学の学生を対象とした、リーダーシップ教育の専門講師とパートナー企業による連携です。グループワークには社会人メンターの皆さんも参加します。【1月参加】は最も一度は口にしたことがある商品を探る発想力企業！

1月14日(水) 18:00-19:00	世界基準のリーダーシップについて学ぶ
1月18日(木) 18:00-19:00	企業からの課題テーマを解決するグループワーク

■期間：毎月2回（1回3時間）※2日程参加必須
 ■対象学生：全学部・研究科、全学年
 ■定員：最大50名（先着順）
 ■開催方法：オンラインzoom

【エントリー方法：1月8日(金)18:00まで】
 ・応募フォームからエントリー
<https://forms.gle/5jgkyk8Dy8tX7w6>

＜ひとつでも気になる言葉があればぜひご参加ください！＞
 ※論理的思考力・アイデア創発の発想力・マーケティング ※経済・人脈
 ※競争力を超えた中堅企業・あなたならではのリーダーシップ ※発想力
 ※社会人とのつながり ※コミュニケーション力 ※グループワーク ※発想力
 ※スキルアップ ※とよくなった経験 ※イノベーション

お問い合わせ先：東海国立大学機構 学生支援ワークショップ事務局 www.ais.ac.jp 東海国立大学機構

自分の可能性を広げるチャンスを探め！
やろまいワークショップ
 名古屋大学と岐阜大学の学生を対象とした、リーダーシップ教育の専門講師とパートナー企業による連携です。グループワークには社会人メンターの皆さんも参加します。【2月参加】日本最大級のサイトを持つ旅行会社！

2月9日(水) 18:00-19:00	世界基準のリーダーシップについて学ぶ
2月18日(木) 18:00-19:00	企業からの課題テーマを解決するグループワーク

■期間：毎月2回（1回3時間）※2日程参加必須
 ■対象学生：全学部・研究科、全学年
 ■定員：最大50名（先着順）
 ■開催方法：オンラインzoom

【エントリー方法：2月4日(木)まで】
 ・応募フォームからエントリー
<https://forms.gle/DgAZTCco32I85Ykq5>

＜ひとつでも気になる言葉があればぜひご参加ください！＞
 ※論理的思考力・アイデア創発の発想力・マーケティング ※経済・人脈
 ※競争力を超えた中堅企業・あなたならではのリーダーシップ ※発想力
 ※社会人とのつながり ※コミュニケーション力 ※グループワーク ※発想力
 ※スキルアップ ※とよくなった経験 ※イノベーション

お問い合わせ先：東海国立大学機構 学生支援ワークショップ事務局 www.ais.ac.jp 東海国立大学機構

自分の可能性を広げるチャンスを探め！
やろまいワークショップ
 名古屋大学と岐阜大学の学生を対象とした、リーダーシップ教育の専門講師とパートナー企業による連携です。グループワークには社会人メンターの皆さんも参加します。【3月参加】あったらいいなをカタチにする医薬品の製造販売会社！

3月11日(水) 18:00-19:00	世界基準のリーダーシップについて学ぶ
3月28日(木) 18:00-19:00	企業からの課題テーマを解決するグループワーク

■期間：毎月2回（1回3時間）※2日程参加必須
 ■対象学生：全学部・研究科、全学年
 ■定員：最大50名（先着順）
 ■開催方法：オンラインzoom

【エントリー方法：3月4日(木)まで】
 ・応募フォームからエントリー
<https://forms.gle/1MwJ999eR617p9>

＜ひとつでも気になる言葉があればぜひご参加ください！＞
 ※論理的思考力・アイデア創発の発想力・マーケティング ※経済・人脈
 ※競争力を超えた中堅企業・あなたならではのリーダーシップ ※発想力
 ※社会人とのつながり ※コミュニケーション力 ※グループワーク ※発想力
 ※スキルアップ ※とよくなった経験 ※イノベーション

お問い合わせ先：東海国立大学機構 学生支援ワークショップ事務局 www.ais.ac.jp 東海国立大学機構

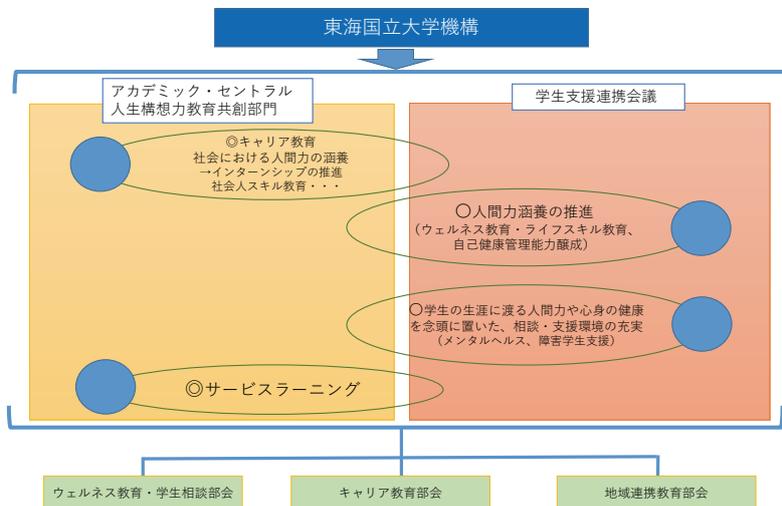


図1 学生支援における大学連携関係図

大学における新型コロナウイルス感染症流行下の 学生支援実践と今後の展開

名古屋大学 山内 星子
名古屋大学 松本 真理子
名古屋大学 織田 万美子
名古屋大学 松本 寿弥
名古屋大学 杉岡 正典
名古屋大学 鈴木 健一

本稿の目的は、大学で行われた新型コロナウイルス感染症流行下の学生支援実践を報告することである。2019年度卒業式の中止を皮切りに、大学のほぼすべての活動は制限され、2020年8月現在も登校禁止の状況が続く。筆者の所属する名古屋大学学生支援センターにおいて行われた支援を、不適応を呈した学生、その家族、関係教職員を対象とした三次支援、現時点では不適応を呈していないがその可能性の高い者を対象とした二次支援、全構成員を対象とした一次支援の3つのレベルに分けて報告する。

キーワード：学生相談、新型コロナウイルス（COVID-19）、オンライン相談、SNS、新入生支援

I 問題と目的

2020年1月ごろから徐々に国内でも広がりを見せはじめた新型コロナウイルス感染症（以下、コロナウイルス）の流行は、大学の活動に大きな変化をもたらした。本実践報告では、コロナウイルス流行に際して行われた、筆者が所属する名古屋大学（以下、本学）における学生支援実践を報告する。

本学では、全国の多くの大学と同様に、2020年3月の卒業式中止を皮切りに、授業はオンラインに切り替えられ、ガイダンスや行事は軒並み中止となった。教科書販売さえも例年と同様には実施できず、屋外に用意されたブースに、大きく距離をとって並ぶ学生たちの姿は、かつて見たことのない光景であった。8月下旬現在、5月25日に緊急事態宣言が解除されて以降一旦緩和されていた制限は再び8月6日に発出された県独自の緊急事態宣言に伴って元の厳しさに戻っている。

コロナウイルス対策に関して大学が独特であるのは、対面の授業や行事を8月現在も大幅に制限している学校が多い点であろう。小、中、高校では、緊急事態宣言解除後に登校が再開され、感染症対策を徹底しながらではあるが学校生活が確保された一方で、大学の日常は依然として失われたままである。8月上旬時点では、一部大学においてはすでに10月以降もオンラインでの講義が発表されており、学生への長期的な負担が予想される。併せて、大学生特有の問題として、一人暮らしの学生の孤立や、自分自身のアルバイト収入によって生活を維持する学生の経済面への打撃が懸念された。

大学の学生支援機関による緊急支援は、精神病圏の学生（例えば、神澤、1996）、自殺（例えば、桜井・太田、2001）、事件、事故、ハラスメント（吉武、2007）など、種々の問題に対して行われてきた。これらの報告における支援対象は個別の要支援者であり、支援範囲は要支援者をとりまく比較的小規模な集団であった。一方で、2011年に起きた東日本大震災では、

巻末付録

学校心理学研究 第20巻 第1号

当時、学校をコミュニティとみなし、その全体に対する支援モデルが浸透してきていたことを背景に（渡邊・窪田，2014），大学コミュニティ全体を対象にした支援が展開され、その報告が散見される。例えば、池田・堀・佐藤・齋藤（2012）は、東北大学において震災後に行われた大学コミュニティへの支援を、来談者に対する個別支援、震災の影響を強く受けた学生とその支援をする教職員に対するハイリスク群支援、全構成員に向けた全体支援に分類し、各レベルの支援の重要性を指摘している。

コロナ禍は大災害と並んでコミュニティ全体かつ構成員全員にかかわる危機であり、本学においても、個別の相談対応から、大学構成員全体を対象とした情報発信など、様々なレベルの支援を模索してきた。本稿では、これらの支援を、池田ら（2012）にならって3つのレベルの支援としてとらえ直し、報告する。その際、Caplan（1964）の考え方にに基づき、個別支援を三次、ハイリスク群支援を二次、全体支援を一次支援と呼ぶ。また、大学に特有の問題にも焦点化し、今後の課題と展望を述べる。

II 支援の実際

1. 本学の学生支援体制

ここでは、本学の学生支援体制の概要を紹介する。本学は、9学部、12研究科からなり、学生総数は約15,800人（学部生約9,600人、大学院生約6,200名）の総合大学である。

学生支援機関として設置されている学生支援センター（以下、センターとする）は、1956年に開始された学生相談に端を発し、1964年の学生相談室設置、2001年の学生相談総合センターへの改組、2019年の学生支援センターへの改組を経て、現在に至っている。支援センター下にはさらに3つのセンター（学生相談センター、キャリアサポートセンター、アビリティ支援センター）が置かれ、学生支援センター長（副総長、文学研究科教授が兼務）、アドバイザーとして学生支援担当副総長補佐2名（教育発達科学研究科教授および経済学研究科教授が兼務）が配置されている。学生相談センターには常勤心理士5名、非常勤心理士6名、常勤精神科医3名、留学生対応教員4名が、キャリアサポートセンターには常勤キャリアカウ

ンセラー4名、非常勤キャリアカウンセラー1名が、アビリティ支援センターには常勤心理士2名と学生相談員1名が在籍し、さらに、受付・事務スタッフが3名在籍している。

また、センターは、移転のため、2020年3月24日から一時閉室、対面相談は同年4月中旬ごろから再開される予定となっていた。

2. 大学全体の状況と学生支援センターの対応

コロナウイルス感染者が国内で200名を超え、対策が講じられ始めた2月末から現在までの国内と大学全体、センターの状況と対応を表1に示す。本学では、教育や研究、事務業務などいくつかの活動種別ごとに5（全てオンライン）～1（感染防止対策を行った上で対面可）の警戒レベルを設定しており、学生に最も関連のある教育（講義・授業・演習、実験・実習）種別では、2月下旬から多くの行事等の中止が決定し、4月9日にはレベル3（講義はオンライン、演習、実験・実習は必要な場合に限り人数を限って対面可）、4月17日からの約一か月間は最高レベルの4（講義・演習はオンライン、実験・実習は対面が不可欠な場合のみ可）となった。6月1日以降はレベル2に緩和されたものの、依然として講義・演習は原則オンライン、実験・実習は人数制限が行われている。センターでは状況に合わせて、様々な支援を検討した。以下、支援を3つのレベルに分けて報告する。

3. 三次支援（個別支援）

(1) 学生に対する個別相談、グループ活動

ここでは、三次支援として、センターのカウンセリング、精神科診療、キャリアカウンセリング、障害学生支援相談、小グループ活動といった要支援学生に対する個別の支援状況について報告する。

センターでは、それまで使用していた建物が取り壊しとなるため、3月末で移転を予定していた。移転作業が本格化する3月24日までは通常の個別相談業務を行い、3月25日から、移転先の面接室が整備できるまでの間対面相談は休止に入った。この時点での対応は予定通りであり、来談学生には前もってカウンセラーから周知するとともに、新規学生に対してはホームページ（以下、HP）上でセンターの休止を通知した。

大学における新型コロナウイルス感染症流行下の学生支援実践と今後の展開

表1 コロナウイルス流行下における学内外の状況と対応（全て2020年）

時期	学外の状況	学内の状況	支援センターの活動
2月下旬	小・中・高校の一律休校要請	ガイダンスの中止決定 遠隔授業が決定	HPに心配があれば連絡するよう メッセージ掲載, Twitterにてコロ ナウイルスに関する情報発信を開始 (以降, 毎日更新)
3月上旬		入学式, 卒業式が中止	HPに心のケアに関するメッセー ジ掲載
3月11日	WHOによるパンデミック宣言	総長メッセージ発表, 警戒レベル 最高 ※学部生全面登校禁止, 大学院生 原則登校禁止	
3月下旬			センター移転のため, 相談をス トップ 新入生アンケート回答締切
4月上旬			HPに, 心理教育資料掲載
4月7日	緊急事態宣言 (7都道府県, 愛知県は独自の宣 言)	総長メッセージを更新, 最高の警 戒レベルを維持, 遠隔授業実施を 告知	対面相談の原則中止 電話, メール, ビデオ通話による 相談, グループ活動を開始 新入生アンケート結果による要支 援学生への連絡開始
4月7日	緊急事態宣言(全国)		
4月中旬		教育活動レベル3となる	センターHPに, 長期化するコロ ナウイルス流行の影響下における 心理教育資料をアップ SNSによる新入生つながり支援を 開始
4月下旬		教育活動レベル4となる	食糧支援を開始
5月15日		総長メッセージを更新, 教育活動 レベル3に引き下げ ※大学院生の登校, 研究活動制限 が条件付緩和	
5月25日	緊急事態宣言が解除		対面相談が再開
6月中旬		教育活動レベルが2に引き下げ	言語科目, スポーツ実習担当教職 員との連携開始
7月24日	再度感染者の増加が報じられる	総長メッセージを更新, 最高の警 戒レベルに再度引き上げ, 登校に よる定期試験全面中止	HPに, コロナウイルス流行の長 期化による影響についてのメッ セージを更新
8月6日	県の緊急事態宣言発令(～24日)		
8月26日			総長と学生のオンライン対話イベ ントを開催

しかし, 4月7日に愛知県の緊急事態宣言が発令されると, 学生の構内への立ち入りができなくなった。これに伴い, 緊急度の高い学生については対面相談を維持する一方, 他学生については原則として電話,

メールとビデオ通話によるオンライン相談を行うこととなった。カウンセラーはセンター利用者に連絡し, HPやTwitterでこの旨通知を行った。また, 教職員も交代でテレワークを行うこととなったことから, 大学

巻末付録

学校心理学研究 第20巻 第1号

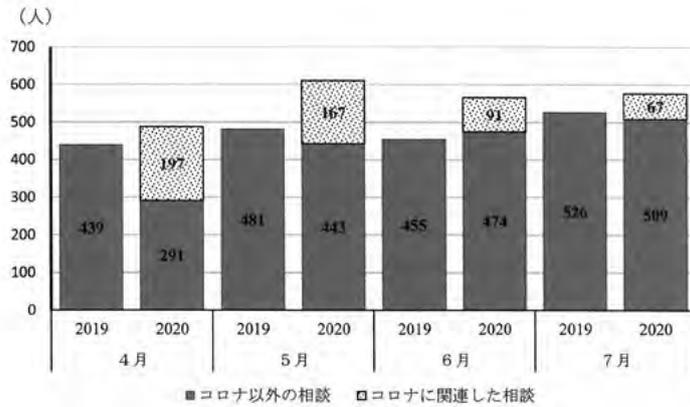


図1 4月から7月の相談人数

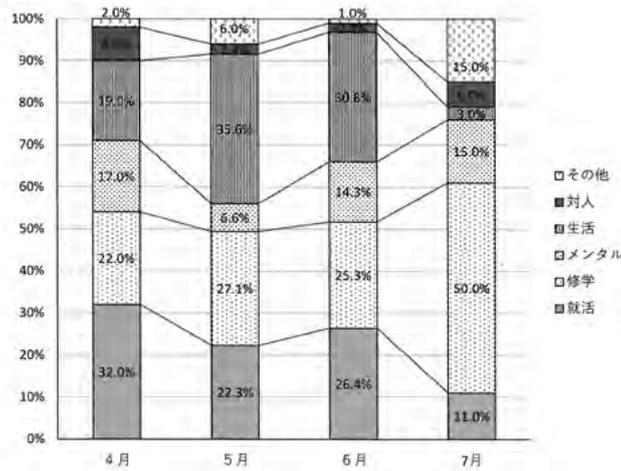


図2 コロナウイルス流行に関する相談内容の内訳 (%)

から携帯電話が貸与され、自宅からの電話相談が可能となった。遠隔相談に際しては、プライバシーが守られる場所での通話、録音・録画の禁止等を明記した同意書を作成し、メールによって学生に共有した。

相談業務が通常と異なる態勢に入った4月から、直近の7月までの相談人数を図1に、相談内容を図2に示す。2019年度と比較すると、いずれの月においても相談人数が多くなっているが、その上乗せ分はコロナウイルス流行に関連した相談であることが分かる。特に4月はコロナウイルス関連の相談割合が多い。これは、遠隔授業や大学の登校禁止等についての現実的な相談が多かったこと、一方で、従来から利用していた学生で、比較的安定している場合には一旦カウンセリングを休止しており、コロナウイルスに関連しない

相談は減少したことが考えられる。7月にかけて、徐々にコロナウイルス関連の相談割合は減少しつつあるものの、7月時点でも67名の相談があり、今後の推移を注視していかなばならない。

相談内容については、臨床心理士2名によって6カテゴリに分類したものを図2に示した。「就活」は、就職活動に関する相談、「修学」は、オンライン講義や履修登録、課題、研究活動等、修学に関連した相談、「メンタル」は、抑うつ的な気分や不安、無気力など、メンタルヘルスに関する相談、「生活」は、経済的な困窮や、ステイホームによる生活の乱れなどの相談、「対人」は、活動制限によって対人関係を持つことが難しい、指導教員や他学生とのコミュニケーションについての相談などである。月ごとにみても

と、4月には就活、5月、6月は生活、7月は修学に関する相談が多くなっている。就職活動は3月末ごろから合同説明会の中止や、活動の多くがオンラインに切り替わるなど状況が変化しはじめ、4月にはこれらの変化に対する学生の不安の高まりや情報収集へのニーズが高かったことがうかがえる。5月には生活支援金等の経済支援がはじまり、この制度に関する問い合わせや相談が増えたこと、また、コロナウイルス流行が長引き、経済的な状況が悪化したことによって「生活」相談が増加した。7月はテストやレポートの時期に入り、単位の心配や、オンライン講義からの脱落に関する相談が増加した。コロナウイルス流行とその対策が長引く中で、学生の相談内容も変化してきたことが分かる。

グループ活動としては、学生数名が集まってボードゲームをする「ゲームの会」、最近読んだ本の感想を共有する「読書の会」、就職活動に難しさを感じている学生のための「ステップバイステップ」等、種々の活動を行っていたが、これらもビデオ通話を使った活動へ切り替えた。この変更によって、中には参加が難しくなった学生もいたが、従来と変わらず参加を続ける学生も多く、またそれらの学生のニーズは高かった。

(2) 教職員・家族支援

このコロナ禍においては、学生のみならず、教職員、学生の家族にも動揺が広がった。教職員からは、指導生が県をまたぐ帰省をしたいと言っているがどう対応するか、学生のストレスをどうサポートするか教えてほしいといった相談などが寄せられ、メール、電話や対面の相談を行った。家族からも、子の感染リスクを心配するメールや、逆に、登校が許可されないことへの不満など様々な意見が寄せられ、要望や意見を大学上層部に伝達するとともに、不安、怒りへの対応に努めた。また、従来からセンターを利用していた教職員や家族には、メールや電話を用いた相談を継続した。

4. 二次支援（ハイリスク群支援）

ここでは、潜在的に支援が必要と考えられるハイリスク学生への支援と、それらの学生を支援する教職員との連携について報告する。

(1) 新入生支援

2020年度、本学には2175名の学部新入生が入学した。新入生らは、入試の時点からコロナウイルス流行が懸念され、入学手続きの時期には4月からの行事の中止が発表されるなど、不安定な状況の中の入学を余儀なくされた。大学に通うことなく登校禁止となったことから、在学生に比して特に不安が高くなっており、重点的に支援を行う必要があると考えられた。

本学では、30年以上前から新入生に対するアンケート調査を行ってきたが、2014年度から徐々に内容を見直し、2019年度から、心理的基盤（自尊感情、人生満足度ほか）、心理的リスク（抑うつ、不安）、発達障害（ASD、ADHDほか）等について尋ねている。2020年度は対面による回収の機会がなくなったため、3月31日締め切りでの郵送およびWeb回答としたところ、回収率は93.7%（有効回答数2040名）であり、例年と同水準であった。昨年度と結果が大きく異なる項目として、結果のフィードバック希望の有無がある。昨年度は、フィードバック希望者が25.3%（512名）であった一方、今年度は35.2%（637名）と大幅に増加した。この背景には、コロナウイルスの流行に伴う自分自身の心理状態への不安や、大学と何らかのつながりを求める新入生の心情があると考えられた。

例年、アンケートの結果から、抑うつ、不安、発達障害傾向が高いなど、支援が必要と考えられる学生には個別に連絡し、対面相談による支援を行ってきたが、2020年度は基本的にはメールによる支援を基本とし、状況に応じて電話、オンライン、対面相談によって対応していくこととなった。急ぎ声掛けが必要な一群として、希死念慮が高い、すぐにセンターに相談したい、センターからの連絡が欲しいと回答した新入生を対象としたところ、約200名（9.8%）が声掛けの対象になった。4月中旬からメール連絡を開始した結果、返答率は20%を超え、2019年度の返答率である13%（「支援は必要ない」という返事を含む）を大きく超えた。この要因としては、フィードバック希望と同様に、新入生が大学とのつながりを求めていることや、コロナウイルス流行による不安や困り感の高さ、対面相談に比してメール相談の敷居の低さなどが考えられた。返答があった新入生に対しては、メール相談を行うとともに、特に希死念慮が高い新入生については電話相談に移行したり、対面相談を行うなどした。

巻末付録

学校心理学研究 第20巻 第1号

この声掛けによってつながった新生生の多くは、コロナウイルス流行下における学生生活に不安を抱えていた。新生生によるコロナウイルス関連の訴えは、大きく以下の3つに分けられる。1つめは、4月から一人暮らしを始めた新生生の孤独である。親元を離れて下宿を始めたものの、大学への登校は数回にとどまっていた。一部の学部、学科にはSNSのグループなどができていたもののやりとり回数は少ない様子であった。県をまたいで移動の自粛が求められる中、帰省することもできず、孤独が深まっていた。2つめは、履修登録や授業に関する情報の圧倒的不足である。通常であれば、大学からの公式な情報の他に、同級生や上級生から得た情報があるが、これが得られない状況で、不安を抱える新生生が多かった。中にはSNSを活用してつながりを広げたり、情報を得る者もいたが、オンライン上では自ら積極的に情報にアクセスすることが求められることもあり、そういったことが得意でない新生生は苦戦していた。3つめは、入学前から抑うつ傾向や不安傾向のあった新生生の状態の悪化である。声掛けの対象となった新生生の中には、高校時代やそれ以前から不安を感じやすかったり、抑うつ的な症状があったと話す場合も少なくなかった。そのような学生には特に、外出しないことによる生活リズムの乱れや対人関係の減少などの影響を強く受け、調子を崩しているようであった。

このような新生生の状況を踏まえて、新生生がクラスのメンバーとつながることのできる支援を検討した。新生生は、学部ごとに、約40名ずつのクラスに分けられている。これを利用し、コミュニケーションアプリで各クラスのグループを作成した。大学のe-learningシステムから全新生生に呼びかけを行い、6月末までに約98%の新生生がグループに参加した。また、上級生にも協力を呼びかけ、新生生の交流のファシリテートを依頼した。一部のクラスでは、このアプリを利用してクラス代表決めやビデオ通話によるクラス会が実施されるなど、学生同士の交流が生まれた。さらに、本来であれば入学手続きの際に行われる部活、サークルの勧誘が実施できなかったという状況に鑑み、部活、サークル紹介や新歓に関する動画、情報の配信などをサポートした。

(2) 食糧支援

コロナ禍においては、経済的損失の大きさが指摘さ

れ、大学生においてもアルバイト機会の減少や、親の失業など、経済的困窮が心配された。このような中、食事ができないほどの困窮学生がいるとの情報を得たため、センターが中心となって困窮状態にある学生の食糧支援を開始した。HP等でも食料の寄付を募り、センタースタッフ、関連事務職員、最終的には学生の協力も得ながら食料の受け取りや保管、学生への配布を行った。感染症対策を慎重に行いながらの作業となった。4月から開始したこの支援は、企業やOB・OG、地域の方々、大学関係者、その他多くの人たちの温かい支援に恵まれ、最終的にのべ4000名の学生に食料を配布した。学生からは、「本当に助かった」「支援の重みを感じた」などの感想が聞かれた。

(3) 教職員との連携

ハイリスクな学生をできる限り支援につなげるため、受講者数の多い言語科目やスポーツ実習を担当する教員、担当事務との連携を強化した。欠席が目立つ学生や、全く課題を提出しない心配な学生について情報提供を受け、必要な支援を個別に行った。

5. 一次支援（全体支援）**(1) HPによる発信**

センターのHPは、これまでも相談時間やアクセス、スタッフ紹介などの発信に活用されてきた。大学への学生の立ち入り禁止やオンライン授業の開始に伴いWeb上で情報収集をする学生や家族が増えることが予測されたため、更新頻度は通常時よりも大幅に増やし、迅速な情報発信に努めた。加えて、長期化する自粛生活の中で疲労やストレスを抱えている構成員のために、コロナウイルス流行に際して起こりうる心理的反応や、自宅学習についての提案、ストレスへの対処法といった心理教育的コンテンツを動画なども用いながら提供した。

(2) SNSによる発信および学生の状況の把握

センターのTwitterアカウントは2017年に開設されていたが、積極的な活用がされていなかった。コロナウイルス流行が広がる中、情報発信のツールとして、大幅に更新頻度を増やした。履修登録や各種手続き、支援金や食料支援などの情報に加え、写真や映像コンテンツ、ステイホーム中のおすすめの過ごし方など、HPよりも、学生にとって親しみやすい情報の形を意識しながらの発信を心がけている。フォロワーは

大学における新型コロナウイルス感染症流行下の学生支援実践と今後の展開

1000名を超え、ダイレクトメッセージを通して相談を寄せる学生もおり、センターとして相談の間口を広げることができた。また、Twitterは、情報発信のみならず、学生らのツイートを確認し、その時々での学生の状況、心配ごとや不満を把握するツールとしての役割も果たしている。直接学生と会えない状況の中、支援の方向性を検討するにあたって、Twitterを通じて得られる学生の状況は大きな手掛かりとなっている。

6. 今後の支援計画

2020年8月下旬現在、コロナウイルスは再流行し、愛知県独自の緊急事態宣言に伴って再び大学の警戒レベルが上がっている。オンライン授業や移動の自粛に耐えた学生らのストレスは限界にきており、SNS上では大学の説明不足や、執行部への不信感を目にするものが多くなった。このような中、執行部にこの声を伝え、センター共催で、オンラインでの総長と学生との対話イベントが実現することとなった。また、新入生のつながり支援をさらに充実させるべく、新入生へのセンター特別講義の開催も予定しており、今後も状況を注視しながら必要な支援を展開する予定である。

IV 考察と今後の展開

本稿では、コロナウイルス流行下における名古屋大学学生支援センターの学生支援実践を、三次支援、二次支援、一次支援に分けて報告した。コロナウイルス流行下における大学の特殊性は、大学の活動制限が2020年8月時点でも厳しく継続されていることと、そのことによる学生の孤立、抑うつや深刻化などの心理状態の悪化、自身のアルバイトによって学費や生活費の支払をしている場合の困窮であると考えられた。

本報告において記述した支援は、活動制限の解除の目的がたたない状況の中で、構成員のニーズに応じてその都度行われてきたものである。しかし、支援の実際をまとめると、コロナ時代の新たな大学コミュニティのあり方を模索する試みであったと思われる。コロナウイルスが流行しはじめた当初、学生同士、教職員と学生、場合によっては教職員同士でさえも、一時つながる手段を失い、コミュニティは分断されてしまった。センターでは、本来そこにあるべきであったつながりを、新たな手段を用いて再生することを支援

する試みであったと言えるだろう。具体的には、三次支援ではこれまで試みられたことがなかった新たな相談形態（オンライン、電話、メール）に、従来の対面相談を加えたハイブリッド型として運用を開始し、また、二次支援では、学生同士がつながるためのSNSの枠組みを提供することで新入生コミュニティ発生の支援を目指し、一次支援では、センターや大学からの発信をより多くの構成員が受け取るように工夫することによってコミュニティ全体が情報や思いを共有することを支援した。コロナ状況下におけるコミュニティの分断は大学の構成員にとっても、学生支援の担当者にとっても苦しかったが、従来のつながりの方法に加えて、新たなコミュニティの形を支える可能性のある手段を得たことには大きな意義があったと言える。一方で、オンラインツールを活用した支援には、セキュリティの問題や、利用者が遠方にいる場合の支援の限界など、いくつかの課題も指摘されている（例えば、American Psychological Association, 2013）。今後従来の大学活動が戻ってきたときには、多様な構成員が多様な形でつながっていくための新たな選択肢として、課題を解決しつつ、オンラインツールの活用を充実させることが重要と思われる。

今後の展開として、次の2つが考えられる。1つめに、学生の顔が見えない現状であるからこそ、学部執行部や教職員、学生の家族との連携、すなわち大学におけるチーム支援の体制を強化していくことである。齋藤（2015）は、より望ましい学生支援を行うにあたって、学生を取り巻く対人ネットワーク全体を視野に入れることの重要性を指摘している。この指摘は学生の顔が見えないコロナウイルス流行下においてはさらに重要性を増す。学生が自発的に申し込んでくることを待つのみならず、授業や演習、実習を受け持つ教員からの情報、事務職員の情報提供を手掛かりとしつつ、必要な支援を探ることが求められている。「チームとしての学校」体制が叫ばれて久しいが、大学の規模や学生の年齢、状況などを考慮しながら、チームとしての大学教職員や家族との連携による学生支援のあり方を模索していくことが必要であろう。2つめに、コロナウイルスの流行による活動制限は、大学において2020年度秋学期もしばらく続く見通しである。このような事態が長期化することで、初期とは異なる心理的反応が出てくる可能性がある。喪失体験や災害時

巻末付録

学校心理学研究 第20巻 第1号

における心理的反応の知見（例えば, Raphael, 1986）を援用するとともに学生のモニタリングを継続し, 予防, 早期の危機介入が可能な支援モデルの構築が求められている。

以上, 本稿ではコロナ禍の大学学生支援実践の報告を通して, 今後の課題と展開について考察を加えた。状況の長期化を視野に入れ, 今後も新たな大学学生支援モデルのあり方を検討していきたい。

引用文献

- American Psychological Association 2013 Guideline for the Practice of Telepsychotherapy. *American Psychologist*, **68**, 791-800.
- Caplan, G. 1964 Principles of Preventive Psychiatry. New York: Basic Books (新福尚武 (監訳) 予防精神医学 朝倉書店)
- 池田忠義・堀匡・佐藤静香・齋藤未紀子 2012 東日本大震災後の大学コミュニティにおける学生相談活動の展開—「結(ゆい)プロジェクト」による震災直後からの初期活動 コミュニティ心理学研究, **15**, 85-98.
- 神澤創 1996 学生相談室の機能についての一考察：精神分裂病圏学生の援助事例を通じて 学生相談研究, **17**, 99-107.
- Raphael, B. 1986 When Disaster Strikes: How Individuals and Communities Cope with Catastrophe. New York: Basic Books (石丸正 (訳) 1989 災害の襲う時—カタストロフィの精神医学 みすず書房)
- 齋藤憲司 2015 学生相談と連携・協働—教育コミュニティにおける「連働」 学苑社
- 桜井育子・太田裕一 2001 危機介入における連携(その1): サポートシステムとして家族が機能しない事例の場合 学生相談研究, **22**, 105-112.
- 渡邊素子・窪田由紀 2014 心理危機状況の分類と支援のあり方について 名古屋大学教育発達科学研究科紀要 **61**, 147-154.
- 吉武清實 2007 危機介入とコンサルテーション 植村勝彦(編) コミュニティ心理学入門 ナカニシヤ出版 pp.95-117.

謝辞

本稿における学生支援実践は, 名古屋大学学生支援センターの全スタッフによって行われたものです。本学生支援にかかわったすべてのスタッフ, 関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

■ Practice of University Student Support during the Spreading of COVID-19

Hoshiko YAMAUCHI, Mariko MATSUMOTO,
Mamiko ODA, Hisaya MATSUMOTO,
Masanori SUGIOKA & Kenichi SUZUKI

The purpose of this paper is to report on a practice of university student support during the spreading of COVID-19. Beginning with the cancelation of the 2019 graduation ceremony, almost every activity in the university has faced limitations. The campus continues to be closed to students to this day in August 2020. Reported are three levels of student support by Nagoya University Student Support Center: Tertiary support of the maladapted student, their family, and concerned faculty/staff; secondary support of those at risk; primary support of the entire university membership.

Key words : student counseling, COVID-19, online consultation, social networking services, freshman support (2020年9月1日受稿, 2020年10月21日受理)

学生支援本部スタッフ一覧

(2021年4月1日)

学生支援本部スタッフ (2021年4月1日現在)

本部長 佐久間淳一 (副総長、学生支援担当)
 副本部長 鈴木健一

学生相談センター

カウンセリング部門	教授(承) 鈴木健一 [○]	准教授(承) 杉岡正典	助教 山内星子	相談員 小橋亮介
教育連携室	講師 松本寿弥	学術専門職 織田万美子		
メンタルヘルス支援部門	准教授 古橋忠晃	助教 長島渉	特任助教 横井綾	
共修推進部門(兼任)	教授(承) 田中京子	特任准教授 高木ひとみ	特任講師 酒井崇	特任講師 和田尚子

キャリアサポートセンター

就職キャリア相談部門	准教授 船津静代	助教 竹本美穂
就職支援部門(兼任)	教授(承) 土井康裕 [○]	
博士人材キャリア育成部門(兼任)	特任准教授 森典華	
国際キャリア支援部門	学術専門職 佐藤幸代	学術専門職 小嶋緑

アビリティ支援センター

修学支援部門	准教授(承) 工藤晋平 [○]	相談員 茂大祐
ライフデザイン支援部門	障害者支援専門職 井手原千恵	

非常勤カウンセラー

学生相談センター							
カウンセリング部門	大田知里	堀 匡	江副文美	大塚毬絵	二村真太郎	リママユミ	二宮有輝
キャリアサポートセンター							
就職キャリア相談部門	栗原リエ						
アビリティ支援センター							
修学支援部門	内藤円佳						

* ○ : センター長
 (承) : 承継枠教員ポスト



名古屋大学 学生支援本部

学生支援棟
 ・学生相談センター
 ・キャリアサポートセンター

全学教育棟3E
 ・アビリティ支援センター

東山キャンパス保健管理室
 ・メンタルヘルス支援部門

IB電子情報館
 ・共修推進部門

開室時間
 月～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

連絡先
 TEL 052 (789) 5805

E-mail
soudan@gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp

住所
 〒464-8601 名古屋市千種区不老町
 名古屋大学学生支援本部

ホームページ
<http://gakuso.provost.nagoya-u.ac.jp>